

256

256 土師器（壺） 古墳前期
 亀井北遺跡 (RD18.8・H22.8) 文献.119

試掘調査の際に出土したため詳細な出土位置や出土状況は不明であるが、方形周溝墓のマウンド上から出土したと思われる。口縁部は外側に開き、段を有してさらに外側に開く。口縁端部は丸くおさめる。体部はややなで肩の球形を呈し、底部に径8cmの焼成後の穿孔を施す。方形周溝墓のマウンド上に供献されたものと考えられる。(後藤)



257

257 土師器（壺） 古墳前期
 久宝寺遺跡 (rd26.2・h5.7) 文献.145

前方後方形周溝墓の西側くびれ部付近の、周溝上層から出土。

この付近から集中して出土した複合口縁の大形壺片は、本来は墳丘上に存在していたと考えられている。土器は全周の1/6程の残存だが、口縁外面に波状文が施され、その上に円形浮文が貼付されている。弥生末から古墳初頭に位置づけられる。(本間)



258

258 土師器（壺） 古墳前期
 久宝寺遺跡 (RD10.5・H15.4) 文献.145

前方後方形周溝墓の西側くびれ部付近の、周溝最下層から出土。墓上から完形のまま転落したと推定される。

球形の体部から上方に頸部が立ち上がり、口縁部が大きく外反する広口壺で、口縁端面、口縁内面、体上部に加飾がみられる。

弥生末から古墳初頭にかけての土器の編年観にはさまざまな見解がある。(本間)



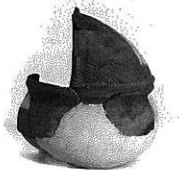
259

259 土師器（手焙形） 古墳前期
 亀井北遺跡 (RD15.4・h9.4) 文献.118

土坑から出土。土坑の北側には住居が広がり、集落のはずれに位置する。半球状の覆部を欠くが、鉢部と覆部が別々に作られ接合された痕跡が残る。鉢部の口縁部は受け口状をなし、外面には斜線文と沈線文が施される。口縁部内面には煤が付着する。同様例は東大阪市瓜生堂遺跡、八尾市美園遺跡にあり、開口部や覆部にも付着する。祭祀用の土器であろうか。(小野)



260



260 土師器(手焙形)

古墳前期

久宝寺遺跡

(MD18.0・h19.0) 文獻.145

南北方向に流れる河川の上層から出土。底部は欠損しており、偏球状の体部外面に、刻みを施した1条の突起がめぐる。口縁端部に覆部を接合させ、鉢部と一体化する形態をとり、その接合部にも刻みを施している。覆部に綾杉文を意識した直線文や、鉢部に円弧状の連続文を施すなど、多種類の文様をつけるものは珍しい。(本田)

261



261 土師器(手焙形)

古墳前期

美園遺跡

(MD17.0・h12.0) 文獻.104

前期溝の周辺の包含層から出土。本例の覆部周縁には凹線文と竹管を押しした浮文、体部に櫛曲斜線文、鉢屈曲部にヘラ刻みがみえる。後世の手焙り火鉢に形態が似るのでこの名が付いた。用途は明確ではないが、関東から九州まで出土例は多い。当遺跡でも弥生後期後半から古墳前期にいたる16点と、出土数が多い点が留意された。(井藤⁹⁶)

262



262 東海系甕

古墳前期

佐堂遺跡

(RD15.4・H25.0) 文獻.113

包含層から出土。口縁部の立ちあがりは屈曲が弱く、端部は外側にやや肥厚気味である。器壁は5mmと厚手である。指オサエ成形による脚台端部は裏面に折り返す。体部外面は、上半部に左下がり、下半部に右下がりの粗いハケメが施される。内面は下半部の器壁の厚い部分に、下から上へヘラケズリしている。口縁部から体部下半部には煤が付着している。(奈加)

263



263 山陰系器台

古墳前期

久宝寺遺跡

(RD18.7・H10.0) 文獻.144

周溝墓の周溝下層から出土。周溝内の地覆層が形成される以前に、周溝内に入れられていたものと考えられる。焼成前に底部に孔をあけた複合口縁壺とセットで出土することもあり、祭祀や儀礼に関する遺物とみられる。この形の器台は山陰地方に多くみられ、物あるいは人の移動などといった、周辺地域との交流がうかがわれる。(佐伯⁹⁷)

264

264 吉備系甕
 亀井北遺跡 (RD15.2・H24.2) 文献.118

古墳初頭（庄内期）の墓から出土。吉備系（現在の岡山県南部）の甕。ただ胎土は河内産であるため、吉備からの移住者が作った可能性が高い。墓の入口と考えられる陸橋部のそばから、本来高坏の上に載せられていたと思われる状態で出土しており、供献土器と考えられる。被葬者に吉備系の人物が含まれていたのか、興味はつきない。(山元)



265

265 異形壺
 池島・福万寺遺跡 (MD18.6・H23.5) 文献.387

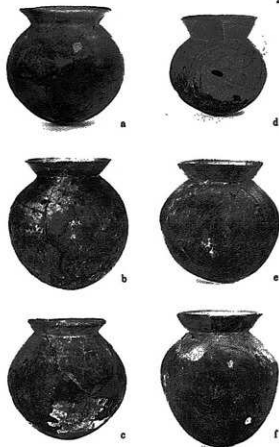
土坑から、小形丸底壺や布留式甕とともに出土。この壺は大きく張った体部から、わずかに内湾しながら内傾し立ちあがる頸部をもち、複合口縁を有する特殊な器形である。底部はわずかに上げ底風の平底をもつ。頸部には竹管文を、複合口縁部には、上端に竹管文、中位に波状文、下端に竹管文を施している。体部は細かなミガキを全面に施している。(佐伯博)



266

266 土師器（甕：水田畦畔埋納品） 古墳前期
 巨摩遺跡 (a: H16, b: H22, c: H23) 文献.89
 (d: H16, e: H22, f: H24)

前期水田面の大畦畔内に、6個体まとめて埋納された状態で出土。布留式初頭に位置づけられる。弥生・古墳時代の水田で、大畦畔に土器を埋納する例は全国各地で見つかっている。水田開発ないしは改修時の祭祀の痕跡と考えられるが、土器を1個体埋納する例が多く、本例のように多くの土器をまとめて埋納することはめずらしい。(井上)



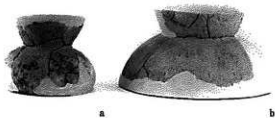
267



267 土師器（各器種） 古墳前期
芝ノ垣外遺跡 (右上:rd16.0・H32.6) 文献.332

弥生から古墳へと時代は変わっても、日常に用いる土師の焼成方法には大きな変化はなく、人々は土師器と呼ばれる軟質の土器を引き続き用いていた。ただ、これら4世紀頃の土師器（布留式土器）では、型にはめて作ったため底部の丸くなった壺や甕（後列）が出現し、小形精製土器（前列）が出そろうなど、器種や製作技法には変化が生じた。（山元）

268



268 土師器（壺・甕） 古墳前期
蜷池東遺跡 (a:rd15.8・h12.5) 文献.318

大形掘立柱建物の柱穴掘り方埋土上層から出土。建物廃絶後一括投棄された状態を示す。大形掘立柱建物は、5×5間の横持柱をもつ総柱の建物が2棟検出された。出土遺物はすべて土師器で、甕、壺、高杯がある。須恵器出現前後の時期の同様の建物は、大阪市法門坂遺跡や和歌山県嶋滝遺跡が著名であり、本建物もこれら同様、倉庫と考えられる。（合田）

269



269 土師器（甕） 古墳前期
大庭寺遺跡 (RD16.5・H28.4) 文献.365

初期須恵器窯に伴う灰原の旧表土層から出土。球形を呈する体部から、口頸部は「く」字状に屈曲し、口縁端部は肥厚して内傾する端面を有する。体部の調整は、外面がハケ、内面はヘラケズリで、底部には指頭痕が認められる。いわゆる布留式と呼称される土器であり、出土層位から須恵器と土師器の併行関係を考えるうえで良好な資料となっている。（岡戸）

270



270 須恵器（蓋） 古墳中期
大庭寺遺跡(TG232号室) (RD14.2・H6.3) 文献.365

灰原から出土。刺突文と沈線で飾された天井部、天井部と口縁部の境界に張り出す鋭い突帯など、器形や文様の特徴は陶質土器と酷似する。本例は内面を上向にして焼成されており、窯詰め方法も陶質土器との共通点が認められる。当窯から出土する高杯の蓋は、ほかに約20点あるが、いずれも陶質土器の特徴を色濃く反映させたものである。（岡戸）

271

- 271 須恵器（高杯） 古墳中期
大庭寺遺跡(TG232号窯) (RD16.3・H10.2) 文献.365
灰原から出土。同窯の高杯のなかでは、安定感のある大形品である。鉢状を呈する杯部は、両側に2個の板状把手をつけ、口縁部の境界に突帯をめぐらせるシンプルなものである。脚部は短冊形の多窓透かしが特徴で、透かしの数は15である。この脚部特徴は、韓国東萊福泉洞古墳群に類例があり、陶質土器から系譜をひく製品として注目される。 (岡戸)



272

- 272 須恵器（高杯） 古墳中期
大庭寺遺跡(TG232号窯) (RD15.9・H9.9) 文献.365
灰原から出土。杯部は浅い皿状を呈し、口縁部は短く外反する。脚部は太い柱部から裾部が直線的に開き、上方に突帯をめぐらせる。脚柱部には菱形の押形を縦に5個列べたものを4方向に配し、裾部には円形透かしを柱部の文様と千鳥状に配する。この菱形の透かし状文様は、韓国慶尚南道西南部の陶質土器に類例が多く、関係が注目される。 (岡戸)



273

- 273 須恵器（器台） 古墳中期
大庭寺遺跡(TG232号窯) (RD16.3・H44.7) 文献.365
灰原から出土。脚部は大きくひずんでいる。受部が直線的に開く、裾部が筒部からじょじょに開いていくなど全体的な器形の特徴は、陶質土器と酷似する。筒部と裾部の文様帯は突帯により8段に区画され、波状文や短冊形・三角形透かしで飾られる。なお、ほかに筒形器台は出土しているが、その出土量は高杯形器台に比べると極めて少ない。 (岡戸)



274

- 274 須恵器（器台） 古墳中期
大庭寺遺跡(TG232号窯) (RD41.5・H32.0) 文献.365
灰原から出土。高杯形器台は、器形や文様など陶質土器の特徴を色濃く反映させたものが多い。この製品も例外ではない。杯部は丸みをもった深い鉢状を呈し、脚部は裾端に向かって大きく開き、全体に安定感を感じさせる。調整もていねいで、突帯などの各端部の稜は鋭い。文様も波状文のほかに、陶質土器によくみられる鋸歯文と刺突文で構成されている。 (岡戸)



275



275 須恵器 (高杯) 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD15.7・H12.5) 文献.329
谷状地形の最下層から出土。

杯部は無蓋で、鋸歯文および刺突文が施され、装飾性は豊かである。脚部は脚柱部分が細く、本遺構で出土する高杯に類似するものが多い。

杯部の形態は珍しく、朝鮮半島出土の器台例との類似が多く、器台的な機能を備えている可能性が指摘されている。(長原)

276



276 須恵器 (器台) 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD15.7・H12.5) 文献.351

谷底部から出土。鉢部を浅い皿状に仕上げ、三角透かしが縦列する、初期須恵器のなかでも珍しい特徴をもつ。脚部に製作途上にくれたひび割れの補修痕が確認できる。その特徴は朝鮮半島の土器の影響が強いといえるが、伴土器から得られる年代観が半島の編年観と合致しないことから、半島と日本の土器編年を考えるうえで重要な遺物といえる。(長原)

277



277 須恵器 (高杯) 古墳中期
久宝寺遺跡 (BD12.5・h6.4) 文献.143

最大幅約120m、深さ約4mの古墳時代の長瀬川と考えられる河川から出土。

脚部は「ハ」字形に開き、杯部は欠損している。形態的には陶邑で初期に製作されていたものに類似するが、上下2段で、交互に4箇所配置される菱形の透かしをもつ高杯の例は日本にはなく、朝鮮半島に若干例が存在するだけである。(本田)

278



278 須恵器 (高杯) 古墳中期
城山遺跡 (RD9.8・H10.3) 文献.124

中期包含層から出土。深い体部、水平に張った受け部、脚部の三角透かし等、伽耶地域西南部の特徴を示す高杯である。三角透かしは未貫通だが、これは少数ながら伽耶・新羅地域のほぼ全域に分布するものである。脚部の形態等から、伽耶地域の編年でも5世紀前半に限定でき、陶邑の編年でも従来の初期須恵器の段階として認識できるであろう。(三宮)

279

279 須恵器（把手付碗） 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD7.8・H8.4) 文献.351

谷状地形から出土。一旦くびれてから外反する口縁や、底部斜面の手持ちヘラケズリ等、伽耶地域の5世紀前半代の特徴をよくとどめる。焼成は堅緻で、黒く光る器表に降灰痕が認められる。把手は差し込んで接合している。彼我の編年を突き合わせても、5世紀前半の初頭と中葉をのぞいた時期に限定できるであろう。TK73型式平行と考えて大過ない。(三宮)



280

280 須恵器（器台） 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD9.1・H15.1) 文献.351

河川から出土。類例をみない土器である。器台の一種であろうか。器壁は厚く、くびれ部内面にはシボリ痕があり、外面にはヨコハケナデがみられる粗い作りである。色調は明灰色で黒斑がみられる。須恵器というより韓式系の瓦質土器としたほうがよいかも知れない。ただし、口縁の突帯が須恵器の要素であるほかは、土師器的な調整のみがみられる。(三宮)



281

281 須恵器（把手付鉢） 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD17.2・H16.6) 文献.351

河川から出土。口縁に緩い突帯をめぐらし、それごとく曲げて注口を作りだしている。突帯直下から平行タタキを縦に施すが上半はそのタタキを回転ナデで擦り消し、把手の付く部位の上下に1条ずつ沈線をめぐらす。把手は上面に刻目が入り、端面から刺突痕がみられる。そこから韓式系土器といえるが、堅緻な焼成以外、初期須恵器と限定できる要素はない。(三宮)



282

282 須恵器（甗） 古墳中期
小阪遺跡 (RD30.4・H22.4) 文献.287

河川上層から出土。器高より口径が大きいやや扁平な体部で、口縁部は外反する。体部の約1/2位に牛角状の把手を一对付け、把手の上面に切り込みを入れる。底部は平坦で、中央に円形の透かし、周縁に台形の透かしを6箇所穿つ。体部上半に突線文間波状文を施している。須恵器の甗にしては装飾性のあるもので、ほかに類例をみない。(森屋)



283



283 須恵器 (蓋)

古墳中期

野々井西遺跡(ON231号窯)(RD9.0・H7.0) 文献.361

ON231号窯は、陶邑古窯跡大野池支群の東寄りの、和田川に面した丘陵頂部付近の斜面にある。大庭寺遺跡T G231・232号窯に後出し、T K73型式に並ぶ時期の各種の初期須恵器が大量に出土している。

蓋には壺・高杯・杯用のものがあり、ツمامいをもつものともたないものがある。丈の高い本例は櫛目の刺突文と波状文を施し、壺蓋と考えられる。(藤田)

284



284 須恵器 (蓋)

古墳中期

野々井西遺跡(ON231号窯)(RD13.4・H4.3) 文献.361

当窯の発掘調査は道路用地内の灰原の一部に限られたため、窯体の有無、灰原の規模などは不明であるが、出土遺物は比較的まとまった単一の様式を示している。

ツمامいが高く、肩部が屈曲する蓋の本例は、ON231号窯では類例のない特異なもので、屈曲部より上の天井部に櫛目の刺突文がまばらに施されている。口径などから脚台付壺の蓋と考えられる。(藤田)

285



285 須恵器 (把手付碗)

古墳中期

野々井西遺跡(ON231号窯)(RD7.4・H4.9) 文献.361

窯灰原の一部の調査にもかかわらず、把手付碗は大庭寺遺跡T G232号窯に比較すると数多くみられ、口縁部が直立するもの、外反するもの、内湾するものなどバリエーションが多い。把手も断面形が板状のもの、丸いもの、ネジリを加えたものなどがある。口縁部直下や体部に1~数条の突帯をめぐらせ、突帯間はしばしば櫛目の波状文を施している。(藤田)

286



286 須恵器 (樽形壺)

古墳中期

野々井西遺跡(ON231号窯)(MD19.0・H14.5) 文献.361

杯や壺が量的に増えることと樽形壺の存在は、大庭寺遺跡T G232号窯と当窯の時期差を象徴するもので、逆に軟質の朝鮮半島系の土器は少ない。

樽形壺は体部に沈線や櫛目の刺突文や波状文で飾るものが多く、細かい円筒状の注口部を付けるものも少なからずみられる。まれに体部に円環状の把手を付けるものがある。(藤田)

287

287 須恵器（樽形土器） 古墳中期
大庭寺遺跡 (W24.3・H27.3) 文献.351

土器溜りの下層から出土。器形は樽形甕と酷似しているが、体部に穿孔がなく、2対の円環状把手を両側端の上面に付けているため、ここでは樽形土器としている。このような形態の須恵器は陶邑古窯跡群のなかでも類例はみられないが、ほかの下層須恵器と同時期の初期須恵器の時期であろう。

(田淵)



288

288 須恵器（蓋・鉢） 古墳中期
野々井西遺跡(ON231号窯)(a:RD4.3,b:rd27.6)文献.361

口径が30cmに達する大形の鉢(a)は調査資料のなかで唯一の例品で、口径や施文方法の酷似から蓋(b)と身(a)がセットになるものと考えられる。

蓋、身ともに沈線と櫛目の波状文をめぐらせ、身の受け部は大きく内反している。蓋には基部の径が6cm前後の大きなツマミが付き、残存部の特徴から3方程度の透かしをもつと考えられる。(藤田)



b



a

289

289 須恵器（器台） 古墳中期
野々井西遺跡(ON231号窯)(RD20.1・h32.0) 文献.361

器台には筒形器台と鉢形器台がある。脚柱部の透かしは、双方とも方形の縦列の透かしとなっている。施文は鉢形のものに退化した組み紐文もみられるが、全体的には櫛目の波状文に限られる。

当窯の須恵器は大庭寺遺跡TG232号窯よりも一時期遅れるが、TG232にはない別系統の要素もあり、須恵器技術導入期の複雑な様相を示している。(藤田)



290

290 須恵器（高杯） 古墳中期
久宝寺遺跡 (bd21.7・h9.8) 文献.143

中期河川から出土。長方形と火焰形の透かしを施す。火焰形の透かしは上下交互に配され、その間を櫛状工具による刺突文で飾っている。この火焰形の透かしをもつものは我国では奈良県布留遺跡で2例知られるのみで、韓国では成安32号墳をはじめ伽耶の成安地域で盛行したものである。初期須恵器成立の一端をさぐるうえで貴重な資料である。(金光)



291



291 土師器を模倣した須恵器 古墳中期
小阪遺跡 (左端:RD22.0-H52.6) 文献.256-287

集落内の遺構や河川から出土。土師器を真似て作られた須恵器の一群である。須恵器の技術が陶邑古窯跡群にもたらされた頃に、土師器を製作していた人々がかかわった様子がうかがわれる。形態や成形調整技法などは土師器そのものの作りであるが、須恵器として青灰色に焼成されたものである。複合口縁壺、小形の壺や高杯等がある。(森屋)

292



292 須恵器を模倣した土師器 古墳中期
小阪遺跡 (奥:RD14.0-H37.6) 文献.256-287

河川から出土。須恵器を真似て作られた土師器の一群である。須恵器独特の器形である甕を真似たものや、回転ナデで調整を施された鉢と高杯、平行タテキを施された直口壺や甕などがある。291の土器も含めて初期須恵器の頃の土器作りがどのようにおこなわれていたかを推測するのに良好な資料である。

(森屋)

293



293 土師器一括 古墳中期
小阪遺跡 (右下:RD11.2-H16.2) 文献.256-287

竪穴住居から出土した土器の一群である。集落は小規模なもので、石津川と陶器川の合流部の自然堤防上に位置し、須恵器生産の一拠点と思われる。朝鮮半島からの器種導入による技術指導が一段落し、国内需要に伴う生産に向けて生産拡大する過渡期的な時期に集落が営まれていたと推測される。そのことは、様々な土器様相からも類推される。(森屋)

294



294 土師器一括 古墳中期
小阪遺跡 (左端:RD16.0-H12.0)文献.287

河川から出土した土師器の一群である。須恵器出現以前から続く伝統的な土器で、当集落では、須恵器と土師器の比率がほぼ二分三のものである。また、布留系の内湾する口縁部をもつ甕が色濃く残り、長胴化がほとんどみられず、一方で韓式系土器の小形平底鉢や甕といった新しい器種が登場するのが特徴的である。(森屋)

295 瓦質土器(甕・直口壺) 古墳中期

小阪遺跡 (a:RD17.6・H31.0) 文献.256・287

河川から出土。初期須恵器に伴い黒灰色の土器が数点出土している。aの甕は下腹れの体部下半に縄跡文タタキを残し、ほかは粗雑なナデを施す。bの直口壺はていねいな横方向のヘラミガキを施す。朝鮮半島の瓦質土器とは異質であるが、両者ともに須恵器の技法の範疇からははずれるため、焼成や調整等から瓦質土器と認定した。(森屋)

296 韓式系土器(竈ほか) 古墳中期
伏尾遺跡 (手前:W50.7・H31.2) 文献.351

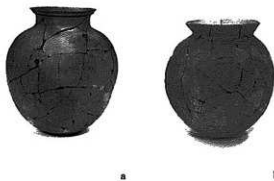
谷から出土。
弥生時代に稲作が伝来して以来、日本人はもっぱら米を炊いて食べてきた。

しかし陶邑古窯跡群内の諸遺跡から米を蒸す際に使用する土器が出土し、日本に須恵器をもたらした人々が新しい食文化をもった朝鮮半島の人々であったことを示している。(山元)

297 韓式系土器・土師器(甕:土師棺) 古墳中期
城山5号墳 (a:RD21.0, b:RD14.9) 文献.124

城山遺跡からは中期後半から後期初頭にかけての方墳を7基確認している。5号墳は一辺約3mの小規模墳で、墳丘中心部から土師棺を1基検出した。

韓式系土器と思われる甕(a)を棺身とし、土師器甕(b)を棺蓋に転用した合口棺である。人骨は残っていないが、その規模から考えて乳幼児のものと考えられる。(山元)

298 韓式系土器(甕) 古墳中期
城山5号墳 (RD16.4・H26.3) 文献.124

297の合口棺の足元に置かれていた韓式系土器の甕である。体部は楕円形に近く、口縁部は短く外反して面をなしておわる。体部外面には斜格子状タタキを施し、内面にはヘラケズリが認められる。城山古墳群で韓式系土器の確認された古墳は3基で、いずれも中期後半の一時期に限られる。被葬者集団の変化か、一時の流行か、興味深い現象である。(山元)



299



299 韓式系土器(甕) 古墳中期
久宝寺遺跡 (RD14.0・H17.1) 文獻.143

中期河川から出土。丸底と球形の体部からなる甕である。口縁端部は丸くおさめ、肩部がやや張る。外面は縦から斜方向の平行タタキを施したのち、肩部より上をナデ調整によって仕上げる。内面はヘラナデ。器壁は約6㎝とやや厚い。器形は土師器の甕にならうが、外面の調整技法や胎土などから、本例は韓式系土器の範疇にいれておく。(金光)

300



300 韓式系土器(甕) 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD14.6・H22.0) 文獻.351

谷から出土。胎土に大きな石英粒を多く含み、外面は右に傾いた縦方向の平行タタキ、下部5㎝程度から底部におよぶ縄漚文タタキがそれを切っている。内面は緩いナデが入り、当て具の痕跡はない。凹凸から無文の内当て具の使用も考えられる。平底だが端部は丸い。伽耶・新羅地域では窯跡の表採資料に類例があるが、焼成はこれよりあまいのが通常である。(三宮)

301



301 韓式系土器(鉢) 古墳中期
久宝寺遺跡 (RD14.1・H12.8) 文獻.143

中期河川から出土。外面は縦方向の平行タタキのち一部ヨコナデ調整、体部下端約1㎝は横方向のヘラケズリを施す。内面は縦方向のヘラナデ調整。底部はやや上げ底気味の平底で、外面中央よりやや偏った位置にいわゆる「ゲタ」の痕跡がみとめられる。口縁端部は断面四角形に仕上げる。赤褐色を呈し、固い焼きである。(金光)

302



302 韓式系土器(鉢) 古墳中期
大庭寺遺跡 (RD15.9・H11.9) 文獻.365

古墳時代の河川から出土。軟質で体部外面には斜格子タタキを残すが、口頸部はヨコナデ、底部付近はヘラケズリで仕上げる。内面には板状工具によるナデの痕跡がみられる。また底部外面には、いわゆる「ゲタ」の痕跡がみとめられる。本例は初期須恵器に共存する通常の韓式系土器で、陶邑の開窯にかかわった渡来人陶工に関連するものであろう。(福岡)

303 土器群一括

古墳後期

日置荘遺跡

(竜:BD30.8・H26.0)文獻.354

土器群から出土。掘り込みは確認されていないが、南北15m、東西7mの範囲で一面に土師器や須恵器が検出された。土師器甕を中心として、須恵器の高杯や杯などがまとまっており、完形に近いものが多い。遺物の時期差はあまり認められない。非日常的な遺物も含まれることから、祭祀に関連する一括遺物と考えられる。

(中村)



304 須恵器一括

古墳後期

巨摩遺跡

(c:RD42.0・H88.0)文獻.309

自然流路中より一括廃棄された状態で出土。甕(a)と器台(b)はいずれも古墳中期後半のものと考えられるが、大甕(c)は、緩やかに外反する口頸部の端部近くに断面三角の突帯を1条めぐらせていることなど、ほかの2点よりやや古い初期須恵器の特徴が認められる。

(山元)



305 古墳副葬土器群

古墳後期

三田古墳

(手前甕:RD15.2・H5.2)文獻.334

当古墳は丘陵先端にある直径18mの円墳で、周囲には円筒埴輪をめぐらせており、埋葬主体は6世紀後半の木棺直葬(第1主体部)と横穴式石室(第2主体部)の2基が確認された。須恵器は第1主体部の墓境内(棺外)、第2主体部の玄室内から出土し、いずれも古墳の時期を決定する際に貴重な資料となった。

(山元)



306 二重甕

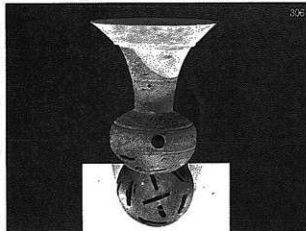
古墳後期

福田遺跡

(MD10.4・h14)文獻.151・353

1986年の調査時、調査地近郊の段丘崖から運び込まれた盛土内から出土。盛土内出土品を検討すると、窯か灰原を解平したものと推測される。本例は、体部が透かしによる二重構造を呈し、土玉が入る鈴付き土器の一種である。ほかには、福井県丸山塚古墳例が知られるぐらいで、その稀少性は注目に値する。

(長原)



307



307 須恵器（双把手付鉢） 古墳後期
大庭寺遺跡 (RD15.3・H10.0) 文献.260

集落を画する溝から出土。約1/2強残存している。外反する口縁部で、に肩部に段をもち、牛角状の把手を2個一対付ける。底部は丸みをもち、底部外面に平行タタキを施す。ほかに、甗、短頸壺、甕など完形に近いものが出土しており、集落の下限時期を示すものと考えられる。

(森屋)

308



308 須恵器を模倣した土師器（蓋） 古墳後期
新家遺跡 (RD15.5・H6.0) 文献.87

土坑から出土。須恵器模倣と思われる土師器の杯蓋。体部は全体にナゲ調整を施している。口縁端部は外側にややふくらみ、口縁端面は平坦である。天井部と体部の境目の線は表現されていない。これは、須恵器との製作方法のちがいと思われる。ツمامミ部は須恵器と完全に類似している。色調は赤白色で、須恵器のように焼成温度を上げられなかった結果であろう。(村上*)

309



309 筒状土器 古墳中期
伏尾遺跡 (D11.5・ø85.0) 文献.270

筒状の土坑から出土。310と形態的には似るが、土師質であり、共存遺物から判断される時期も古墳中期である。一端はロート状に広がるが、端部は欠損する。外面は縦方向のハケ、写真右側端のみナゲによってハケを消す。内面の筒部は粘土の接合痕が顕著に残り、ロート部にのみ横方向のハケを施す。使用方法や用途は明らかでない。

(川瀬)

310



310 筒状土器 古墳後期
伏尾遺跡 (MD26.0・L97.0) 文献.236

自然の落ちに沿った小河川から出土。

須恵質の筒状の管だが、用途は定かでない。

内面に同心円文の当て具をあて外面から叩くが、両面ともタタキの上からナゲで消してある。

古墳後期と推定するが、類例のなかでも古い時期のものである。

(川瀬)

311 製塩土器・蛸壺

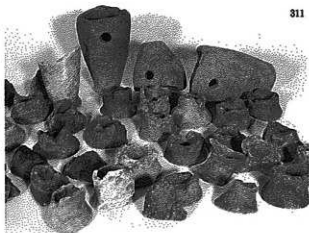
弥生～古墳前期

松原遺跡

(最奥:rd7.4・H13.2) 文献:351・364

海岸部の沖積段丘に立地する遺跡から、土鍾など漁撈に関係する遺物とともに出土。製塩土器はすべて脚台をもつタイプで、体部にタタキ調整が一部残っているものもある。写真奥は蛸壺である。製塩土器と漁撈関係の遺物がセットで出土することはよくあることで、当遺跡でも海とかかわりをもつ人々が生活していたのであろう。

(奈加)



311

312 製塩土器

古墳前期

脇浜遺跡

(rd14.5・h13.0) 文献:157

自然河川の左岸部の土器溜りから、多量の土師器や蛸壺形土器とともに出土。外面には煤が付着し、薄い器壁の内面には全体的にハケメ調整が観察できる。製塩土器は煎煮過程で二次焼成をうけると壊れてしまうため、細片になって出土することが多い。本例は体部下端と脚部とが完全には接合しなかったものの、全体を想定できる好資料である。

(奈加)



312

313 製塩土器

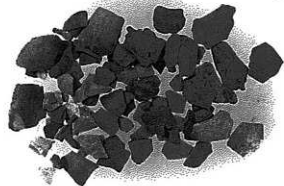
古墳中期

久宝寺遺跡

(大形片:84) 文献:143

自然河川が活動を停止した後にてきた、窪地に堆積する土器群から出土。埋土内には焼土を伴う炭層が存在するが、火を使用したような痕跡は認められない。脚台を有するものと丸底のもの両方含む。すべて細片になっており、器壁の剥離も著しく調整は明らかでないものが多いが、外面タタキ調整のものも含まれている。

(奈加)



313

314 壺形埴輪

古墳前期

美園古墳

(a:H60.6, b:H58.0) 文献:104

一辺7mの小方墳から家形埴輪(315・316)とともに25個体以上出土。底部は最初から作られず、当初より蓋用に製作されたものである。壺形埴輪は、壺の体部が細長くのびて埴輪的になったもので、その後、朝顔形埴輪に発展する。古式古墳で少数例検出されており、円筒埴輪と共用される例が多いが、当古墳では壺形埴輪のみが使用されている。

(赤木)



314

315



315 家形埴輪

古墳前期

美園古墳 (w75.0・h70.0) 文献.104・140

入母屋造高床式住居を表現した精緻な埴輪である。屋根には11個の鰯飾りが付き、外面中央の柱には4面ともに盾の線刻がある。床には中央に透かし孔、一方に3.5cm高く表現されたベッドがある。ベッドには市松模様いちまつようの線刻で網代あみしろが表現されている。さらに大棟おほすゑの妻部には斗つ(栴形)および東あづまが線刻され、全面にベンガラが塗布された優品である。(中西)

316



316 家形埴輪

古墳前期

美園古墳 (w68.0・h35.0) 文献.104・140

周溝から出土。2×2間の切妻造倉庫を精巧に模した埴輪である。入口が平側面に1箇所開けられているほかはすべて壁である。壁には綾杉文が水平に3条描かれており、壁材の固定方法を示しているのであろう。扉は出土しなかったが、入口の上下には内開き扉を固定する軸受が表現されている。河内平野では小古墳から優品埴輪の出土する例が増えている。(赤木)

317



317 家形埴輪

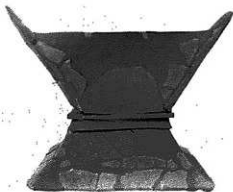
古墳中期

伏尾3号墳 (W50.0・H42.0) 文献.270

谷をはさんで、古墳時代の集落と向かいあった丘陵上に、古墳群が築かれている。本例は、現在確認されている5基のうちの1基から出土。

外面は朱塗りで、屋根の形態は切妻造である。棟木を表現せず、棟帯や壁に綾杉文、柱や屋根押縁に斜格子文を施すなど、表現を簡略化しながらも、当時の建物をよく表している。(本田)

318



318 家形埴輪

古墳後期

長原3号墳 (W35・h27.0) 文献.47

周溝から出土。

入母屋造の家形埴輪である。本例は壁および柱を欠いている。また、特に大棟を極めて大きく表現しており、大棟と本屋根のバランスが悪いもので、元米、屋根だけの埴輪であった可能性もすてきれない。美園古墳の家形埴輪(315・316)と比較すると極めてデホルメされた埴輪といわざるをえない。(中西)

319 家形埴輪
亀井遺跡 (W26.6・H36.5) 文献.121

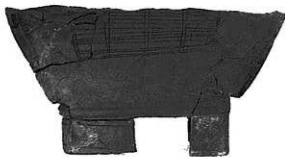
古墳時代の河川から出土。屋根の形態は切妻造で、棟木を柱状の粘土で表現する。大阪府下出土の家形埴輪で、棟木を表現した例はあまりみられない。網代の押縁と考えられる沈線が3条描かれ、その下側には、平側にわたされた横木が2条の沈線で、また柱を壁に2～3条の沈線で表現する。簡素な造りだが、当時の建物の様子をよく伝えている。(本田)



319

320 家形埴輪
亀井遺跡 (W46.8・h23.8) 文献.121

河川の河床付近から出土。基底部は全く残っていない。いわゆる切妻造で、屋根と壁体が一体化し柱や窓は沈線で表現されるなど、きわめて簡略化されたものとなっている。屋根外面の沈線には一部に赤色顔料が残っていた。家形埴輪は、発掘調査では知ることの難しい建物の上屋構造にせまる手掛かりとなりえるものである。(奈加)



320

321 家形埴輪・武人埴輪
日置荘遺跡(埴輪窯) (a:h7.2, b:h22.0) 文献.256-354

ともに埴輪窯の灰原から出土。窯からは円筒埴輪のみが出土しているが、灰原からは人物埴輪や家形埴輪等の形象埴輪が出土していることから、それらの埴輪も焼かれていたことが推測される。形象埴輪には完形になるものがなく、いずれも小破片のため全容がわかるものが少ないのが残念である。

(森屋)



321

322 切形埴輪
城山遺跡 (w13・h20) 文献.124

7世紀末の水田土壌から出土。検出遺構の時期とは異なる。大阪市長原古墳群の北端に位置すると思われる。埴輪は、先端部の一角のみ残存しており、表面に丹彩が施されている。鐵は、ヘラによる線刻で描写されている。断面方形の幅広く低い突帯が施され、外面にヨコハケが残ることから、6世紀前半の埴輪と思われる。(森屋)



322



323 人物埴輪

古墳後期

日置荘遺跡(埴輪窯) (a:h82.2,b:h72.0) 文献.354
埴輪窯の灰原から出土。完形に近いものが2点復原された。ともに、下げミズラの髪形で、着衣は描写されておらず、ハケメや指ナデが施される。胸を胸や腰にあてた立像である。bの胸は張り付けで、aのものは挿入式である。脚部付近に方形の突帯を1条付ける。人物埴輪としては、粗雑な作りのものである。

(森屋)

324

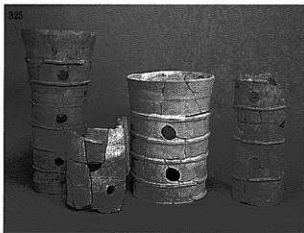


324 円筒埴輪

古墳中期

小代2号墳(サバ山古墳b) (a:h20.0,b:H37.0) 文献.148・261
aは、小代古墳群中の円墳から出土。主体部は検出されていないが、墳丘裾部約1/4周に円筒埴輪が並んで検出された。5世紀前半のものと考えられる。bは、美原町黒姫山古墳の陪塚である帆立貝式古墳の周溝から出土。5世紀後半のものである。ともに、朝顔形埴輪や形象埴輪がわずかに出土している。

(森屋)



325 円筒埴輪

古墳後期

日置荘遺跡(埴輪窯) (右:RD43.2・H90.0) 文献.354
埴輪窯内から出土。窯は、床面が3枚残っており、床面ごとに特徴に差異のある埴輪が出土している。口径40cm、器高90cmと大形円筒埴輪がほとんどを占め、なかには界市日置荘西町窯系の特大形の円筒埴輪も含まれる。窯からは、200個体以上の円筒埴輪が出土しており、それらの特徴から6世紀後半の埴輪の変遷がうかがわれる。

(森屋)

326 転用された埴輪 古墳中～後期
太井遺跡 (a: D63.0・H123.0) 文献: 149・256

b・cは円筒埴輪棺、a・dは井戸の井筒として転用されて出土。

特に前者は堺市日置荘西町窯で生産された埴輪の特徴と共通する。当遺跡に近接する美原町黒坂山古墳からは日置荘窯系の埴輪は出土しておらず、いずれの古墳から持ち込まれたものか興味深い。

(江浦)



327 破鏡 古墳前期
池島・福万寺遺跡 (d8.9・t0.2) 文献: 387

微高地を北西～南東方向にはしる溝に切られた土坑の底から、鏡面を下にして出土。残存するのは約1/4で、内区および鈕を欠損する。平縁で磨滅がみられる。外区は直行の櫛歯文をもつ。また、径1mmの穿孔を有するが、肉眼では鈕擦れの痕跡は認められない。共伴遺物として土坑内からは布留式土器や近江系土器の破片が出土した。

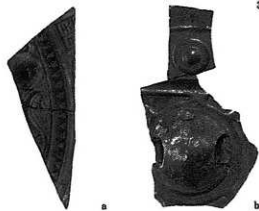
(後藤)



328 銅鏡 古墳前期
池島・福万寺遺跡 (a: 径4.8, b: 径4.3) 文献: 387

前期の遺構が密集する部分の包含層から出土。4点が出土したが2点ずつ接合し、2種類の鏡となった。画文帯神獸鏡(a)は「天王日月」銘と獣の足の部分が確認され、方格四乳鏡(b)は鈕の部分が残存し、破鏡の可能性もある。ともに中国製と推察されるが、古墳以外からの出土は珍しく、今後は集落との関係を考える必要があろう。

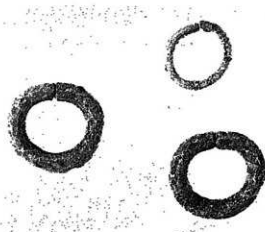
(森本)



329 耳環 古墳後期
三田古墳 (左: D2.8・T0.5) 文献: 334

標高72mの丘陵上に築造された円墳の横穴式石室から出土。墳頂のもう1基の埋葬施設とは異なり、石室は後世の掘乱を受けていたので、床面出土とはいえず原位置を保っているかどうかは不明である。出土した耳環は、遺存状態が極めて悪かったので、腐食がかなり進んでいる。そのため中実の銅芯であること以外、詳細は不明である。

(駒井)



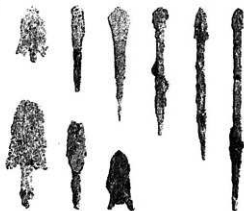
330



330 銅鐵 古墳前期
久宝寺遺跡 (ℓ3.6・w1.8) 文献.145

溝下層から出土。柳葉形で有茎のものであるが、茎は関部分で欠損している。身にはほぼ直交する十文字の筋があり、刃部は鋭く研ぎ出されている。銅鐵の使用は弥生時代からはじまるが、古墳前期に古墳への副葬を中心として盛期をむかえる。本例は集落内からの出土であり、実用の武器として使用されたものであろうか。(赤木)

331



331 鉄鐵 古墳後期
三田古墳 (右端: ℓ19.0・w1.0) 文献.334

横穴式石室床面から、擾乱のため広範囲に散乱した状態で出土。

また、墳頂部分の木棺に副葬された鉄鐵に比べ、遺存度は悪く、茎部で折れたものが多い。

墳頂部出土の鉄鐵がすべて長頸鐵であったのに対し、石室出土の鐵は長頸鐵以外に柳葉式鐵や圭頭式鐵など様々な形状を呈したものがある。(駒井)

332



332 鉄鐵 古墳後期
野々井古墳 (a: ℓ17.2, b: ℓ19.6, c: ℓ13.0) 文献.360

丘陵上で発見された古墳の主体部から出土。

3点とも茎部の長い長頸鐵に属する。

aは鐵身の形状から柳葉式鐵ではないかと思われる。

b・cは鐵身の部分は欠損している。いずれの茎にも矢柄の木質がみられ樹皮が木質を巻くように残っていた。

(田中勉)

333



333 三葉環頭大刀 古墳後期
三田古墳 (ℓ9.2・MD7.2) 文献.334

墳頂に埋葬された木棺内、被葬者右側から剣とともに出土。検出時はすでに土圧のため柄頭付近で折れており、鞘尻部分も腐朽していた。

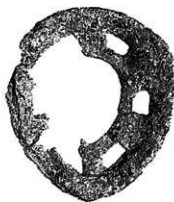
青銅製の環頭は、環状部分、三葉、茎を同時に鋳造したと考えられるが、その表面にメッキを施した痕跡は確認できなかった。三葉環頭大刀は新羅との関係が強いとされるが、詳細は不明である。(駒井)

334

- 334 倒卵形六窓鐔^{ツル} 古墳後期
三田古墳 (MD7.6・t0.6) 文献.334

横穴式石室床面から出土。本来は大刀とともに検出されるはずであるが、後世の擾乱のため、刀身は破折かつ散乱しており、単独で出土した鐔もかなり腐食が進んでいた。

この鐔は、卵を逆さにした平面形を呈し、合計6つの透かしがある。側面には波形と半円の彫り込みに、銀を埋め込んだ細工が施されている。 (駒井)



335

- 335 鉄剣 古墳後期
伏尾遺跡 (L46.6・w3.1) 文献.261

鉄剣は小代古墳群の土墳基から出土。土墳基は2号墳に隣接する。規模は全長2.47m、幅0.67mを測る。主軸は北東-南西方向におく。剣は一段下がった段状部の頭部付近に置かれる。鋒は足元に向ける。同古墳群ではほかにも鉄製品が出土し、1号墳に柳葉式鉄鎌、3号墳に方頭斧箭式鉄鎌がある。古墳群は伏尾丘陵の須恵器生産に関係した首長墓であろう。 (小野)



336

- 336 鋤・鍬刃先 古墳中期
志紀遺跡 (L:8.7・W9.8) 文献.384

中期の水田面から出土。方形鉄板を左右から折り曲げた、鍬または鋤の刃先である。硬土の掘起こしや土塊の粉碎等に有効で、閉盤や土木の土掘具用とされる。実際、水田面には水路が開削されており、肩部付近には、まさにこの刃先で掘ったと推定される痕跡が確認でき興味深い。この種の刃先のうちでは、最も新しい時期に属し、以降はU字形の製品に変わる。 (秋山)



337

- 337 U字形鋤先 古墳後期
大庭寺遺跡 (L14.5・w15) 文献.242

鉄製の鋤刃先である。全体の形状はU字形を呈し、外側の先が細く作られ、内側は木を挟み込むために端から端までV字の溝状に開いている。残存重量は186.7gである。



(田中)

338



338 U字形鋤先 古墳後期
三田古墳 (ℓ28.5・w29) 文献.334

横穴式石室床面から1個体出土。ほかの鉄器類と同様、破損や腐朽のため全体の約1/3を欠損している。剥離もかなり進行しているため、遺存状況は必ずしも良好とはいえない。

これ以外にも横穴式石室から、鉄製鑿や砥石なども出土した。農工具を1点も副葬しなかった墳頂部の埋葬施設とは、全く対照的である。(駒井)

339



339 鉄鎌 古墳前期
久宝寺遺跡 (ℓ7.6・t0.2) 文献.145

河道の中層から出土。小形で直刃のもので、先端部と折り返し部の大半が欠損している。木柄は残存していない。鉄鎌は、弥生時代の穀物の収穫具である磨製石鎌とってかわるもので、当初は大きさや刃の形態も多様であったが、古墳初頭には一旦小形で直刃のものが主流になり、その後、今日みられる曲刃形に変化していく。(赤木)

340



340 鉄斧 古墳前期
久宝寺遺跡 (ℓ5.5・w3.9) 文献.145

前期の土器を集中して多く含む層の最下層部から出土。一般に袋状鉄斧と呼ばれている小形のもので、袋部の横断面は、長円形をなすようにわずかに折り曲げるだけで、両端は縦じ合わない。刃部の両端は、下方にくると若干「ハ」字形に開き、下部もややゆるやかなカーブを呈する。また厚さも、若干厚み加わるようである。(本田)

341



341 鳥形土製品 古墳前期
久宝寺遺跡 (W5.8・ℓ13.5) 文献.143

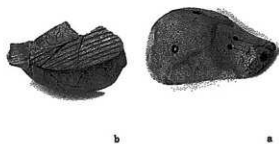
布留式期の単純層である包含層から、炭や灰を伴って出土。抽象化され、外面はヘラナデによって羽を表現している。嘴は欠損している。胴の部分は中空で、尾部へは径8mmの孔が通じている。奈良県磯向遺跡(辻地区土坑4)出土の水鳥形木製品と類似している。当時期の鳥形土製品は和歌山県大日山I遺跡で2点出土しているほかは全国的にも少ない。(金光)

342 鳥形土製品

古墳前期

池島・福万寺遺跡 (a:ℓ8.5・b:ℓ18.0) 文献.387

方形整穴遺構から、土師器高杯等とともに出土。頭部上半部(a)と胴部左半分(b)のみで、首の部分は失われている。接合はできないが同一個体であろう。頭部は中空で嘴先端から中空部分まで貫通した孔が開けられている。また、目や嘴、羽など写実的な線刻が施されている。似た鳥形土製品には古墳や祭祀遺構から出土したものが数例ある。(佐伯博)



343 船形土製品

古墳中期

大庭寺遺跡(TG232号窯) (ℓ9.0・W6.0) 文献.351

須恵器窯の灰原から出土。写真の右側約1/3が遺存していた。須恵質に硬く焼成されている。くり舟の上に銅板やピボットを付設した、いわゆる準構造船の特徴をよく表現し、外面を斜格子文様で飾る。須恵器の源流である韓国陶質土器のなかにも数点の船が知られているが、年代を確定できるものは少なく、窯跡出土の本資料の価値は大きい。(福岡)



344 異形容器

古墳中期

小阪遺跡 (W29.8・H11.3) 文献.287

河道上層から出土。河道は上下2層に大別でき、下層には5世紀代、上層には6世紀代の遺物が出土している。底部は内側に反る。底部外面は静止ヘラケズリ、体部外面はカキメとナデを施す。内部を3室に分けては長辺側に板状の脚とつまみ付の蓋がついている。(金光)

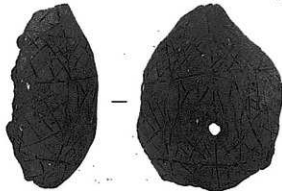


345 線刻土製品

古墳前期

佐堂遺跡 (ℓ5.9・w4.6) 文献.90

前期遺構面の長方形の落ち込み状遺構から出土。壺、甕、高杯などの土器が共伴する。本来の形状は不明ながらも、長楕円形の土師質の土製品の破片と推察される。焼成前穿孔があるほか、ヘラ描きの線刻が施されており、方形の区画内に斜格子文や記号状の文様などでうめられている。性格や類例など不明な部分が多い遺物といえる。(森本)



346



346 土玉

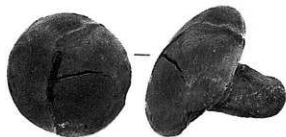
古墳後期

三田古墳 (平均: D1.1・T0.8) 文献. 334

墳頂部で検出した木棺を納めるための墓域から出土。棺を納めたのち、被葬者の頭位側に副葬されたものである。これらを繋いでいた紐はすでに腐朽していたが、約200個余りが出土した。

この土玉は、精製された粘土を直径1cm程度の円形に丸めたもので、その後いぶし焼いて仕上げたためか表面が黒色を呈する。 (駒井)

347



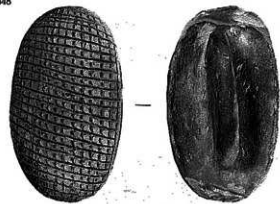
347 当て具

古墳中期

小阪遺跡 (MD12.0・L8.6) 文献. 287

溝から出土。無文の当て具で、把手が斜めに付くタイプで須恵質である。これは、土器の肩部付近の内部を形成する際に使用される。当て具のほとんどは同心円を刻むものが多く、このような陶製で無文の当て具は珍しく、朝鮮半島に例をもつ。この当て具の出土により、当遺跡と朝鮮半島とのつながりがあり、交流が盛んであったと考えられる。 (大野)

348



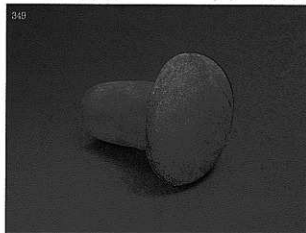
348 当て具

古墳中期

大庭寺遺跡 (MD15.4・L8.9) 文献. 351

谷から出土。陶製の当て具で、表面にはややたいへら状の工具で格子状の溝が刻まれる。裏面には把手が付けられる。大形の甕などに限定されて使用されると思われる。しかし当遺跡出土の遺物にその使用痕が認められる例がないが、内面のていねいなスリ消しに起因する可能性もある。ただ、このような大形の当て具は珍しいものである。 (大野)

349



349 当て具

古墳中期

大庭寺遺跡 (MD6.8・L3.1) 文献. 351

遺構面から出土。陶製の無文の当て具である。把手は垂直につく。実際に使用されていたためか、表面はなめらかである。土器の内面に使用されたと思われる。須恵器における無文の当て具の使用痕跡は、当遺跡では多く出土している。特に無文の当て具は、朝鮮半島との交流をうかがわせるものである。

(大野)

350

350 窯道具 古墳中期

大庭寺遺跡(TG232号窟) (円環:D6.0・T3.5)文献.351・365

最古段階の須恵器の窯跡から出土。焚口の前にある失敗品を捨てておく灰原から検出された。これらは「焼き台」と呼ばれ、土器を窯の中で焼き上げる際、土器の下に置き、動かめように支えたり固定させる道具である。多くは須恵質製品で、形は円環状、ブロック状などさまざまであるが、支脚状のものが一番多く検出された。

(中川)



351

351 輪羽口 古墳後期

大坂城跡 (ø10.0・MD5.0)文献.327・352

谷斜面を埋める包含層から出土。この包含層中には6世紀後半を中心とした時期の様々な遺物が多量にみられる。谷斜面には6世紀後半～7世紀初頭頃の鍛冶炉と灰窯群が築かれており、かなりの規模で鉄器生産をおこなっていたことをうかがわせる。本例は炉内にあった羽口先端が剝落したもので、当時の技術を復原する手掛かりとなる。

(新海)



352

352 須恵質紡錘車 古墳後期

大庭寺遺跡 (W4.4・T2.5) 文献.260

溝から出土。紡錘車紡輪である。付近からは遺構が密集して検出されており、同溝はこの遺構群の北側を画するように東西方向にのびる。溝からの出土遺物は須恵器で占められ、各器種がみられる。そのなかには装飾付壺の底部分も出土している。紡錘車の断面は算盤玉状を呈しており、ケズリによる面取りを施す。穿孔内径は0.6cmを測る。

(市木)



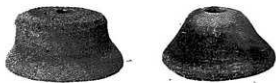
353

353 須恵質・滑石製紡錘車 古墳後期

野々井古墳 (a:MD4.9・b:MD3.5)文献.360

径約17mの円墳の墳丘内から出土。糸紡ぎの道具の一部である。aのものは須恵質、bは滑石製である。bには、盤の中心にある貫通孔の中に、糸巻棒の残存物と思われる木質物が確認されている。遺物名に「紡錘車」があてがわれているが、舞戯法によって、火起こしをする道具の一部の可能性も考えられる。

(中川)



354

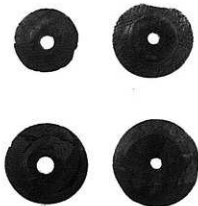


354 滑石製紡錘車 古墳中期
美園遺跡 (MD5.8・T1.7) 文献.104

古墳包含層から出土。共存遺物はない。一部を欠損するものの残りはよい。断面形状は台形を呈するもので、基本的には無文に分類されるが、端部の一部に刻み目が施されている箇所も存在する。出土地点は集落外の範囲と考えられ、性格や使用状況を考察することは困難といえる。

(森本)

355



355 滑石製紡錘車 古墳中期
池島・福万寺遺跡 (右上:MD3.8・H1.9) 文献.291

当遺跡の古墳集落からは滑石製品が多数出土するが、これら紡錘車4点も集落付近から出土。形状はいずれも断面台形を呈するもので、無文のものが2点、線刻が施されるものが2点出土している。線刻は圏線+鋸歯文で構成され、鋸歯文間には斜格子文でうめられる。

集落にかかわる実用品か祭祀具か考察の余地を残すものである。

(森本)

356

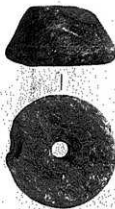


356 滑石製紡錘車 古墳中期
西岩田遺跡 (MD4.0・T1.2) 文献.79

中～後期遺構面のベース層から出土。共存遺物は認められない。全体の約1/5が欠損する。断面形態はやや厚みのある台形となっている。表面に線刻が施され、圏線間を斜櫛歯文で埋め、その間を鋸歯文で埋めるという基本的な意匠をとっている。類例は多いが細部の文様は異なるものが多いようである。

(森本)

357



357 滑石製紡錘車 古墳後期
太井遺跡 (MD4.0・T2.0) 文献.148

溝の底面から出土。側面および下面に、内側を格子で埋めた鋸歯文と呼ばれる文様を付けている。

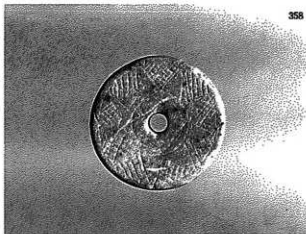
このような文様をつけた滑石製紡錘車は、近畿地方を中心に多くの遺跡で出土しており、文様の共通性から一元的な生産体制のもので生産されて流通したものである可能性も高い。

(江浦)

358 滑石製紡錘車 古墳後期
三田古墳 (MD4.1・T1.9) 文献.334

径約18mの円墳の石室内から出土。断面がほぼ台形を呈し、下端部は平坦であるが上端部はやや丸みをもたせて仕上げている。全体的に磨滅が著しく、実用されていた可能性が高いものである。文様は側面に10個、下端部に9個の鋸歯文をそれぞれ施している。なお、鋸歯文を施すのは、古墳後期に多くみられる特徴である。

(中川)



358

359 滑石製勾玉 古墳中期
小田遺跡 (L1.7・T0.4) 文献.245

溝の中で砥石の直下から出土。中央部の断面形が長方形を呈していることから、扁平な板材を加工したとみられる。溝からはほかにも多くの遺物が出土しているが、どれも遺存状態が悪く、本例も表面の磨滅が著しい。古墳中期になると、劣質の滑石を用いるようになり、これまでの硬玉製よりも大量に生産されるようになる。

(中川)



359

360 子持勾玉 古墳後期
観音寺遺跡 (L13.5) 文献.125

土坑から出土。中世の遺物と共伴し、混入品であるため詳細な時期は確定できない。材質は滑石製で、背面中央部の子が欠損しているほか、下端部も一部欠損している。断面形は、中央部をしぼった鼓形である。子持勾玉は、大阪府下では約50点の出土例が知られており、近隣では松原市丹比奈宮跡出土の1例がある。

(中村)



360

361 子持勾玉 古墳後期
池島・福万寺遺跡 (L10.4・W4.1) 文献.291

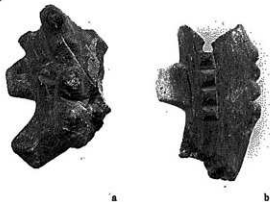
当遺跡ではこれまで4点の滑石製子持勾玉の出土が知られるが、遺構に伴うものは1点で、ほかは多くの滑石製品同様、集落内外の包含層から出土。4点はいずれも形態が異なるものであるが、本例は、特に幾何学的造形を指向した形状で、子持勾玉本来の意匠は薄らいでいるようである。祭祀に使用される道具と考えられている。

(森本)



361

362



362 子持勾玉

古墳後期

大坂城跡

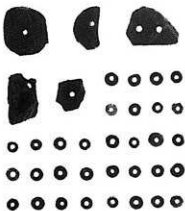
(a: ㊦7.9, b: ㊦7.3) 文献. 352

谷の埋土から多量の須恵器や土師器とともに出土。ともに滑石で作られており欠損が著しい。6世紀前～中葉頃のものである。

調査区周辺では祭祀をうかがわせる資料がいくつか見つかっている。こうした資料とともに本例も当時の祭祀形態を考えるうえで重要なものである。

(新海)

363



363 滑石製品・同木製品

古墳後期

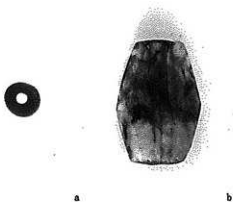
池島・福万寺遺跡

(上左:L2.2・T0.4) 文献. 291

当遺跡では多くの滑石製品が出土し、特に白玉には未製品も含まれていることから玉作り集落だったと考えられている。剣や楯をかたどったと考えられるものや、不定形な板に穿孔を施しただけのものなども多数出土し、生産地だけではなく集積地としての性格も推測される。これまでの調査では白玉6000点以上の出土が確認されている。

(森本)

364



364 水晶切子玉・ガラス小玉

古墳後期

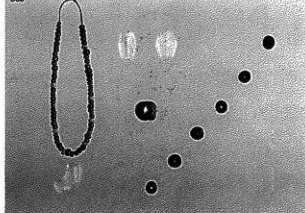
池島・福万寺遺跡

(a:D0.5, bL2.8) 文献. 291

363の滑石製品以外にも遺跡の古墳集落からは、ガラス玉(a)や水晶玉(b)、銅製耳環等が出土している。遺構に伴うものではないので集落内での位置づけは不明であるが、須恵器器台などの土器や鉄滓、滑石製品などとともに、古墳の副葬品として集められていたのではないかとする考え方もある。古墳時代の集落像を考えていくうえでの資料となろう。

(森本)

365



365 水晶玉・ガラス玉

古墳後期

三田古墳

(中央:MD1.3-H1.8) 文献. 334

横穴式石室から出土。本来は被葬者の身に付けられていたが、攪乱のため広範囲に散乱していた。出土した玉類は、水晶製の勾玉・切子玉、めのう製の丸玉、大小のガラス玉である。ガラス玉は、青・黄・緑色の3色があるが、その形状は様々である。墳頂部の木棺から、ほとんどガラス玉が出なかったことは対照的である。

(駒井)

366 メノウ勾玉

大庭寺遺跡

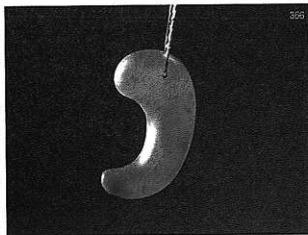
(L3.3・W1.1)

古墳後期

文献.260

包含層から出土。

赤褐色を呈したメノウ製の勾玉である。平面形態は「コ」の字形を呈し、断面は円形に近い。孔は片側から径3mmの穿孔がなされており、反対側は径1mmとなり、さらに径5mmの皿状の窪みを有する。周辺からは6世紀から8世紀の遺構が密集して検出されているが、この勾玉との関連は不明である。(市本)



366

367 鏡形碧玉製品

三田遺跡

(L5.5・W1.1)

古墳前～中期

文献.181

包含層から出土。石英の一変種である濃緑色の碧玉で造られた柳葉形の石製品。現在のところ、類型は知られていない。ほぼ完形。刃は4方向からつけられ、鋭い稜がはしる。身部の中央では稜をもつ楕円形、基部では円形の断面を呈する。近接地の岸和田市摩湯山古墳と小古墳群の存在から、古墳に副葬されていた遺物と考えられる。(田中-)



367

368 石臼

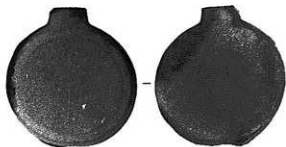
久宝寺遺跡

(D29.4・T6.3)

古墳中期

文献.143

中期の河川から出土。中央琢磨面と外縁周辺が若干くぼみ、外縁は低い。琢磨面を中心として全体に赤色顔料が、外縁面には油脂状のものが付着している。形状は受鉢つくりつけ石臼の受鉢部に類似している。同様の石臼は、藤井寺市河内野中古墳などからも石杵と一緒に砂岩製品が出土しており、同様に朱の付着が認められている。(金光)



368

369 石杵

久宝寺遺跡

(L15.6・MD6.0)

古墳前期

文献.145

中央部落ち込み上層から出土。

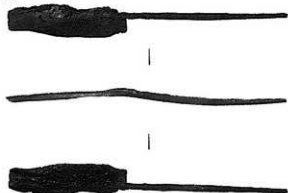
断面ほぼ円形の砲弾形を呈する。上端から約10cmのところ段をなし太くなる。下端面はほぼ平坦な面をなしているが、一方に傾斜している。下端面の一部には赤色顔料の付着が認められる。緑泥片岩製。なお、野中古墳の石杵は石臼と同じ砂岩製である。



369

(金光)

370



370 鋤
美園遺跡 (長99.0・w11.5) 文献.104

前期の土坑から、刃先を下に向けて斜めになった状態で出土。把手および身の一部を欠損しているが、把手から身まで一木作りで、柄の部分に反りに入った「一木式屈折鋤」と呼ばれるものである。この形態の鋤が一般化するの古墳時代に入ってからであり、前期に属する資料として貴重なものといえるであろう。樹種はカシ。(本田)

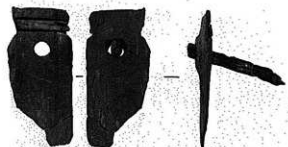
371



371 鋤
亀井北遺跡 (長81.0・w12.0) 文献.118

包含層から出土。木製農耕具で、身と柄は一本で作られる。把手はT字形に削り出す。樹種はヒノキ。農耕具の材は硬くて強いカシ類が多いが、本樹種例は少ない。弥生時代の和泉市池上遺跡では、ヒノキはほとんど紡織具や板、さらに鳥や剣等の祭祀具に使用されている。出土地点が特異であること、また付近で朱が付着した小形丸底壺が出土して興味深い。(小野)

372

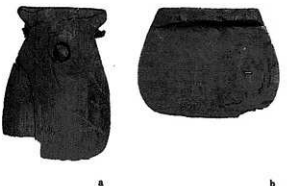


372 鋤
美園遺跡 (身部:長27.0・w12.7) 文献.104

土坑の下層から、多数の土器や木製品とともに出土。身と柄からなる。身はほぼ長方形を呈し、前面には浅い溝を削り込んで別木を挿入し、後面は柄孔の周囲を削り出して隆起させている。木取りは、身が柾目材で、別木が横木取り柾目材を使用している。柄の端部には焼けた痕跡が残る。身と柄の角度は63.5°である。

(奈加)

373



373 泥除け
下田遺跡 (a:長28.0・W21.2) 文献.381

旧石津川の流路が徐々に埋まり、古墳前期前半頃には幅6~10mの溝が出現する。溝内には多種多様な木製品が布留式土器とともに投棄されていた。aは木製の鋤で、上部の括り部裏側の削り込みに、泥除けの突起部のみが接続された状態で出土した。bは広鋸の泥除け未製品である。突起部は作り出されているが柄穴はまだ穿たれていない。(仁木)

- 374 二又鎌 古墳前期
下田遺跡 (L50.8・W15.0) 文献・381

古墳前期前半頃の溝から、布留式土器と多種多様な木製品とともに出土。木製品には農具が多い。いわゆる茄子形の鍬で、泥除の付く鎌とは用途がちがう。田を均すのではなく、田を起こすものである。括り部と下端部に柄を縛り付けた痕跡がみられる。下端部は尖るが、鎌先の装着痕はない。身の強度も要求され、板目の木取り材が用いられる。(仁木)



- 375 えぶり 古墳前期
亀井北遺跡 (L14.0・W33.5) 文献・119

溝の埋土上層(明青灰色砂質層中)から、古墳時代の遺物とともに出土。

「えぶり」とは、田植えを平滑におこなうために田面を平坦にならしたり、穀物の乾燥時に平坦にならすための農具の一種である。弥生時代から類例はみられ、水稲栽培の発達史上、重要な遺物のひとつであるといえる。(長原)



- 376 大足 古墳前期
友井東遺跡 (L84.9・W45.0) 文献・85

青灰色シルト質粘土の自然堆積層から出土。部分的に欠損するがほぼ原形をとどめている。足板周りに梯子形の木枠を取り付けた大形の代踏田下駄(大足)である。庄内~布留期初頭の土器と共存することから、古墳前期の遺物と推定される。山形県鶴巻遺跡例とともに、梯子形枠を有する田下駄として貴重な類例といえる。木枠はすべてスギ、足板のみコウヤマキ。(長原)



- 377 鎌状木製品 古墳中期
小阪遺跡 (L23.2・W4.0) 文献・287

中期集落のすぐ側を流れる河川から出土。鎌状の木製品。一部のみ残存する刃部と、ほぼ完形の柄部からなり、装着した状態であった。刃の部分まで木製で、実用に適したかは疑問。河川にかかわる水際のまつりに供された可能性もあるだろう。欠製の鎌は柄をともなって出土することが稀なので、本例は鎌の構造をうかがうことのできる貴重な資料である。(信田)



378



378 堅杵

古墳前期

久宝寺遺跡

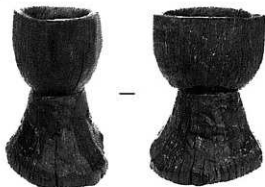
(ℓ 111.7・MD8.5) 文献.143

前期の溝から出土。

搦部（脱股・精白・製粉などをおこなうときなどに搦く部分）と握部との境は不明瞭で、搦部から握部にかけて徐々に細くなる。全体的に腐朽が激しく、加工痕は観察されていない。

本来、堅臼とセット関係にあるが、本例には伴出していない。（長原）

379



379 臼

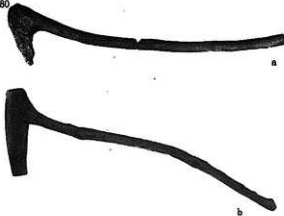
古墳中期

小阪遺跡

(MD26.0・H36.0) 文献.287

中期集落のすぐ側を流れる河川から、多数の土器、木製品とともに出土。縦長のもの。鉢の部分は、平面楕円形の半球状で、深さ10.5cm。脚台部分の端は幅5cmほどを面取りし、底はわずかに抉って上げ底にしている。外面には加工痕をよく残す。一緒に出土はしていないが、おそらく木製の杵とともに、脱股などに用いられていたのだろう。（信田）

380



380 斧の柄（未製品）

古墳中期

久宝寺遺跡

(a:L57.5・b:L81.0) 文献.143

中期の自然河川から出土。斧の柄の未製品である。

ともに幹の枝分かれ部分を利用し、握部は枝をそのまま使い、幹を木目に沿って半截して斧装着部分（台部）としている。aは完形品で台部の加工状況がよく観察できる。bは一部を欠いているが、全体像は予測可能である。鉄斧用の可能性が高い。古代の工具を推しはかれる貴重な例である。（長原）

381



381 叩き板・当て具

古墳中期

日置荘遺跡

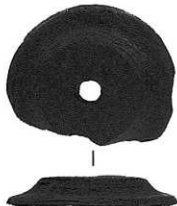
(最下:L28.2・W9.8) 文献.256-254

須恵器窯のそばの河道から、窯から掻きだされた須恵器不良品とともに出土。須恵器の製作工具。内面に茸形の当て具、外面に叩き板を当て、器壁を叩きしめる。当て具表面には同心円文、叩き板表面には平行線を刻む。当て具のひとつには柄の末端および中央に「コ」「×」の陰刻がある。土器製作工具の出土は稀で、貴重な資料である。（信田）

382

382 木製紡錘車 古墳前期
久宝寺遺跡 (D6.2・T0.9) 文献.143

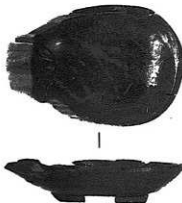
溝からは、ほかに山嶽系の鼓形器台、小形丸底甕等多くの遺物が出土した。本例の断面は台形を呈し、側辺はわずかに外反して開き、端部で縁をなす。貫通孔はやや斜めにあける。一般的に紡錘車は鉄、石、土器片、木等で作られる。木製品は残りにくく発掘調査で見つかることは珍しいので、本例は貴重な資料といえる。(久家)



383

383 片口容器 古墳前期
久宝寺遺跡 (W26.7・H10.4) 文献.145

断面逆台形を呈する運河的な溝から、多くの遺物とともに出土。溝の下層と中層からは完形にちかい土器類が出土するうえに、木製品の出土率も高い。材を削り貫いて作り、断面は碗状を呈し、底は深い。平面形は楕円形を呈し、一方の端に注口が作られ、外底面には三脚がつく。酒などの液体を入れて注ぐための容器なのであろうか。樹種はコウヤマキ。(久家)



384

384 容器 古墳前期
久宝寺遺跡 (W26.0・H4.2) 文献.145

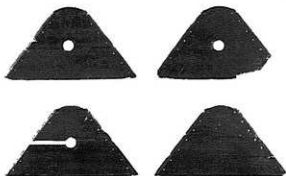
383と同一遺構から出土。布留期中段階(小若江北式)を中心とする上層からの検出である。材を削り貫いて作り、内底面は平らで浅い。平面形は隅丸方形を呈し、両側に把手をもつ。また、外底面には脚がない。食物などを入れて持ち運んだのだろうか。同一遺構出土の383と比較すると、形態的に大きく異なり、用途のちがいを示唆している。樹種はクスノキ。(久家)



385

385 四方転箱 古墳前期
下田遺跡 (H12.4・W22.5) 文献.381

前期前半の溝から出土。四方転びの箱と呼ばれる用途不明の木製品である。底板の検出事例はない。「転ぶ」とは傾斜するという意味である。4枚の板材を使用し、四角錐の上部を切った形を基本とするが、上部や側面の孔の形態のちがうものが数タイプある。大陸系の木工技術である「規矩術」を用いて板材側縁を加工し、周辺に小孔を穿ち組み合わせる。(仁木)



386



386 船形木製品

古墳前期

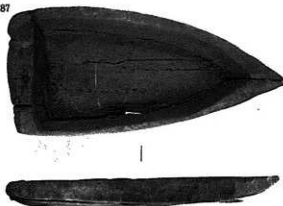
下田遺跡

(L14.9・W3.1)

文献.381

前期の溝状遺構から出土。一木造りの丸木船を模す。平らに成形された船底、上方に跳ねた船首、鈍角に作られた船尾からなる箱型の丸木船で、形状から船の前後は容易に判別できる。舷側と船底に沿って内部は大きく割り込まれている。祭りの道具として作られたミニチュアで、邪気を乗せて水に撒き流す風習があったとも考えられる。(西村)

387



387 船形木製品

古墳前期

久宝寺遺跡

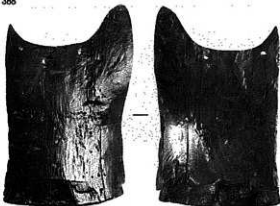
(L61.8・W28.8)

文献.143

前期河川の南肩部から出土。下には多年生草木類で纏んだ敷物が敷かれていたことから、偶然流れて来たとは考えられない。

一木作りで、芯をはずした横木取りである。平面二等辺三角形を呈し、舷側と船首との境は不明瞭。全体に加工痕が明瞭に観察される。船底は丸味をおびた平底である。樹種はスギ。(金光)

388



388 短甲

古墳前期

下田遺跡

(L42.7・W26.4)

文献.381

前期前半の溝から出土。前胴と後胴の判断は難しいが、体に合わせた微妙な加工凹凸が削りだされている。襟部付近に2箇所の紐掛け孔を穿ち、側縁は上方に立ちあがる。胴部に横位の単純な線刻があり、裾部に縦方向の亀裂を補修した補修孔がみられる。紐掛け孔の磨耗や装飾性に乏しいことから実用品と考えられる。樹種はヤナギ属。(仁木)

389



389 把頭

古墳前期

下田遺跡

(L10.5・W4.7)

文献.381

前期の溝状遺構から出土。刀剣の把頭である。全体的に朱が塗布されているが、使用により大部分が剥落している。先端片側に1列の鋸歯文が彫刻により装飾され、またその反対側には小孔や小溝等の細工があって、洋剣にみるような護巻が装置されたと考えられる。後に玉籠大刀などとして発展する護巻をもった刀剣類の祖形とみることも可能であろう。(西村)

390 把頭状木製品 古墳前期
久宝寺遺跡 (ℓ7.5・W5.5) 文献.145

前期の河道から出土。刀剣の把頭部は波状に陰刻され、全面にベンガラが塗布された把頭部は波状に陰刻され、端部が銀杏葉状に開いて肥厚する。把頭部は段をなして細くなり、突レンズ状の断面をもつ。この部分にはベンガラの塗布がなく、おそらく糸や布などが巻かれていたであろう。樹種はスギ。

(赤木)



391 環状形木製品 古墳前期
下田遺跡 (ℓ19.3・W7.5) 文献.381

前期前半の溝から出土。環状形木製品である。出土類例中最も遺存状態の良好なもので、一木を細徹に加工し、環状部から柄の糸巻き部まで黒漆を施している。

端部は半月状に開き、片側は柄との境目まで削り取られる。境目には筋状の抉りが周囲をめぐる。篳や房の出土はないが、麤尾や弘子などの威儀具の把手部分の可能性が高い。樹種はイヌガヤ。(仁木)



392 椅子形木製品 古墳前期
久宝寺遺跡 (W59.9・H17.5) 文献.143

水田大畦畔近くから横倒し状態で出土。ほかに小形丸底壺、甕が出土した。一木作り、座板は側面および端面から見ると端に向かって反る。一方の端部は削り出して下方に肥厚させ、もう一方は上面に1条の溝を彫っている。脚は台形を呈し、端面から見ると座板に對し外に広がる。埴輪や石製模造品にも同様の例がある。(寺川)



393 琴 古墳前期
下田遺跡 (ℓ40.8・W13.1) 文献.381

前期の溝状遺構から出土。上板のみで、尾を欠失し、集弦孔を含む頭部が残存する。側縁には羽子板形状に似た緩やかな段を有する。側縁付近の部分には朱の痕跡が認められ、共鳴槽を連結する細長い孔も穿たれている。大きさから実用品と考えられる。琴をはじめとして、楽器は音を鳴らすことで神の意代としての機能をにう祭具であった。(西村)



394



394 堅櫛

古墳前期

池島・福万寺遺跡 (I 2.3・W2.5) 文獻.337

前期の土坑から、布留式土器や木製品とともに出土。歯部を欠き、頭部(ムネ)のみ現存する堅櫛である。

古墳時代の櫛は、東北～九州地方の二百数十遺跡から出土しているが、ほとんどがこの形態の堅櫛であり、縄文～弥生時代の櫛に比べ形態のバリエーションに乏しい。そのため、画一的な大量生産が想定される。

(本間)

395



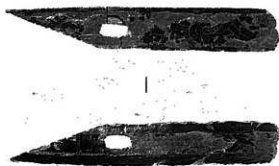
395 堅櫛

古墳中期

城山6号墳 (右: I 2・W2) 文獻.122

中期後半の方墳の木棺から出土。圭頭大刀、環頭小刀、小形鉄製品、木銀朱、東頭位の人骨とともに検出された。長めの歯を中央で結びそれを頂点として逆U字形に湾曲させ、横方向に括弧^{くわく}あり、葉歯式^{はば}と呼ばれる。同じ堅櫛ではあるが、縄文以来の伝統的な結歯式とは、1本の歯材が先端では2本の歯として機能する点で大きく異なる。櫛種はタケ。(本間)

396



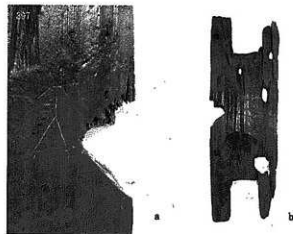
396 直弧文板

古墳前期

西大井遺跡 (I 53.6・W8.6) 文獻.382

前～中期の土器や木製品を多量に包含する層から出土。長い板状を呈するが、両端とも欠失する。一面には整美な直弧文を連続して描き、いま一面には浮彫風の表現でやや間延びした直弧文に方形区画文を続ける。側面にも連続した刻み目がみられる。全面黒漆塗りで、沈線内には赤色顔料がみられる。大刀を模したのか。

(大野)



397 線刻不明木製品

古墳後期か

大庭寺遺跡 (I 85.5・W28.0) 文獻.220

石津川の中流域左岸、古墳時代の旧河道に取り付く溝の中層から出土。板状の木製品。用途不明品であるが、小見用木棺の底材、建築部材の一部の可能性もある。両小口部をコの字状に切込み、平面H形を呈す。規則性はないが板表面4箇所に孔が穿たれている。板自身は腐化や欠失が多いが、表面中央に手に道具を持つ人物らしき線刻(a)が認められる。(田中)

398 土器類一括 飛鳥後半
太井遺跡 (手前中央:RDM4.2-H4.3) 文献:149-168

7世紀後半の建物群を囲む溝、井戸、土坑などから出土。

写真に掲げたものは主として食器として用いられた土師器と須恵器であるが、これらに混じて朝鮮半島から搬入された統一新羅の陶器のほか、煮炊きや貯蔵用の甕なども多数出土しており、当時の生活を復原するうえにおいて貴重なデータをもたらしている。(江浦)



399 土器類一括 飛鳥後半
真福寺遺跡 (左端:RD13.1-H19.2) 文献:128-168

飛鳥時代の井戸の下層からまとまって出土。

周辺からはこの井戸とほぼ同時期の掘立柱建物や溝も検出されており、さらに井戸の西側にある谷の斜面からは瓦窯などが検出されている。

写真に掲げた土器は完形に復原されるものであり、井戸をめぐる祭祀に伴うものであるとも考えられている。(江浦)



400 土器類一括 平安中期
男里遺跡 (最奥:rd11.8-H22.9) 文献:337-351

平安時代の集落跡から検出された土坑から出土。

黒色土器碗、土師器皿・杯・甕・鎗壺・土甕、須恵器、鉄洋等が出土している。

当遺構は多くの炭化物や二次焼成を受けた土器が多くみられるため、火災にあった後に廃棄された一括の遺物であろうと考えられる。10世紀後半の泉南地方の土器様相を示す良好な資料といえる。(岡本)



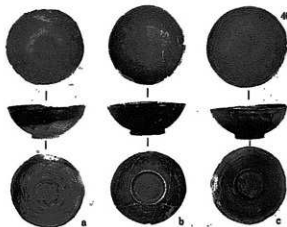
401 土器類一括 平安後期
日置荘遺跡 (a:RD15.2, b:RD15.2, c:RD15.6) 文献:174-354

平安時代の井戸の最下層からまとまって出土。

出土した土器は、aが黒色土器、b・cが瓦器である。いずれも完形に復原され、器表面のヘラミガキなどの調整も非常に良好に残っている。

特に2点の瓦器は最も古い段階のものであり、黒色土器との共存例としても重要である。

(江浦)



402



402 須恵器（壺：骨蔵器） 奈良後期
植田池遺跡 (RD:13.4・H21.8) 文献.307

有高台の短頸壺で、肩部の張りは強く、底部にかけての側面観は直線に近い。この地域の古代の墓域は、段丘面内の傾斜変換点斜面上に存在したと考えられる。本例はこの時期の骨蔵器と考えられ、以降の開発による開墾時に、斜面上から転落、破砕し二次堆積したものである。検出土坑中に骨片はなく、炭や蓋と考えられる土師器の出土をみている。(仁木)

403



403 須恵器（壺・蓋：骨蔵器） 奈良後期
野々井西遺跡 (壺:RD11.8・H19.0)文献.361

有高台の有蓋短頸壺で、肩部の張りは弱く、体部中央付近まで丸みをおび、全体に球形化している。丘陵斜面中に蓋をした状態で検出された。周囲にはなんら標識となるものはなかったが、原位置を保つものである。壺は体部径とほとんど同じ掘方内に収められており、拵大の6個の河原石の上に安置されていた。壺内には成人の火葬骨一体分が収められていた。(仁木)

404



404 土師器（羽釜：棺） 平安前期
佐堂遺跡 (RD29.4・H34.0) 文献.103

合口の土師棺に利用されていた羽釜2点のうちの1点である。

羽釜は竈や飯とセットとなる炊飯具であり、鍋の役割を有する土器である。また、この羽釜をはじめとして大阪周辺出土の羽釜の多くは、土器に含まれる飯物の分析から、生駒山地の西麓域で生産されたものであることが明らかとなっている。(江浦)

405



405 奈良三彩（小壺：X線写真） 奈良前期
栗生間谷遺跡 (壺:RD8.7・H4.4) 文献.385・391

直径約18cm、深さ約9cmの円形の小土坑から、ほぼ正位の状態出土(P11参照)。蓋部、身部とも完形で、内容物が密封されていた。開封の結果、壺底に約50個の鉛ガラス小玉と有機物がみられた。奈良三彩小壺は全国で約60箇所の遺跡で検出されているが、内容物が遺存したものは少ない。類例から考えて、地鎮のため埋納されたと思われる。(岡本)

406 緑釉陶器 (皿) 平安中期

山直北遺跡 (RD18.0・H4.7) 文献.190

遺跡内を流れる平安時代の自然流路から出土。当遺跡は、郡衙もしくは地元豪族の居館ではないかと考えられている集落跡である。体部は直線的にたちあがり、内面に段を有する。高台は貼り付けてある。胎土は緻密で軟らかな須恵質である。艶のある若緑色の釉が、高台接地面をのぞき全面に施される。底部内外面にトチンの跡がみられる。(岡本)



407 緑釉陶器 (香炉) 平安中期

山直北遺跡 (rd9.7・H5.3) 文献.190

直径78cmの円形の土坑から出土。長い高台は「ハ」の字形に開く。口縁部はかえりをもち、蓋を有していたものと思われる。焼成は軟質である。透明度の高い浅黄色の釉が全面にかけられている。高台には透かし孔端が観察できるが、類例からみて猪目状の孔が3方に配された可能性がある。見込みには「七」の字がヘラ書きされている。猿投窯の製品であろう。(岡本)

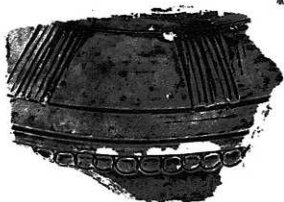


408 新羅緑釉陶器 (蓋) 飛鳥

大坂城跡 (rd20.0・h4.6) 文献.323

7世紀代の包含層から出土。

胎土は明白色を呈し、きわめて精良。内外面ともに明褐色～黄緑色の釉が施される。文様は、外面の上部と口縁部にみられる。口縁部の文様は、円形の連続文様であり、上部の文様は3重の円弧文とその間にみられる放射状の櫛描文である。これらの特徴から新羅産の硯などの蓋と推定される。(錦柄)



409 統一新羅陶器 (碗) 飛鳥後半

太井遺跡 (rd10.7・H5.3) 文献.149・168

飛鳥時代建物群の北側を面する溝から出土。

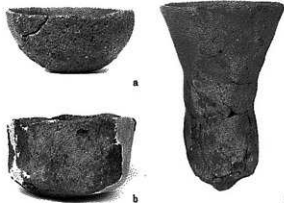
外面にスタンプ文様を有する点が最大の特徴である。このような特徴から朝鮮半島を治めていた統一新羅から搬入されたものであることが判明している。

遺跡周辺を本願地としていた多治比真人氏および青銅製品の鋳造工房との関わりが興味深い。

(江浦)



410



410 製塩土器

奈良後半

田山遺跡

(a:rd10.3, b:rd15.8, c:rd11.3) 文献.73

溝から出土。当遺跡の製塩土器には、浅鉢形(a・b)と深鉢形(c)、甕形がある。前二者と後者では出土地点が異なる。甕形で煎煮して荒塩を、浅鉢形と深鉢形で焼き塩すなわち精製塩を作ったらしい。深鉢形は紀州の、甕形は北部九州の製塩土器に似る。各地の技術が当遺跡にある。6世紀以降全国的に製塩遺跡が盛衰し、大和政権が塩生産に関与したらしい。(入江)

411



411 軒丸瓦

奈良前期

真福寺遺跡(3号瓦窯)(D18.7・T2.7)

文献.128

瓦窯灰層から出土。

重圏文重弁八葉の丹比磨寺式軒丸瓦である。

焼成は軟質で、色調は暗赤灰色を呈する。

遺残状態はあまり良好でなく、外面は磨滅し、瓦当周縁の一部および丸瓦との接合部に剥離した状態での出土である。周縁は独立縁であり、1条の重圏文をめぐらしている。(銅柄)

412



412 軒丸瓦

奈良後期

長原遺跡

(D19.2・T3.2)

文献.47

ピットから出土。

複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。外区外縁に鋸齒文、外区内縁に珠文をめぐらす。珠文は24個を数える。中房には1+8のやや小ぶりの蓮子を配する。直径は、19.2cmと大形である。このほか、同時期のものとみられる軒瓦が数点出土しているが、瓦類を使用する建築物は確認されていない。(島崎)

413



413 軒丸瓦

平安前期

大庭寺遺跡

(d11.5・T1.5)

文献.260

包含層から出土。単弁六葉蓮華文軒丸瓦である。中房は小さく、蓮子は配さない。蓮子の輪郭線は隣合うものと共有し、間弁は存在しない。内区と外区の間に幅広の圏線を有し、その外側に鋸齒文を配する。須恵質の灰色を呈する。当遺跡は、奈良時代の規格性のある建物群が検出され、『行基年譜』記載の^{大庭院}との関連も想定されている。(市本)

414

414 軒丸瓦 平安後期
金剛寺遺跡 (D15.6・T2.7) 文献.182・345

包含層から出土。

複弁八葉の蓮花文軒丸瓦である。

文様の特徴は、中房部分がやや突き出し、周囲はわずかに盛り上がる突線をめぐらせ、1+5の蓮子に周環がみられる。8単位の花弁は平面的で、突線で表現された花弁内の子葉は、平行する2本の突線で表現されている。文様としては全体的に復古調である。(田中■)



415

415 軒丸瓦 平安後期
日置荘遺跡 (D17.0・T3.4) 文献.173・256

土坑から出土。複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。中房は大形で隆起しており、蓮弁には肉厚がある。外区の珠文は2+3の単位で配されている。珠文が連続した同系の軒丸瓦も出土している。当遺跡からは、溝で区画された中世屋敷地等が検出されている。瓦は416・472・473のほかに多量に出土しているが、明瞭な寺院建築遺構は検出されていない。(市本)



416

416 軒丸瓦 平安後期
日置荘遺跡 (D13.3・T2.8) 文献.173

包含層から出土。梵字複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。

中房に梵字「アン」をおき、周囲に雄蕊帯をもつ。梵字「パン」をおく同系も出土している。中房に梵字をおく軒丸瓦は南河内・和泉地域にみられる。当遺跡からは溝で区画された中世屋敷地等が検出され、瓦が415・472・473のほかに多量に出土しているが、明瞭な寺院建築遺構は検出されていない。(市本)



417

417 軒平瓦 平安後期
金剛寺遺跡 (W23.7・H4.0) 文献.182・345

包含層から出土。両脇より唐草が中心に向かってそれぞれ3回転して中心で背向する、均整唐草文の軒平瓦である。本例は特徴的な文様構成をもっている。文様部分は断面三角形を呈し、非常にいい作りである。また、頭は締頸で胎土は非常に緻密である。平瓦部凹面には粗い布目と離れ砂があり、凸面には縦方向のヘラケズリ痕がみられる。(田中■)



418



418 軒平瓦 平安後期
西大路遺跡 (W23.2・T4.3) 文献.189

中世整地土層から出土。均整唐草文軒瓦である。唐草は中心より外側に向かって、それぞれ3回転している。文様部分は断面三角形を呈し、瓦当部には部分的に離れ砂が付着している。胎土は砂粒を多く含み、焼成はやや軟質である。この軒瓦は通常の軒瓦と比べると、幅や厚さは変わらないが長さが短く、形態を異にしている。(田中m)

419



419 埴 奈良
丹上遺跡 (a: 8.12.0・T5.1) 文献.126-168

旧竹内街道に近接し、規格的に配置された8世紀代の、官衙的性格の強い獨立柱建物の掘方から出土。ともに須恵質で、ヘラナデ調整によって仕上げている。片面に同心円文タタキ、片面に布目瓦痕が残っている。片面に同心円文タタキ、片面に布目瓦痕が残っている。また、aの片面には、縁からそれぞれ9.7cm内側に直交する線刻がみとめられる。整形時あるいは埴を用いた施工時の基準になる線と考えられる。(金光)

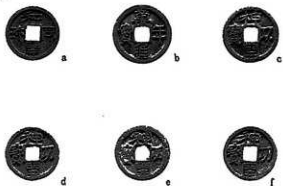
420



420 埴 飛鳥後半
大庭寺遺跡 (8.9・T1.5) 文献.260

瓦などとともに包含層から出土。蓮華座の上に菩薩と思われる立像の左脚がみえ、その右に両肩からかけた帯状の衣、天衣が垂れ下がる。右端には草花文が上にのびる。左右の復原幅は約15cm、仏像を一体のみ表現する形式と考えられる。奈良時代に建立された大庭院に先行する寺院が存在していたとみられ、その建物内部の壁などを飾ったものと思われる。(佐伯m)

421



421 和同開珎・萬年通寶・神功開寶 奈良前～後期
城山遺跡 (a:D2.3, b:D2.4) 文献.122

いずれも薄状遺構から出土。奈良から平安時代にかけて、日本で铸造された12種の貨銭(皇朝十二銭)のうち、唐の「開元通宝」にならい708(和銅1)年に日本で初めて铸造された「和銅開珎」(a)、760(天平宝字4)年の「萬年通寶」(b)、765(天平神護1)年の「神功開寶」(c~f)。いずれも方形孔を有する円形銅銭。文字は右回りに配される。(田中一)

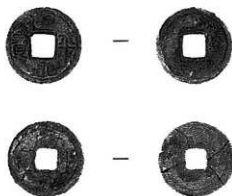
422 隆平永寶

平安前期

上フジ遺跡

(a:D2.5, b:D2.5) 文献.191

包含層から出土。皇朝十二銭のうち、桓武朝の796(延暦15)年初鑄の銅銭。平安時代に鑄造された9種の貨幣のうち最初のもの。1枚は「平」の下部に鑄込み時のキズがみられる。大きさや字体などのちがいより、別の鋳型銭である。近接して大形掘立柱建物が存在し、泉州牛滝谷の奈良後期から平安初期の集落の動向を知るうえでの貴重な一資料である。(田中)



422

a

b

423

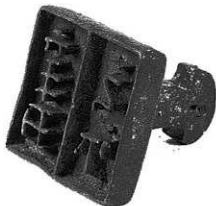
423 銅印

平安前期

大庭寺遺跡

(W3.6・H4.3) 文献.(未報告)

集落が展開する丘陵部に開折された小規模な谷内の、中世以降の地積層から出土。鈕の形状はゆるやかな弧状を呈し、中央に円孔を穿つ有孔弧鈕であり、鈕の基部には段状の突帯がめぐる。印台部は厚さ8mmを測り、上面対角線には明瞭な稜線を有する。印面は界線によって二分され、印文は左右縦に2字ずつ「辛丑之印」と判読される4文字が鑄出されている。(岡戸)



424 唐式鏡

平安前期

大坂城跡

(D17.3・T1.1) 文献.389

高台部から検出された墓の供献資料である。墓は軸を南北にあわせた木棺墓で、上部が削平されているため、床面近くのみ調査となった。数珠玉、曲物に入った「隆平永寶」も検出しており、唐式鏡はその曲物容器に接する南側の下部に位置する。上下を布と木製品ではさまれていた痕跡があり、表を下にして置かれていた。(錫柄)



424

425 銅鈴

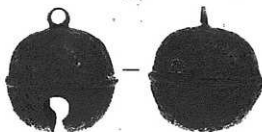
平安中期

池島・福万寺遺跡

(MD2.9・H3.1) 文献.371

平安時代の水田面から出土。鈕部分、上半部分、下半部分が別づくりで接合されている。条里型水田を区画する基準となる坪境畦畔から出土しており、意図的に水田に持ち込まれたと考えられる。

銅鈴は古代から寺院の地鎮め具のひとつとして用いられることがあり、本例も地鎮め具として水田に埋納されたものであろう。(渡辺)



425

426



426 馬鉄歯 平安中期以降
池島・福万寺遺跡 (a: L15.2・W2.3) 文献. 264・325・356・357

農養生産遺跡としての当遺跡からは農具の出土もままみられるが、馬鉄の歯も使用中に脱落したものが、古代以降の水田の耕作土層から出土。

使用痕跡の顕著な断面長方形の鉄製品で、古いものは平安中期(b・c)にまでさかのぼる。日本最古の馬鉄の歯も木製であり、本例は馬鉄鉄器化の最も初期の段階に位置づけられるものであろう。(森本)

427



427 鹿角装刀子 飛鳥後半
亀井遺跡 (L19.6・W2.6) 文献. 63

平面長楕円形の沼沢地状になっていた落ち込みから出土。鹿角製の把は、中央より把頭寄り刃背方向に曲がる。把頭近くの両側面は未加工で凹凸が残る。刀身は先端と刃部が欠損する。茎の状態は不明であるが刀身と同程度の長さで推定される。木製把に屈曲する資料があることから、本例のような鹿角製品の模倣と考えられている。(寺川)

428



428 ミニチュア甕 奈良後期
亀井北遺跡 (RD12.6・H14.5) 文献. 120

川幅が約195mと推定される大河川であった、奈良後期の平野川に堆積した砂層中から出土。

遺存状態が良好な土師質品である。胎土は密で焼きしまりもよい。内外面に指押えがなされている。焼き口上部が突出し、下向きの把手が2箇所つく。内面および焼き口上部には煤が付着し、何らかのかたちで使用されたものと思われる。(岡本[▲])

429



429 ミニチュア甕・鍋 奈良後期
小阪遺跡 (a: RD4.4・b: H6.4) 文献. 287

8世紀末頃に埋没した河川から出土。

甕(b)の上部は押しへこまされているだけで孔はあいていない。内外面に粘土紐の雫ぎ目を残す。甕は矮小化している。この甕と鍋(a)は出土地点が10mしか離れていないことや、甕のくぼみに鍋がぴったりとはまることから、セットになると思われる。何らかの祭祀に使用されたと考えられる。(岡本[▲])

430 ^{どほ}土馬 飛鳥後半
城山遺跡 (ø10.6・h4.5) 文献.122

古墳後期から飛鳥時代の自然河川から出土。非常に写実的で、鬣、尻鬃、鞍、手綱などを、粘土紐を貼りつけたり、つまみ出して表現している。土馬としては初期的なもので、7世紀代に比定される。

ほかにも近くから皇朝十二銭が出土しており、河川が安定している時に、祈雨や地鎮の祭祀がおこなわれたと推察される。(川瀬)



431 円面硯 奈良前期
大庭寺遺跡 (ø7.9・bd27.0) 文献.220

^{はりた}梁行4間×^{たて}桁行2間の建物に平行する浅い溝から出土。脚台部には長方形の透しをあげる。陶硯は硯面の平面形態等により、大きく、円面硯、楕円硯、風字硯、形象硯、方形硯等に分類される。この分類によると、本例は円面硯であり、さらに脚台部の形態から圍足(円面)硯と呼ばれる。

(久家)



432 円面硯 奈良
真福寺遺跡 (RD17.6・h6.5) 文献.128・168

遅くとも奈良時代には大半が埋まった谷部から、古墳時代～中世の遺物とともに出土。当遺跡のすぐ南方には美原町黒山廃寺があり、本例は寺関係の有識者が使用したものか。黒山廃寺は奈良前期に創建され、奈良時代を通じて維持されるが、奈良末期に火災にあい焼失したようだ。鎌倉時代に再建されるが南北朝時代に再び焼失した。(久家)



433 円面硯 奈良～平安
西浦橋遺跡 (rd11.0・h5.9) 文献.92

包含層から出土。小形の圍足(円面)硯であり、使用された痕跡が認められる。円面硯は硯面直径から、大形、中形、小形に分類できる。大形は直径30cmをこえるものもあり、共同で使用したのであろう。中形は直径20cm前後の一般的な大きさであり、432がこれにあたる。本例が含まれる小形は直径約10cmのものであり、持ち運びには便利であったろう。(久家)

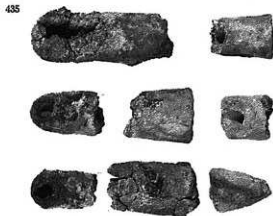




434 埴塼^{きつば}
太井遺跡 (手前中央:RD12.0-H6.0) 文献.149-168

奈良時代の青銅製品の鑄造工房から出土。粘土のみで作られたもののほか、半分に割った妻あるいは専用の外容器の内側に粘土を貼り付けたものがある。本例は鑄造工房に棄てられていた埴塼であり、80点以上が出土している。生産していた製品は不明であるが、河内銅銭司^{かわちのすえんし}に関連するという説もある。

(江浦)



435 鑄羽口^{かごほぐち}
太井遺跡 (左上:ℓ19.9-w7.5) 文献.149-168

434の埴塼とともに出土。羽口は、金属の溶解炉と送風器である鑄を結ぶ通風管の先端部である。羽口は通常、筒状を呈するが、この羽口は先端部分が煙管のように湾曲している。

同じ特徴をもつ羽口は、平城京跡で検出された同時期の鑄造工房からも出土しており、同じ技術をもつ工人の存在を想定しうる点で重要な遺物である。(江浦)



436 鑄型^{けい} (器)
日置荘遺跡 (ℓ8.0-w6.5) 文献.172-354

包含層から出土。ていねいに作られた土製の鑄型で、仏具の一種である器を鑄造したと考えられる。鑄型の約1/3が残存しており、復原すると横14cm、縦4cmの片面器が推定できる。器には文様は施されていない。形態などから考えて平安末期のものと思われる。器の鑄型は全国でも出土例がほとんどなく貴重な資料といえる。

(新海)



437 水晶辻玉^{すいす} (数珠玉)
大坂城跡 (D1.6-孔径0.3~0.4) 文献.389

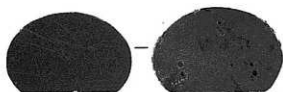
高台部で検出された墓の供献資料である。墓は軸を南北にあわせた木棺墓で、上部がかなり削平されていた。供献資料には、ほかに唐式鏡(424)、曲物に入った「陸平水寶」がみられる。数珠玉は1点のみ出土した。水晶製で「T」字状に孔が穿たれている。この資料は被葬者の頭部付近に置かれていたと考えられる。

(新海)

438 丸柄 (鈔帯) 平安前期

太井遺跡 (W4.4・L2.8) 文献:230

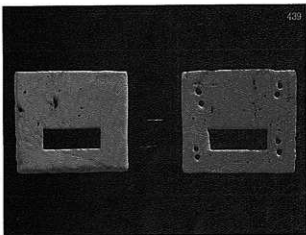
包含層から出土。形状は、長楕円の一边を直線に落としたもので、裏面の3箇所にとじこみの孔を穿つ。平城宮跡の調査と分類によれば、9世紀初頭以降に比定されるもので、石材は頁岩と推定される。これまで当遺跡の集落は7世紀後半～8世紀前半を中心にみられていたが、この資料の出土により、9世紀以降についての集落の存在が示唆される。(銅柄)



439 巡方 (鈔帯) 平安前期

丹上遺跡 (W3.7・L3.3) 文献:126・168

奈良～平安時代の包含層から出土。材は緑白色織入淡緑色を呈する緑色凝灰岩。裏面の2孔一對の潜り孔によってとじつける、新しい要素をとり入れた銅鈔を模し、長方形透し孔を穿った古い形式のものである。平安初期以降の雑石腰帯の部類であろう。規則的に配置された建物群や埴の出土とともに、当遺跡の性格を示す資料である。(金光)

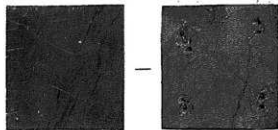


440 巡方 (鈔帯) 平安前期

西大路遺跡 (W4.3・L4.2) 文献:189

包含層から出土。裏面には2孔一對の潜り孔を、同一方向に4箇所穿つ。439と比較すると、本例には方形の透し孔がなく、新しい要素である。巡方は役人が身につける腰帯の飾りである。銅製のものや石製のものがあり、時期によって材質が異なる。文献によると、石帯は796～807年、810年以降に使用されたという。

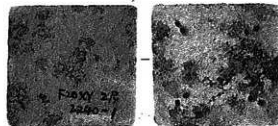
(久家)



441 巡方 (鈔帯) 平安前期

油田寺遺跡 (W3.9・L3.7) 文献:293

包含層から出土。質の悪い凝灰岩製であり、裏面には2孔一對の潜り孔を対角線上に4箇所穿つ。また、表面の一部に漆と思われる黒い皮膜が遺存している。折しも現在発掘中の茨木市総持寺遺跡からも、質の悪い石製の巡方が出土しており、それにも漆の塗布が認められる。質の悪さを漆でカバーするかのようである。石帯の生産や流通を考えるうえで重要な遺物である。(久家)



442



442 齋串 ^{やぐし} 奈良前半
万寿池遺跡 (ℓ13.5・w2.0) 文献.92

齋串は主に奈良時代から平安時代にかけて、災いを祓う儀式に使用された祭りの道具である。各地の出土例からみて、水の流れる場所で催された儀式と考えられ、現在に残る流し籠などを通じるものがあると思われる。当遺跡でも段丘を開析した谷底から見つかっており、同様の儀式が段丘上の小集落でも催されていたことがうかがえる。(福田)

443



443 田下駄 平安中期
西大井遺跡 (L36.7・W12.9) 文献.382

平安時代の包含層から出土。左足板で、中央で割れて半分欠損した右足板とともに検出された。横木や枠は残存しない。材質はネズコで、舟形に整えられている。中心の3つの孔が鼻緒孔、上下の左右2つずつの孔は足板を枠に結わえるためのもので、裏面にこの孔を環状に通る擦れた痕が明瞭に残ることから、円環状の枠がつく田下駄であろう。(川瀬)

444



444 木筒 飛鳥後半
佐堂遺跡 (ℓ10.8・w2.9) 文献.103

自然流路の粗砂層より出土。ヒノキ製の付札木筒で、墨書「□(種々)田五十戸奈□」と読める。注目されるのは「五十戸」の文字で、「さと」と読む。「五十戸」を記す木筒はほとんどが7世紀後半のもので、飛鳥京跡等から出土しているが、律令制下の「五十戸一里制」が「大化改新」当時の施策までさかのぼるの否かを検討するための貴重な資料である。(大谷)

445



445 墨書土器 ^{ぼくし} 飛鳥後半
城山遺跡 (rd13.2・H2.9) 文献.106-124

7世紀末に廃絶する水田の大畦畔から出土。検出地点は大畦畔の交差点に近接する。7世紀後葉に属する杯で、口縁部に平行して「富官家」の墨書がある。「〇家」の墨書土器は府下にもかなりの出土例があるが、7世紀にさかのぼるものは本例が初めてであり、また、「官家」についてもいわゆる「ミヤケ」を示すものか否かなど、興味深い資料である。(大谷)

446 墨書土器 奈良中期
溝咋遺跡 (RD12.9・H3.6) 文献.393

現地表面下約2mの青灰色粘質土中から出土。底部はへら切り後未調整で、体部は強い回転ナデにより外反する。底部外面に「奈胡□」の墨書がある。おそらく人名と思われる。当地では古墳時代から現代にいたるまで水田が営まれていたことが明らかとなったが、奈良時代の顕著な遺構は検出されていない。また同時期の遺物もごくわずかしか出土していない。(伊藤)



447 墨書土器 奈良中期
大庭寺遺跡 (RD19.5・H3.5) 文献.220

井戸から出土。須恵器、土師器のほかに、土馬と思われる土製品や、「清水」「□水」と書かれた墨書土器も同時に出土している。井戸底に、須恵器2個とともに土師器杯が重なって出土している状況などから、水関係の祭祀がおこなわれたと考えられる。また、本例の底外面にみる「上」の墨書は上神部(かみかみ)の古代氏族、上神氏(かみかみ)に関係する可能性も考えられる。(伊藤)



447

448 墨書土器 奈良後半
水込遺跡 (a: 径6.5・w5.7文献.229・250)

和泉国和泉郡の推定山直郷域に位置する当遺跡は、7世紀初頭から8世紀中葉にかけて、牛滝川中流域の開発をになった集団の中心集落である。「□家」「井□(家)」と墨書された土師器の杯(皿かも)は、灌漑水路として機能した溝から出土。このほかに硯が出土していることから、遺跡の成員内に識字能力を有する者がいたことがわかる。(伊藤)



448

449 墨書土器 奈良後半
田山遺跡 (RD15.9・H3.0) 文献.73

南北方向に流れ、上流で西に曲がる溝から出土。墨書のある土器は、奈良後半(～平安初期)の土師器杯で、口縁端部がやや内傾斜する。底外面には右写真のような記号風の墨書がみられ、内面には「中」と刻まれている。この溝からは、ほかに同種の墨書を施し、内面に線刻を施すもの1点や、数点の墨書を施した土器片が出土している。(島崎)



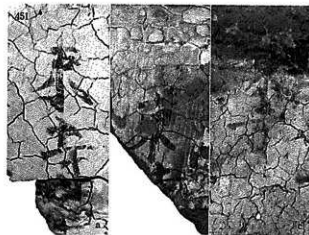
449

450



450 墨書土器 平安前期
長原遺跡 (RD12.7・H3.0) 文献.47

塚ノ本古墳(長原5号墳)の周溝の上層から出土。
墨書のある本例は、平安前期の土師器杯である。底部外面は中央部分が指で押えられており、「令」の墨書がみられる。内面はナデで仕上げられ、外面は口縁部周辺のみナデを施す。このほかにも墨書土器が数点出土しており、遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料といえる。(島崎)



451 墨書土器 平安前期
観音寺遺跡 (c:墨書RD05.7) 文献.94・125・168

獨立柱建物群とともに検出された井戸から出土。
墨書のみられる土師器が3個体あり、いずれも「東寺」と記す。cは甕の体部に書かれたもの。遺物などから周辺に寺院が存在した可能性は考えられるが、実態は不明。「東寺」が京都の東寺のことであるとすれば、その末寺もしくは寺領荘園などが存在した可能性も考えられる。(信田)

452



452 墨書土器 平安前期
佐堂遺跡 (RD14.2・H3.5) 文献.103

奈良～平安時代にかけて流れていた、幅約50mの河川から出土。土師器の杯の底外面中央に「神」と墨書する。同文字がみられるものがあと2点ある。
河川からは船を前進させる棹さしが想起されるところである。が、文字の表現する内容や河川から出土したこの意味は、本資料を評価していくうえでともに慎重に検討せねばならない問題であろう。(信田)

453



453 墨書土器 平安中期
池島・福万寺遺跡 (RD14.9・H5.0) 文献.263

糸里水田内の土壌に埋納されていた可能性が高い。内面のみを黒色処理した黒色土器A類の碗。底部外面に「日下宅」と墨書がある。「日下」は遺跡から北北東にやや離れた地(東大阪市)に地名が残る。「宅」は律令制下において、私的な土地所有権を内包する語。古代から中世の移行期に、水田にこの土器が埋められたことは興味深い事実である。(信田)

454

454 文字瓦 飛鳥後半
池田寺遺跡 (ø 8.3・w 8.3) 文献. 293

包含層から出土。先の大戦前から寺院跡と注目されていたが、近年の調査で寺院建立氏族の集落や瓦窯などが確認された。この平瓦片は「池田」とへら書きされているが、他資料によると、本来は「池田堂」と記されていたようだ。この文字瓦の出土によって、この寺は文献資料にある「池田^新首」によって建立された氏寺の可能性が極めて高くなった。(駒井)



455

455 文字埴 平安中期
久宝寺遺跡 (ø 12.6・w 10.0) 文献. 143

約4.4×3.5mの土坑から、土師器小皿、黒色土器とともに出土。

一辺が残り、他辺は欠損している。

片面に「足智」の文字が線刻されている。

裏面には布目の圧痕が残る。色調は暗灰色、砂粒を多く含み、焼成は堅緻で須恵質である。

(寺川)



456

456 墨書人面土器 奈良前期
西大井遺跡 (rd 16.8・H 13.0) 文献. 382

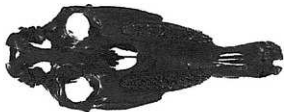
奈良時代の自然河川から出土。「ハ」の字の先端が蕨状に曲がる模様が描かれ、人面と思われるが判然としない。謎だろうか。ほかにもう1個体出土しており、4方向に目と眉らしいものが描かれている。墨書人面土器はけがれを清める祭祀用の土器と考えられており、平城京跡や長岡京跡などの都や官衙で多く出土している。当遺跡周辺では藤井寺市北岡遺跡などで出土がある。(川瀬)



457

457 馬頭骨 奈良中期
城山遺跡 (ø 45.4・w 20.0) 文献. 123

溝から出土。本例は、多くの貴重な情報を提供した。人為的に後頭部を破損されていることから、脳を取り出すためと考えられ、その脳は皮なめしに使用された可能性が強いと考察された。頭骨の縫合部分や残存している歯の観察により、推定10才近い年齢と考えられている。また、この馬は古代日本馬の中型馬(体高120~130cm)の特徴的な形質を示している。(山口)





458 瓦器（碗・鉢）

鎌倉中期

観音寺遺跡

(右端:RD11・H4.8)文献.94・125・168

包含層から出土。京都をのぞく畿内の各地において、中世前期を中心とする時期、土製の供膳具には瓦器碗が使われていた。いずれも口径15cm前後でいわゆる碗形をしており、瓦のようないぶし焼によって表面は黒色を呈しているが、大きく旧国単位での生産地のちがいが推測されている。写真はそれら瓦器の碗と鉢である。

(銅柄)



459

459 土師器（皿）

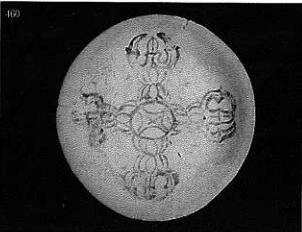
室町前半

観音寺遺跡

(手前中央:RD13.3・H2.5)文献.94・125・168

包含層から出土。文献では「かわらけ」と呼ばれ、大量使用、一括廃棄されるものとしての評価がある。京都などの都市では、それに類した出土状況を見る。一般には、古代以来の延長上においてロクロ成形を基本とするが、畿内と一部の地域のみは手づくね成形によっている。本例は河内の出土であり、広義では京都型土師器皿の形態を意識している。

(銅柄)



460

460 土師器（小皿：墨描線画）

鎌倉中期

金剛寺遺跡

(RD7.0・H1.4) 文献.182

礫石建物付近から出土。

土師小皿の底内部に、墨書で密教法具である三鈷杵を十字に配した「羯磨文」を描いている。

紀伊国根来寺が高野山に比肩する真言密教の道場であることなどから、宗教的にも和泉国金剛寺は紀伊国根来寺の勢力下にあったものと推定される。

(田中画)

461



461 土師器（羽釜）

鎌倉中期

長原遺跡

(RD28.8・h24.0) 文献.47

井戸の井筒として使用されていたもの。煤が付着していることから、実際に煮炊きに使用されていた羽釜の底部を打ち欠き、数度積み重ねて井筒に転用したのであろう。土師質の羽釜自体は古墳後期に出現するが、羽釜井筒の井戸は平安末期以降に出現する。当遺跡では、このような羽釜井筒の井戸が、28基も検出されている。

(坪田)

462 瓦質土器（足釜） 鎌倉中期
佐堂遺跡 (RD19.0・H21.8) 文献.103

溝から出土。中世の煮炊具の主流にあったのは、鉄鍋であった。それらの多くは、絵画資料にみるように団炉裏におかれた五徳の上にすえられ、その中で様々な汁ものが料理された。

本例は、口縁部近くに鈎をもつ釜形ではあるが、五徳不要の足を備えた、まさに当時の食文化の一端を凝縮した形を示している。 (銅柄)



463 瓦質土器（片口鉢） 室町後期
箕土路遺跡 (rd58.0・H26.6) 文献.179

土坑から出土。片口をもつ土師質の摺鉢である。

体部外面はヘラケズリが施されるが、器面に粘土紐の齧ぎ目を残す。楕状の工具で摺目が付けられている。口縁部は丸くおさまる。この手の摺鉢は、東播磨系須恵器や備前焼の摺鉢を模倣し、14世紀代の後半に瓦質の製品として和泉地方等で生産されるが、16世紀頃に土師質に転化し作りも雑になる。 (岡本)



464 瓦質土器（仏花瓶） 室町前期
日置荘遺跡 (右:RD10.4・H16.4) 文献.173・256

土坑や溝から出土。

摂河泉の中世土器を代表するもののひとつが、瓦質焼成の製品である。中世後期に入って、その一部は日常品以外の部分にまでおよび、本例のような仏具のほか、硯や井戸杵などの製品をつくった。なおこれは銅器あるいは瀬戸の写しである。

(銅柄)



465 常滑（甕） 鎌倉中期
日置荘遺跡 (RD55.5・H86.0) 文献.172

跡が多数集積されていた浅い土坑から、瓦器碗や土師皿などとともに出土。

細片となっていたがほぼ完形に復原できた。常滑焼の大形甕。底部下端にはひび割れを漆で補修した跡が3箇所認められる。飲料水などを貯蔵していたものであろうか。

(信田)



466



466 瀬戸鉄釉(瓶子)

室町前期

太井遺跡

(BD9.9・h16.5) 文献.148・168

井戸と土坑から出土。下半部のみが残存である。文様は草葉文と考えられ、蕨手状にのびる。鉄釉は流注化しており、底面の一部にまで釉の付着をみる。

中世後期の遺構が密集しており、井戸からは在地の瓦器、土師器のほか、鈔物、瀬戸香炉、南方系壺が出土している。瀬戸鉄釉瓶子の出土は在地以外では稀である。(市本)

467



a b c

467 青磁(碗)

鎌倉前期

日置荘遺跡

(c:RD15.9・H6.6) 文献.174・256

2基の中世墓の副葬品として、土師器皿などとともに出土。a・bは同一土墳墓、cはそれに近接した別の土墳墓から出土したものである。

前者はその特徴から中国の同安窯で、後者は龍泉窯で生産されて輸入されたものである。いずれも完形品であるが、死者の器として口縁の一部が打ち欠かれている。(江浦)

468



468 青磁(碗)

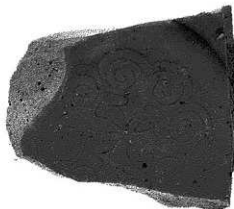
鎌倉後期

長原遺跡

(rd14.3・H6.8) 文献.47

曲物井戸から出土。外面の蓮弁文は、中央に筋をつくり弁間に簡略された弁を配する。また見込みには花弁文を刻む。刻文の手法はいわゆる片切彫で、深く彫られた部分に釉がわずかに厚く溜り陰影が生じる。断面方形の高台を有し、高台部のみ無釉。この時期の龍泉窯(中国浙江省龍泉県所在)系青磁碗にしては、非常に小形であり、釉色は深い灰緑色を呈す。(坪田)

469



469 青磁(碗)

鎌倉後期

橋本遺跡

(bd5.6・h2.4) 文献.209

当遺跡は近木川右岸に位置し、本例は中〜近世の遺物を含む包含層から出土。

青磁碗の磁胎は精良で灰褐色を呈し、釉は明緑灰色を呈する。

内面見込みに印花文をもち、釉は高台外側面まで施され、高台端面より内側は露胎である。中国の龍泉窯系と思われる。(田中重)

470 白磁(碗) 鎌倉前期
長原遺跡 (RD16.0・H7.0) 文献.47

二段掘りに掘削された素堀り井戸から出土。ただし掘方の構造から、井筒の存在した可能性もある。本例は、口縁部は断面三角形の玉縁状を呈し、内面は総施釉されているが、外面は体部下半と高台部分は露胎である。見込みと体部の境に片切形状の段を有す。11世紀後半から12世紀前半にかけて大量輸入されたものだが長期使用の後、投棄されたと考えられる。(坪田)



471 真蛸壺 室町前期
田山遺跡 (RD15.4・H31.2) 文献.73

窯から出土。窯からは、ほかに瓦や土鍾なども出土。本例は、弥生～奈良時代によくみられる小形の蛸蛸壺と異なり、大形の真蛸壺である。土質で、形は砲弾形につくられ、外面には「口」の線刻がある。線刻に多様なものが存在することから、屋号を表わしていると考えられる。現代も使われている蛸壺は平底で薄手につくられているが、機能的な変化はみられない(国栗)



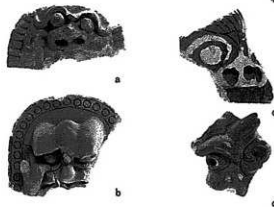
472 宝塔文軒丸瓦 鎌倉前期
日置荘遺跡 (D15.6・T2.6) 文献.173

土坑から出土。宝塔の相輪は3段、屋根隅には風獅と風招、塔身内部の円形は鏡を、塔下部は蓮華を表現していると考えられる。宝塔文は南河内・和泉地域を中心にみられる。遺跡からは溝に区画された中世屋敷地が検出されており、瓦が415・416・473のほかに、各種多量に出土している。明瞭な寺院建築遺構は検出されていない。(市本)



473 鬼瓦 平安末～室町
日置荘遺跡 (b: 19.5・w22.0) 文献.173

井戸や溝から出土。平安後期の平坦な粘土板より目や鼻などが突出したもの(a)から、室町時代の鬼全体が立体的で裏面をくぼめたもの(d)まで様々なものが出土している。415・416・472のほかに、多量の瓦が出土しており、鬼瓦を置く本格的な瓦葺き建物の存在も推定されるが、明瞭な寺院建築遺構は検出されていない。(市本)



474



474 金銅製飾金具

室町前期

日置荘遺跡 (ℓ9.7-w3.0) 文献・206

中世の建物群を区画する溝から出土。断面は緩やかに湾曲し、2箇所に目釘穴が確認できることから、厨子などの飾り金具であると考えられる。表面には毛彫りと魚子彫りによって蓮華文が彫られている。この溝からは多量の瓦や火鉢も出土しており、飾り金具とともに寺院に関連する施設の存在が示唆される。

(江浦)

475



475 雁又鎌

鎌倉後期

池島・福万寺遺跡 (c: ℓ15.6-W3.9) 文献・356

すべて六ノ坪内の古代末～中世初頭の耕作土層中から出土。鎌の平面形態は、「V」字形だが、先端が外反するものや内弯するもの、なかほどを膨らませるものなどがみられる。うち一つ(b)は鎌の中央部に猪目透かしを施す。いずれも茎は長く、断面は方形である。耕作土層中から雁又鎌が出土することは興味深い。

(後藤)

476



476 鉄瓶

鎌倉前～後期

日置荘遺跡 (b:RD5.0-H5.9) 文献・172-173・256

ともに井戸から出土。aは体部中央に突線を1条めぐらせ、その上下に沈線帯をもつ。肩部には唐草文と思われる文様を陽鈿するが、両側面で意匠は異なる。bは体部下半に被熱痕跡がある。体部中央に突線を1条、底部付近に3条めぐらせる。体部上半には花、下半には草らしきものを陽鈿する。aは14世紀代、bは13世紀代のものである。

(新海)

477



477 瓦質像

室町前期

日置荘遺跡 (ℓ9.5-w8.0) 文献・206

溝から出土。寺院に関連する区画溝で、多くの人頭大の礫とともに瓦類や土器が廃棄された状態で検出された。

頭部のみで、胴体などは検出されていない。右側頭部や鼻、左耳が一部欠損しているが、ほぼ完形である。髪がないことから、仏像ではなく、僧形と考えられ、窟裏あるいは質頭虚の頭部の可能性がある。(中村)

478 輪羽口 鎌倉前期

真福寺遺跡 (D15.0・#34.0) 文献・128・168

鋳造関連の土坑群が集中する地域の1基から出土。

この土坑には藍滓、炉壁片、鋳型片等が多数廃棄されていた。

羽口はまず筒を作り、後に粘土を巻きつけて成形したと思われる。先端側は斜めに作られ、炉に対して一定の傾き(約60°)をもって取り付けられたと推定できる。(新海)

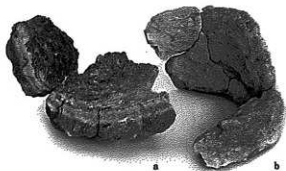


479 溶解炉・鋳型(鍋) 鎌倉前期

真福寺遺跡 (b:d40.0・#17.8) 文献・128・168

鋳造関連土坑群から出土。bが鍋の鋳型。aが鋳造用溶解炉と思われる。鋳型は精製された粘土で作られた土製のもので、復原径は40cmを測る。湯口の位置は不明である。溶解炉はササを混ぜた粘土を使用し、耐火度を高めている。内面全体にガラス質層が付着する。当時の鋳造技術を知るうえで貴重な資料といえる。

(新海)



479

480 鋳型(鍋) 鎌倉前期

真福寺遺跡 (rd32.0・h17.8) 文献・128

輪羽口(478)と同じ土坑から出土。鋳型は製品を取り出す際に壊されるため、バラバラの状態であった。本例は鍋の外型であり、外型土、真土からなる土製のものである。鋳型中央には径9cmの孔がある。これは溶解した金属を流し込むための湯口と思われる。この地は「河内鍋」の産地として有名であるが、考古学的に裏付けられる資料として重要である。(新海)



480

481 鋳型(鑿・梵鐘・湯釜) 鎌倉前期

真福寺遺跡 (上右・#10.3・w12.9) 文献・128

鋳造関連土坑から出土。上右が鑿、ほかは梵鐘もしくは湯釜の鋳型と推定される。これらは外型土と真土からなり、挽き型で作られたと思われる。梵鐘、湯釜の鋳型には巴文等の様々な文様が陰刻されている。鋳型をはじめ鋳造遺構から一括で出土した様々な遺物は、13世紀代の「河内鋳物師」の技術を推定できる良好な資料である。(新海)



481

482



482 土鍾

室町前期

田山遺跡

(上右端:MD6.0・L9.1) 文献.73

10個中8個は真鍮錠(471)と同じ窯から、ほかは包含層などから出土。これらは丸棒などに粘土を巻き成形したもので、管状土鍾とよばれる。大形で重量は120~240gもあるが、小形のものも数gと軽い。また質はほとんどは土師質だが、瓦質も存在する。同形態の土鍾は弥生時代にはすでに使われており、現代にいたるまでその形態に大きな変化はない。(国乗)

483



483 滑石製石鍋

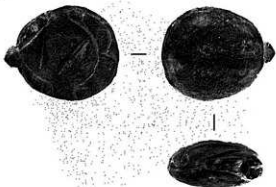
鎌倉前期

菱木下遺跡

(rd23.3・h10.0) 文献.92

中世後葉(15~16世紀)の包含層から出土。滑石製で、口縁部はていねいにヨコケズリを施し、口縁から1cm下に断面台形の罫を有する。内外面ともに縦方向のケズリ痕が明瞭に残る。そのほかに外面は横方向のケズリによる短い沈線がみられ、内面は若干のヨコミガキを加える。体部が直立するタイプで、平底を有する可能性が高く、下川分類のA2類に属する。(後藤)

484



484 滑石製亀形品

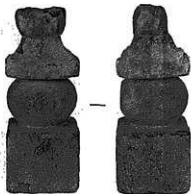
鎌倉後期

菱木下遺跡

(L5.9・W4.8) 文献.92

屋敷地を区画する東西方向の溝の下層から、14世紀の遺物とともに出土。滑石製で、首は突き出すよう削り出し、両眼と口は線刻する。首の根元に上方の2方向から、紐通しと考えられる「V」字状に貫通する穿孔を施す。底は平坦で安定がよく、四肢と尾を線刻する。甲羅は丸く削り出す。紐通しの孔があることや座りがよいことなどから、文鎮と考えられる。(後藤)

485



485 五輪塔

室町前期

田山遺跡

(h35.4・W14.2) 文献.73

機械掘削時に出土。田畑の畦畔の礫石に転用されていたものである。

表面に「地・水・火・風・空」の五大梵字を刻む。これを宇宙の生成要素と考える仏教思想があり、五輪塔は、平安時代の密教盛行に伴って盛んに製作されるようになった。これは地元で採れる和泉砂岩製であり、この地域で製作されたことを示す資料である。(本田)

486 曲物 鎌倉中期

箕土路遺跡 (RD35.5・H27.4) 文献.179

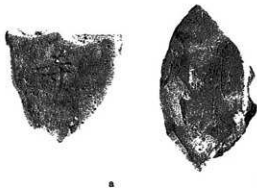
井戸の水溜め装置に転用された木製容器である。曲物は槍や杉などの薄板を加熱して円形や方形に曲げ、山桜の樹皮で綴じて容器としたもので、その技術は古代に伝播したと考えられている。土着の刳物技術より大形製品を作ることができ、主要木工技術として展開をみせたが、中世末期に大陸から伝来した結桶むすぶの技術によって、現在ではほとんど駆逐された。(西村)



487 文字線刻灯明台 室町前期

観音寺遺跡 (a:rd25.0,b:rd17.4) 文献.125

瓦溜りから出土。灯明皿を置く円盤状の受け皿で、灯台ともいう。下面に棒状の軸を差し込む枙穴がある。土製品としては稀有の例である。「寺」(a)と「西城房」(b)の文字が刻されている。承安2年(1172)の『佐伯景弘持経巻数注進状』に「西城房 證西 十一部 同園 丹北郡松原法原寺」とみえ、この灯明台は法原寺の西城房に付属するものである可能性が高い。(大野)



488 文字瓦 室町後期

金剛寺遺跡 (ℓ6.0・w3.9) 文献.182

包含層から出土。

文字は、丸瓦の凸面に、ヘラ描きで「大永三年四月」(1523年)の記年銘が施されている。

瓦の胎土は密であるが砂粒を多く含み、焼成はやや軟質である。

(田中)



489 呪符木筒 鎌倉前期

観音寺遺跡 (L16.2・w2.0) 文献.125

鎌倉時代の井戸から、瓦器や土師器等とともに出土。疫病災害除けのまじない札である。縦方向に割れて、一側縁を失っている。表面には「昔藤民将来子孫住宅也」、裏面には「南无五大方□□」と墨書されている。「昔」「住宅」などの文字を入れたり、裏面にも呪文を記すなど、念の入った呪符木筒といえる。疫災除けの強い願望をうかがうことができる。(大野)



490



490 土師質土器(皿) (かわらけ) 江戸中期
観音寺遺跡 (左端:RD10.2・H2.3) 文獻.94・168
井戸から出土。埋土の上層および下層で、土師質皿
が100点以上集中して検出された。ほかには染付碗や
陶磁器、瓦などが共伴している。

いずれも口径10cm程度の小皿で、胎土は白色系である。この種の小皿は、口縁に煤が付着した例が多いことから、灯明具と考えられているが、ここでは煤の付着したものは少ない。(中村)

491



491 焼塩壺 桃山後期~江戸
大坂城跡 (手前:RD5.6・H8.8) 文獻.323

右から2番目のものは堀、ほかは土坑等から出土。塩田で生産された荒塩を二度焼きすると、ニガリのとれた精製塩ができる。焼塩壺はさらに食卓塩としての焼塩を作るのに用いられ、壺入りのまま販売されて流通した。文獻から堺は焼塩の産地であったことが分かっているが、出土資料の刻印にも「堺」「泉州」などの地名をみることができる。(奈加)

492



492 国産陶器 桃山中~後期
大坂城跡 (上中央:RD16.4・H6.0) 文獻.300

屋敷跡、溝、土坑などから出土。全国各地の窯で焼かれた陶器が出土しているが、大きくは、備前習鉢、丹波摺鉢等の日常雑器と瀬戸美濃、信楽、唐津等の茶陶に分けられる。写真左下の瀬戸美濃天目茶碗は宋(中国)より茶道とともに伝わった天目茶碗の模倣品であり、写真中央上の志野や織部の向付は、当時の茶人達のお好み反映された日本独自の茶陶である。(坪田)

493



493 瓦質土器(火鉢) 江戸中期
菱木下遺跡 (RD16.4・H18.2) 文獻.92

井戸から出土。江戸中頃の火鉢である。瓦質風の焼成が施されており、軟質である。口縁部に2条、底部近くに1条の凹線をめぐらし、その間に縦方向の凹線を2条単位で引くことにより、体部を3ないしは4に区画している。区画のなかには、梅花と流水の文様が型押しにより施されている。江戸時代の庶民の暖房具を知る一資料である。(福田)

494 唐津(碗) 江戸前半
金剛寺遺跡 (RD10.6・H5.6) 文献.182

包含層から出土。

刷毛目唐津の陶器碗である。

ミズヒキ成形で作られ、高台はケズリ出しである。焼成は良好で全面に施釉されている。高台^{たかみづひ}置付の釉はケズリ取られ、内面見込みも輪状に釉がケズリ取られている。

(田中^中)



495 古瀬戸(天目茶碗) 江戸前期
箕土路遺跡 (RD12.0・H6.0) 文献.179

土坑から、備前壺、土師質釜などとも出土。口縁はヨコナデされわずかに外反し、ケズリ出しの高台を有する。口縁から鉄釉を流しかけており、底部付近の一部に垂れがおよぶ。施釉部は黒褐色を呈する。こうした茶碗は、茶の湯の浸透により、茶道具として発展をみせた。本例は、手法から製作年代が16世紀中葉までさかのぼる可能性もある。(西村)



496 染付(中国製) 桃山後期~江戸
大坂城跡 (左上:rd20.2・h3.4)文献.323

溝、屋敷跡、包含層から出土。古代~中世の日本では白い器を作れなかった。その意味において、白と青のコントラストが描く中国製染付磁器の魅力は当時の人々を引きつけたにちがいない。大坂城跡では、^{あき}明の染付のなかでも、大形品はおおむね福建・広東系(漳州窯系)の製品が、中小形品は景德鎮窯の製品(写真例)にわけられ、大量に輸入使用されていた。(湯柄)



497 白磁(蓋・壺:骨蔵器) 江戸前半
金剛寺遺跡 (壺:RD13.0・H16.4)文献.182

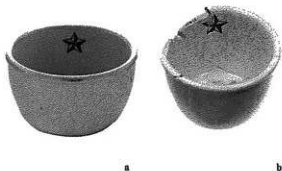
包含層から出土。

蓋と壺はやや離れた位置からの出土であるが、胎土、焼成、色調などからセットになるものと思われる。器壁は薄くていねいなつくりで、体部外面に細いケズリ痕を残しており、頸部と下部に細い沈線を配している。

付近から多くの墓石が検出されていることから、骨蔵器に使用されたものと思われる。(田中^中)



498



498 日本陸軍陶碗

近代

志紀遺跡(a)・植田池遺跡(b) (a:RD11.8・b:RD10.3)文獻.366

aは陸軍大正飛行場・航空隊(現陸上自衛隊八尾分屯隊・八尾飛行場)跡周辺、bは陸軍明野飛行学校佐野飛行場跡から出土。ともに型造り製。口縁内面に日本陸軍章がみえる。底には「名陶」銘があり、名古屋の製陶会社製である。この類は昭和初期、瀬戸や有田等で生産された。ほかにも多くの軍関係品が出土している。戦後50年、この種の遺物にも大きな意味がある。(秋山)

499



499 金箔瓦

桃山中期

大坂城跡

(D13.4・T2.1) 文獻.350

包含層から出土。やや小形の金箔三巴文軒丸瓦である。金箔は巴と外縁の凸部のみに押されており、下地には黒漆が塗られている。金箔瓦の最初の使用は安土城であり、豊臣時代の有力大名の屋敷にも使われた。大坂城の金箔瓦は草創期の安土城と最盛期の聚楽第、伏見城の中間に位置するものであり、中・近世瓦の交換点でもある。(市本)

500



500 家紋瓦

桃山後期

大坂城跡

(下左:D15・T2.1) 文獻.305

井戸と包含層から出土。家紋軒丸瓦である。文様は月に月丸を表し、これは佐竹氏の家紋として有名であり、同氏は、秀吉の小田原攻め以来、豊臣政権に從った北関東の名家である。瓦当裏面の丸瓦接合部には円弧状のキザミをつける。本例出土の井戸の西側では長屋建物が6棟以上並んで検出された。大名屋敷の一部と考えられ、佐竹氏との関連も想定されている。(市本)

501



501 桐紋飾瓦

桃山中期

大坂城跡

(L10.8・W20.6) 文獻.350

豊臣期前期の包含層から出土。長方形の四隅に方形の釘孔があり、拵先などに付けるいわゆる飾瓦である。中央には立体感のある五七の桐紋が施され、わずかに金箔の痕跡が観察される。家紋瓦は豊臣時代に盛んに用いられており、またこれが金箔瓦であることから、当地に豊臣家にかかわる有力大名が存在したことを示すものである。(亀井)

- 502 丁銀^{ちやうぎん} 桃山後期
大坂城跡 (L3.9・W3.9) 文献.305
包含層から出土。

表面に大黒像と「寶常是」の刻印がうたれている。半分以上が切り遣いされており、周囲にも痕跡が残っている。徳川氏が慶長6年(1601)に丁銀に統一したもので、初期には切り遣いされていたが、元和期以降切り遣いされなくなった。慶長丁銀は銀の純度80%で、最も純度の高いものとされる。(中村)



- 503 懸仏^{かけぼたけ} 桃山後期
大坂城跡 (W3.9・H6.1) 文献.380

豊臣期後期の素掘り井戸の下層から、箸、下駄、篋、曲物などの木製品や土師器盤などとともに出土。金属製の阿彌陀如来座像である。铸造品で、全体になめらかな曲線で構成されている。蓮座や袈裟などの細部は線刻で表す。裏には、盤などに取り付けるための突起があるが、先端は欠損する。二次的に火を受けた痕跡が認められる。(後藤)



- 504 煙管^{きせる} 桃山中期
大坂城跡 (L14.4・W1.2) 文献.327

豊臣期前期の溝から出土。材質は真鍮である。一般的には雁首、羅字、吸口の3部からなるものであるが、本例は円筒状の羅字を欠損しており、雁首を吸口に直接挿入したかたちで出土した。当期の煙管は全体が金属製の铸造品と、羅字のみ竹製のものがあり、本例は出土状況から後者の部類と考えられる。このような状態で携帯していたものであろうか。(亀井)



- 505 鉄鎌 桃山中期
大坂城跡 (L13.3・W3.0) 文献.350

豊臣期前期の包含層から出土。土中に埋没していたため腐食が激しいものの、鎌身、鍔^{つば}、篋代^{かしろ}の3部構成が確認される。鎌身が大形であること、篋代(基)が非常に長い点から、破壊力と貫通性を意識したものと考えられる。大坂城の完成といわれる三ノ丸築造以前の層より出土したことから、当時が戦国の世であったことを勞働とさせる資料である。(亀井)



506



506 マメヤ 江戸前半
ミノバ石切場跡 (L4.2・W2.0) 文献.184
和泉砂岩採石跡から、多数の石臼未成品と鉄製の工具が出土している。

マメヤは岩盤の石目に沿った方向に穴を穿ち、その穴にマメヤを差しこみ打撃を当てることで、亀裂を生じさせる道具である。打撃により頂部が変形しているが江戸後半になると、ますますマメヤは大形になる傾向がみとめられる。(服部)

507



507 サキノミ 江戸前半
ミノバ石切場跡 (MD4.5・L20.5) 文献.184
採石坑から出土。

鉄製工具である。サキノミは紡錘形を呈し、先端を鋭利に成形している。

方形の石材を円形にするため角をハツる作業や、縁部調整をする際に用いられる道具である。

現在まで形状に変化は認められない。

(服部)

508



508 弾丸 桃山後期
大坂城跡 (D5.0) 文献.388

豊臣期後期の包含層から出土。

鉛製で、非常に重量感(400g)があり、「^{ダマ}目玉」と呼ばれるものである。使用されたものかどうかは判然としないが、表面にわずかにただれたような痕跡が認められる。大きさからみれば大筒(江戸時代)の口径と一致する。大坂夏の陣前後の緊張感がうかがえる資料といえる。(新藤)

509



509 犬形土製品 桃山中期
大坂城跡 (L4.2・H3.8) 文献.380

豊臣期前期の包含層から出土。手づくねの土製品である。胴部と頭部を粘土塊でつくり、四肢はそれぞれ4方向につまみ出した後、下方へ折り曲げる。鼻先は先端が欠損しているものの四肢同様、頭部から前方につまみ出す。耳と尾は粘土塊を貼りつけて形を整える。目は棒状工具で刺突する。色調は淡黄灰色である。大坂城下では30例をこす出土が認められる。(後藤)

510

510 溶解炉 桃山中期
大坂城跡 (RD37.6・H19.7) 文献.327

豊臣期前期面で検出された鋳造用溶解炉である。直径60cmの掘方内に設置され、周囲には灰や炉壁片等が棄てられた土坑が集中する。炉の口縁部には内傾する溝が1箇所作られ、底部外面には溝と直交するかたちで2本の剣込みがみられる。こうした形態から、連台等に乗せて、傾けて鋳型に溶かした湯を注ぐ可搬式の炉と推定される。(新海)



511

511 石臼 江戸後半
金剛寺遺跡 (rd40.3・H9.3) 文献.182

平安時代の創建以来、室町時代まで存続していた、金剛寺跡の寺院最北端部包含層から出土。

和泉砂岩製の臼の下臼部分で、目は刻まれずに受口部を作りだしていることより、粉挽き臼ではなく液体状(豆腐や味噌等)のものを挽く臼である。江戸後半のものと考えられる。

(服部)



512

512 手水鉢(未製品) 江戸前半
ミノバ石切場跡 (RD42.0・H21.8) 文献.184

当石切場最大の採石坑から出土。

和泉砂岩製である。石材を切り出し、軽量化して搬出するために、現地ではできるだけ製品に近い形状に加工している。

この手水鉢は中心を削り抜いて縁を加工する際、必要とされる法量を得られなかったため、現地に廃棄された資料である。(服部)

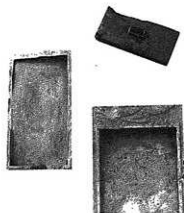


513

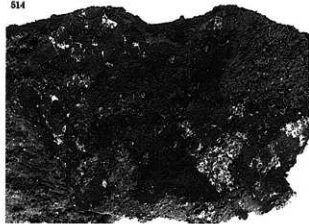
513 石製硯・銅製水滴 桃山後期
大坂城跡 (左:L10.8・W5.7) 文献.305

いずれも大坂夏の陣直前の包含層から出土。筆とともに当時の一般的な文具で、実用的なものである。水滴には、ほかに装飾の施された陶製品もみられる。硯も実用的なものであるが、一部に毛彫りの装飾が施された高級品もある。

豊臣期の大名屋敷においては、文具にも高級品が使用されていたことがわかる。(中村)



514



514 金箔(泥)付革製品 桃山中期
大坂城跡 (L6・W5) 文献.389
豊臣期生活面の最古段階(推定武家屋敷)から出土。
薄いなめし革に金箔または金泥を施したもので、江戸時代に入り金唐革と呼称された製品に類似する。本例は遺存状態が悪く、文様または装飾の様子など不明であり、素材の革についても種類の同定にはいたっていない。

(銅柄)

515



515 漆器皿・碗 桃山後期
大坂城跡 (b:RD13.5H・4.4) 文献.350
aは豊臣期前期の甗から出土。皿形で、内外面に赤漆を塗った無地の漆器である。bは包含層から出土。碗形で、内外面とも赤漆である。外面の3箇所に黒漆による木瓜文を配し、外底面には「エ」字記号を加筆する。内外面が赤漆のものを皆朱といひ、中世まではハレの特別なものであったが、近世以降は日常品としても使用されはじめた。

(亀井)

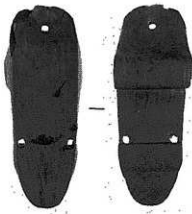
516



516 まじない人形 桃山後期
大坂城跡 (L7.2・W3.3) 文献.388
豊臣期前期の武家屋敷跡から出土。角材の角を利用し、上部を削り込み、烏帽子を表わす。顔は鼻の下部を削って表現している。首もとには釘穴があく。これと酷似したものが、船場地域の調査で数点出土している。人形は自分の穢れを転化させ、消し去る形として、蔽いの儀式に用いられたと考えられている

(島崎)

517



517 下駄 江戸中期
大場遺跡 (L22.2・W7.0) 文献.248
溜池状遺構から出土。この遺構の大半が調査区外になるため、形状、規模、深さ等の詳細は不明である。この頃の下駄は、大別して、足を乗せる台部分と歯を一体で作出す「一木下駄」と、台部分と歯を別材にして納めて組み合わせる「構造下駄」が認められるが、この下駄は前者で、かなり歯が擦り減るまで使用されている。

(坪田)

518

518 将棋駒 桃山後期
大坂城跡 (上右:L2.9・W2.3) 文献.323

井戸から出土。ほかに土器、陶磁器、木器、瓦などが出土した。文字は漆で書かれており、「金将」「飛車」「桂馬」「香車」「歩兵」が確認できた。将棋には、大将棋、中将棋、小将棋などがあるが、現在の将棋は小将棋で、豊臣期には成立していた。同期には「水無瀬駒」と呼ばれる高級品があるが、やや筆法が異なる。(中村)



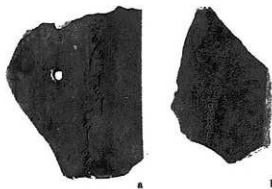
519

519 文字瓦 江戸中期
金剛寺遺跡 (a: 長23.2・w18.8) 文献.182

包含層から出土。文字は平瓦の凸面にヘラ書きで記年銘が施されている。

aは「享保十年、巳六月十六日」(1725年)のヘラ書きが施される。bは「享保十年」のヘラ書きと「七」のスタンプによる刻印が施される。

(田中)



520

520 木筒 桃山後期
大坂城跡 (L7.0・W1.9) 文献.378

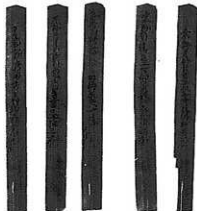
豊臣期前期の武家屋敷跡から出土。上端部近くが両側からえぐられており、筒状木筒と思われる。木筒には「さ竹内」の墨書がみられ、豊臣政権下において、秀吉と深いかわりをもつ大大名である佐竹義宣との関係が考えられる。発掘では、遺構や遺物にかかわった人物を特定することは困難であるが、このような資料から推定することができる。(島崎)



521

521 神經 桃山後期
大坂城跡 (L47.9・W4.8) 文献.323

側溝掘削中に5枚重なった状態で出土。『法華經』3巻「化城喻品」中の5行分で、1枚につき経文の1行分である17文字が書写されている。経木が幅広く薄手の形態をとることや、片面写経であること、また字形から、17～18世紀にあたる時期のものとして推定できる。大坂城下に住む町人が寄り集まって、こけら経の写経をおこなっていたことをうかがわせる。(本田)



文 献 目 録

㈱大阪文化財センターと㈱大阪府埋蔵文化財協会が発行した文献を年次順に配列。ただし、現地説明会資料等のパンフレット類は除外したが、本書凡例で示したように、追加として一部のパンフレット類や㈱大阪府文化財調査研究センター発行文献（発行予定も含む）を加えた。

(七)：㈱大阪文化財センター発行、(協)：㈱大阪府埋蔵文化財協会発行、(新七)：㈱大阪府文化財調査研究センター発行、報告書：㈱大阪府埋蔵文化財協会報告書

1972年度

【報告書類】

- 1 大阪府泉南郡阪南町自然地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
 2 主要地方道秋方・富田林線・泉北野線バイパス（大阪外環状線）
 予定路線内埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
 3 柏原市本堂所在の堀本堂地区内埋蔵文化財分布調査報告書 (七)

1973年度

【報告書類】

- 4 大阪府和泉市内田町及び田母町所在埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 5 大阪府柏原市内高井田所在村本建設株式会社開発計画地区内
 埋蔵文化財分布調査概要報告書 (七)
 6 亀の瀬地すべり対策工事に伴う柏原市尾川尾地区
 埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
 7 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内亀井遺跡地 2 遺跡
 第 1 次発掘調査報告書 (七)
 8 大阪府柏原市高井田所在遺跡試掘発掘調査報告書 (七)
 【逐次刊行物】
 9 大阪文化誌 第 1 号 (七)
 【その他】
 10 和泉の古代生活 (七)

1974年度

【報告書類】

- 11 大阪府池田市伏見地区埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
 12 中央環状線内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 13 泉南郡藤取町埋蔵文化財分布調査報告書 (七)
 14 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡地 5 遺跡
 第 1 次発掘調査中間報告書 (七)
 15 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内遺跡
 第 1 次発掘調査報告書 (七)
 16 近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡地 5 遺跡
 第 1 次発掘調査報告書 (七)
 17 都市計画道路松原～泉大津線建設予定地内
 遺跡試掘分布調査報告書 (七)

【逐次刊行物】

- 18 大阪文化誌 第 2 号 (七)
 19 大阪文化誌 第 3 号 (七)
 【その他】
 20 文化財写真集—大阪の文化財（南部） (七)

1975年度

【報告書類】

- 21 大阪瓦斯河内ラインガス等管理施設予定地内
 久宝寺遺跡、城山遺跡試掘調査報告書 (七)
 22 日本住宅公団神の宮強地開発計画に伴う
 株田神の宮遺跡発掘調査報告書 (七)
 23 寺門団地他 3 団地開発予定地内
 埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 24 美原町其福寺所在遺跡試掘調査報告書 (七)
 25 国道166号線バイパスに関する

第 2 回埋蔵文化財予備調査報告書 (七)

- 26 大阪府道高道大阪松原線建設に伴う
 瓜鹿遺跡試掘調査報告書 (七)
 27 都市計画道路貝塚中央線建設予定地内
 埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 28 大和川環境整備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う
 船橋遺跡試掘調査報告書 (七)
 29 泉南郡阪南町鳥取地区埋蔵文化財分布調査報告書
 【逐次刊行物】 第 4 号 (七)

1976年度

【報告書類】

- 31 大和川環境整備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う
 船橋遺跡試掘調査報告書 II (七)
 32 泉大津府松原地開発予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 33 備前川流域下水道原田地区埋蔵文化財試掘調査報告書 (七)
 34 如意谷（2）事業地区における埋蔵文化財発掘調査概略報告書 (七)
 35 みどり山古墳群試掘調査報告書 (七)
 【逐次刊行物】
 36 大阪文化誌 第 5 号 (七)
 37 大阪文化誌 第 6 号 (七)

1977年度

【報告書類】

- 38 藤井寺市立道明寺中学校 L 教室新設工事に伴う
 林遺跡発掘調査報告書 (七)
 39 南河内道路に関する第 3 回埋蔵文化財予備調査報告書 (七)
 40 寝屋川南郡城下下水道事業長吉ポンプ場築造工事に伴う
 亀井遺跡発掘調査報告書 (七)
 41 大阪府宮永事業第 6 次拡張事業排水管工事に伴う
 埋蔵文化財発掘調査報告書 (七)
 —高槻市二子山古墳・土庫山古墳周縁部のための調査— (七)
 42 応神陵高土遺跡発掘調査報告書 (七)
 【逐次刊行物】
 43 大阪文化誌 第 7 号 (七)
 44 大阪文化誌 第 8 号 (七)
 45 大阪文化誌 第 9 号 (七)
 46 大阪文化誌 第 10 号 (七)

1978年度

【報告書類】

- 47 長原 (七)
 48 池上遺跡 土器編 (七)
 49 池上遺跡 石器編 I (七)
 50 池上遺跡 石器編 II (七)
 51 池上遺跡 木器編 I (七)
 52 池上遺跡 木器編 II (七)
 53 読論・新作海岸地区埋蔵文化財調査事業に伴う
 田山遺跡試掘調査報告書 (七)

54 太子町西山地区特定土地区画整理事業予定地内
埋蔵文化財探査調査報告書 (七)

55 富田林市市道伏見堂東西線新設工事予定地内
【逐次刊行物】
56 大阪文化誌11号 (七)

1979年度

【報告書類】
57 大阪府都市計画局葛尾中央線新設工事予定地内
脇浜・島中・石才近畿堂遺跡試掘調査報告書 (七)

58 池上・四ツ池遺跡 自然遺物編 (七)
59 瓜生堂
【逐次刊行物】

60 大阪文化誌 第12号 (七)
61 大阪文化誌 第13号 (七)
【その他】
62 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第1回 (七)

1980年度

【報告書類】
63 亀井・城山 (七)
64 巨摩・瓜生堂 (七)
【その他】
65 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第2回 (七)
66 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第3回 (七)

1981年度

【報告書類】
67 亀井遺跡 (七)
【逐次刊行物】
68 大阪文化誌 第14号 (七)
【その他】
69 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第4回 (七)
70 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第5回 (七)
71 図録 考古展「河内平野を語る」 (七)

1982年度

【報告書類】
72 大堀城跡発掘調査報告書 (七)
73 田山遺跡 (七)
【逐次刊行物】
74 大阪文化誌 第15号 (七)
【その他】
75 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第6回 (七)
76 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第7回 (七)
77 シンポジウム馬場台園の謎を解く (七)

1983年度

【報告書類】
78 大堀城 (七)
79 西岩田 (七)
80 若江北 (七)
81 山賀(その1) (七)
82 山賀(その2) (七)
83 山賀(その3) (七)
84 山賀(その4) (七)
85 友井東(その2) (七)
86 亀井 (七)

87 新家(その2) (七)
88 新家(その3) (七)
89 巨摩・若江北(その2) (七)
90 佐堂(その2)-I (七)
91 三日地区特定土地区画整理事業施工地区内

片原遺跡第1次発掘調査報告書 (七)
92 府道松原大津岡道跡発掘調査報告書I (七)
93 府道松原大津岡道跡発掘調査報告書II (七)
94 観音寺遺跡第一次発掘調査報告書 (七)
95 成合遺跡第1次発掘調査概要 (七)

【逐次刊行物】
96 大阪文化誌 第16号 (七)
97 大阪文化誌 第17号 (七)
【その他】

98 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第8回 (七)
99 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第9回 (七)
100 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第1回 (七)

1984年度

【報告書類】
101 亀井遺跡II (七)
102 友井東(その1) (七)
103 佐堂(その1) (七)
104 美園 (七)
105 成合寺 (七)

【逐次刊行物】
106 大阪文化誌 第18号 (七)
【その他】

107 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第10回 (七)
108 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第11回 (七)
109 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第1回 (七)
110 文化財調査資料集 1984年度 (七)
111 近畿自動車道大阪線遺跡整理事業基本マニュアル (七)

1985年度

【報告書類】
112 上原地区区画整理事業予定地内分布調査報告書 (七)
113 佐堂(その2)-II他 (七)
114 長原(その2) (七)
115 大堀城跡 II・III (七)
116 山賀(その5・6) (七)
117 久堂寺南(その3) (七)
118 亀井北(その1) (七)
119 亀井北(その2) (七)
120 亀井北(その3) (七)
121 亀井(その2) (七)
122 城山(その1) (七)
123 城山(その2) (七)
124 城山(その3) (七)
125 松原市観音寺遺跡第2次発掘調査概要 (七)
126 丹上遺跡(その1) (七)
127 丹上遺跡(その2) (七)
128 真福寺遺跡 (七)
129 小阪遺跡(その1) (七)
130 向井池遺跡 報告書第1輯 (協)
131 別所遺跡 報告書第2輯 (協)
132 阪南町内埋蔵文化財 報告書第3輯 (協)
133 西大路遺跡・今木高寺遺跡 事業報告1 (協)

134	博覧台	報告書第4輯	(協)	184	新作ミノ石切場跡	報告書第18輯	(協)
135	弘並遺跡	報告書第5輯	(協)	185	貝塚遺跡	報告書第19輯	(協)
	【その他】			186	舟山城跡	報告書第20輯	(協)
136	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第12回	(セ)	187	平井遺跡	報告書第21輯	(協)
137	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第13回	(セ)	188	山直中遺跡	報告書第22輯	(協)
138	近畿地方堰蔵文化財研究会資料	第3回	(セ)	189	西大路遺跡	報告書第23輯	(協)
139	文化財調査資料集	1985年度	(セ)	190	山ノ内遺跡B・山直北遺跡	報告書第24輯	(協)
140	河内の遺史		(セ)	191	上フジ遺跡	報告書第25輯	(協)
141	泉州の遺跡—大阪府堰蔵文化財昭和60年度発掘調査成果展		(協)	192	石才南遺跡	報告書第26輯	(協)
	<u>1986年度</u>			193	弘並遺跡II	報告書第27輯	(協)
	【報告書類】				【その他】		
142	新家(その1)		(セ)	194	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第16回	(セ)
143	久宝寺北(その1~3)		(セ)	195	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第17回	(セ)
144	久宝寺南(その1)		(セ)	196	近畿地方堰蔵文化財研究会資料	第5回	(セ)
145	久宝寺南(その2)		(セ)	197	文化財調査資料集	1987年度	(セ)
146	亀井(その3)		(セ)	198	遺跡調査基本マニュアル		(セ)
147	丹上遺跡(その4・6)		(セ)	199	山直跡とその周辺		(セ)
148	太井遺跡(その1)		(セ)	200	第3回 泉州の遺跡—昭和62年度発掘調査成果展—		(協)
149	太井遺跡(その2)		(セ)		<u>1988年度</u>		
150	太井遺跡(その3)		(セ)		【報告書類】		
151	福田遺跡(その1)		(セ)	201	小坂遺跡(その6-3)		(セ)
152	小坂遺跡(その2)		(セ)	202	小坂遺跡(その7-3)		(セ)
153	小坂遺跡(その3)		(セ)	203	小坂遺跡(その8・8-2)		(セ)
154	小坂遺跡(その4)		(セ)	204	小坂遺跡(その9)		(セ)
155	河内平野遺跡群の動態1		(セ)	205	小坂遺跡(南その1)		(セ)
156	福原遺跡・弘並遺跡 事業報告2		(協)	206	日置荘遺跡(その5)		(セ)
157	關河遺跡	報告書第6輯	(協)	207	虫取遺跡	報告書第28輯	(協)
158	山中遺跡	報告書第7輯	(協)	208	和泉寺遺跡	報告書第29輯	(協)
159	芝ノ丘外遺跡	報告書第8輯	(協)	209	橋本遺跡	報告書第30輯	(協)
160	阪南巨壁堰蔵文化財	報告書第9輯	(協)	210	清見遺跡	報告書第31輯	(協)
161	滑川遺跡	報告書第10輯	(協)	211	浜海岸遺跡	報告書第32輯	(協)
162	篠原西遺跡	報告書第11輯	(協)	212	岡中西遺跡	報告書第33輯	(協)
163	岩太山遺跡	報告書第12輯	(協)	213	山ノ内遺跡A	報告書第34輯	(協)
	【その他】			214	香瀬遺跡II	報告書第35輯	(協)
164	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第14回	(セ)	215	今木遺跡	報告書第36輯	(協)
165	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第15回	(セ)	216	山田海岸遺跡	報告書第37輯	(協)
166	近畿地方堰蔵文化財研究会資料	第4回	(セ)	217	羽倉崎遺跡	報告書第38輯	(協)
167	文化財調査資料集	1986年度	(セ)	218	藤原遺跡	報告書第39輯	(協)
168	発掘産物展 河内内陸部の周辺		(セ)	219	高向遺跡	報告書第40輯	(協)
169	第2回 泉州の遺跡—昭和61年度発掘調査成果展—		(協)	220	陶邑・大庭寺遺跡	報告書第41輯	(協)
	<u>1987年度</u>				【高次刊行物】		
	【報告書類】			221	朝大蔵文化財センター通信	№.1	
170	福田遺跡(その2)		(セ)	222	朝大蔵文化財センター通信	№.2	
171	丹上遺跡(その3・5)		(セ)	223	朝大蔵文化財センター通信	№.3	
172	日置荘遺跡(その1)		(セ)	224	大阪府堰蔵文化財協会研究紀要1		(協)
173	日置荘遺跡(その2)		(セ)		【その他】		
174	日置荘遺跡(その3)		(セ)	225	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第18回	(セ)
175	日置荘遺跡(その4)		(セ)	226	大阪府下堰蔵文化財研究会資料	第19回	(セ)
176	小坂遺跡(その5)		(セ)	227	近畿地方堰蔵文化財研究会資料	第6回	(セ)
177	小坂遺跡(その6・6-2)		(セ)	228	文化財調査資料集	1988年度	(セ)
178	小坂遺跡(その7・7-2)		(セ)	229	第4回 泉州の遺跡—昭和63年度発掘調査成果展—		(協)
179	箕土路遺跡	報告書第13輯	(協)		<u>1989年度</u>		
180	向井代遺跡	報告書第14輯	(協)		【報告書類】		
181	三田遺跡	報告書第15輯	(協)	230	太井遺跡(その4ほか)・日置荘遺跡(その1-2)		(セ)
182	金剛寺遺跡	報告書第16輯	(協)	231	日置荘遺跡(その2-2, その6)		(セ)
183	關河遺跡II	報告書第17輯	(協)	232	小坂遺跡(南その2)		(セ)

233	貝の池遺跡	事業報告 3	(協)	284	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第 8 冊	(七)
234	池園遺跡	報告書第 42 冊	(協)	285	文化財調査資料集 1990 年度	(七)
235	池田寺遺跡	報告書第 43 冊	(協)	286	朝大蔵文化財センター考古学ブックス考古学者の考古学	(七)
236	伏尾遺跡 B	報告書第 44 冊	(協)			
237	二俣池北遺跡・上フジ遺跡	報告書第 45 冊	(協)	1991 年度		
238	平舟遺跡 II	報告書第 46 冊	(協)	【報告書類】		
239	三軒屋遺跡	報告書第 47 冊	(協)	287	小坂遺跡	(七)
240	高向遺跡 II	報告書第 48 冊	(協)	288	大坂城跡の発掘調査 2	(七)
241	福瀬遺跡 II	報告書第 49 冊	(協)	289	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅶ	(七)
242	陶巴・大庭寺遺跡 II	報告書第 50 冊	(協)	290	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅷ	(七)
243	鞍部池西遺跡 II	報告書第 51 冊	(協)	291	池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅷ	(七)
244	山直中遺跡 II	報告書第 52 冊	(協)	292	鞍部池西遺跡 III	報告書第 70 冊
245	小田遺跡	報告書第 53 冊	(協)	293	池田寺遺跡 IV	報告書第 71 冊
246	池田寺遺跡 II	報告書第 54 冊	(協)	294	陶巴・伏尾遺跡 A II	報告書第 72 冊
247	唐園鼻谷遺跡	報告書第 55 冊	(協)	295	吉井遺跡	報告書第 73 冊
248	大塚遺跡	報告書第 56 冊	(協)	296	兵主成寺跡	報告書第 74 冊
249	上町遺跡	報告書第 57 冊	(協)	【逐次刊行物】		
250	水込遺跡	報告書第 58 冊	(協)	297	朝大蔵文化財センター通信 No. 7	(七)
【その他】				298	大蔵文化財研究 新刊号	(七)
251	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 30 冊	(七)	299	大蔵文化財研究 第 2 号	(七)	
252	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 31 冊	(七)	【その他】			
253	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第 7 冊	(七)	300	第 4 冊 池島・福万寺遺跡	(七)	
254	文化財調査資料集 1989 年度	(七)	301	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 34 冊	(七)	
255	第 5 冊 泉州の遺跡—昭和 63 年度発掘調査成果集—	(七)	302	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 35 冊	(七)	
256	金田義 第 2 回発掘速報展—堺市日笠荘・福田・小坂遺跡—	(七)	303	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第 9 冊	(七)	
257	切敷館の検討・発見資料 大阪の稲船堂	(七)	304	文化財調査資料集 1991 年度	(七)	
1990 年度			305	図録 大坂城跡の調査 1	(七)	
【報告書類】			306	第 6 冊 泉州の遺跡—平成 2 年度発掘調査成果集	(七)	
258	日笠荘遺跡 (その 2-3, その 6-2)	(七)	307	日笠荘とその周辺—空地開通事業の調査から—	(協)	
259	小坂遺跡 (雨その 2-2)	(七)	308	シンポジウム日笠荘聯合調査が語るもの —中世荘園世界の解明をめざして—	(協)	
260	大庭寺遺跡 I	(七)				
261	大庭寺遺跡 II・伏尾遺跡	(七)	1992 年度			
262	大坂城跡の発掘調査 1	(七)	【報告書類】			
263	池島・福万寺遺跡発掘調査概要 I	(七)	309	巨摩・若江北 (その 3)	(七)	
264	池島・福万寺遺跡発掘調査概要 II	(七)	310	新家 (その 5)	(七)	
265	池島・福万寺遺跡発掘調査概要 III	(七)	311	河合遺跡	(七)	
266	池島・福万寺遺跡発掘調査概要 IV	(七)	312	都市計画道路大坂モノレール建設に伴う 和道遺跡発掘調査概要報告書	(七)	
267	池島・福万寺遺跡発掘調査概要 V	(七)	313	一般府道本堂高井田線改良工事に伴う 骨谷地区埋蔵文化財分庫調査報告書	(七)	
268	河内平野の遺跡群の動態 II —北遺跡群 巨石器・縄文・弥生時代前期編—	(七)	【逐次刊行物】			
269	黒石遺跡	報告書第 59 冊	(協)	314	朝大蔵文化財センター通信 No. 8	(七)
270	陶巴・伏尾遺跡 A	報告書第 60 冊	(協)	315	朝大蔵文化財センター通信 No. 9	(七)
271	山ノ内遺跡 II・山直北遺跡	報告書第 61 冊	(協)	316	大蔵文化財研究 第 3 号	(七)
272	三ヶ山山西遺跡	報告書第 62 冊	(協)	317	大蔵文化財研究 第 4 号	(七)
273	石才雨遺跡 II・清見遺跡 II	報告書第 63 冊	(協)	318	大蔵文化財研究 20 周年記念増刊号	(七)
274	池園遺跡 II	報告書第 64 冊	(協)	【その他】		
275	池田寺遺跡 II	報告書第 65 冊	(協)	319	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 36 冊	(七)
276	加治・神前・島中遺跡	報告書第 66 冊	(協)	320	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 37 冊	(七)
277	母山遺跡	報告書第 67 冊	(協)	321	近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第 10 冊	(七)
278	中西遺跡	報告書第 68 冊	(協)	322	文化財調査資料集 1992 年度	(七)
279	船所遺跡 III	報告書第 69 冊	(協)	323	図録 大坂城跡の発掘調査 2	(七)
【逐次刊行物】			324	みる・きく・ふれる原始・古代のコマ作り —農耕の技術とまつり—	(七)	
280	朝大蔵文化財センター通信 No. 4・5	(七)	325	図録 農耕の技術とまつり 一池島・福万寺遺跡の調査から—	(七)	
281	朝大蔵文化財センター通信 No. 6	(七)	326	第 7 冊 泉州の遺跡—平成 3 年度発掘調査成果から—	(協)	
【その他】						
282	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 22 冊	(七)				
283	大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第 23 冊	(七)				

1993年度

【報告書類】

- 327 大阪城跡の発掘調査 3 (七)
- 328 瓜生堂遺跡発掘調査報告 (七)
- 329 陶邑・大庭寺遺跡Ⅲ 報告書第75輯 (協)
- 330 大西・中瀬遺跡Ⅱ 報告書第76輯 (協)
- 331 仏堂遺跡Ⅲ 報告書第77輯 (協)
- 332 芝ノ屋外遺跡Ⅱ 報告書第78輯 (協)
- 333 日野野遺跡 報告書第79輯 (協)
- 334 上フジ遺跡Ⅲ・三田古墳 報告書第80輯 (協)
- 335 三ヶ山西遺跡Ⅱ 報告書第81輯 (協)
- 336 中瀬遺跡Ⅲ・上町東遺跡 報告書第82輯 (協)
- 337 男里遺跡 報告書第83輯 (協)
- 338 上町遺跡Ⅱ 報告書第84輯 (協)
- 339 日根在総合調査報告書 (協)
- 【逐次刊行物】
- 340 朝大坂文化財センター通信 №10 (七)
- 341 朝大坂文化財センター通信 №11 (七)
- 342 大阪文化財研究 第5号 (七)
- 343 大阪文化財研究 第6号 (七)
- 344 研究紀要 Vol. 1 (七)
- 345 大阪府埋蔵文化財協会研究紀要2 (協)
- 【その他】
- 346 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第28回 (七)
- 347 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第29回 (七)
- 348 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第11回 (七)
- 349 文化財講座資料集 1993年度 (七)
- 350 図録 大阪城跡の発掘調査 3 (七)
- 351 第8回 泉州の遺跡—須磨藩の始まりをさぐる— (協)

1994年度

【報告書類】

- 352 大阪城跡の発掘調査 4 (七)
- 353 福田遺跡 (七)
- 354 日置在遺跡 (七)
- 355 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅲ (七)
- 356 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅳ (七)
- 357 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅴ (七)
- 358 池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅵ (七)
- 359 巨摩・若江北遺跡(その4) (七)
- 360 野・井遺跡 報告書第85輯 (協)
- 361 野・井遺跡・ON231号宮跡 報告書第86輯 (協)
- 362 三軒屋遺跡Ⅱ 報告書第87輯 (協)
- 363 瀬原遺跡 空堀道Ⅰ 報告書第88輯 (協)
- 364 求麻遺跡・中瀬遺跡・松原遺跡 空堀道Ⅱ 報告書第89輯 (協)
- 365 陶邑・大庭寺遺跡Ⅳ 報告書第90輯 (協)
- 366 志紀遺跡 報告書第91輯 (協)
- 367 東京丸遺跡 報告書第92輯 (協)
- 【逐次刊行物】
- 368 朝大坂文化財センター通信 №12 (七)
- 369 朝大坂文化財センター通信 №13 (七)
- 370 大阪文化財研究 第7号 (七)
- 371 大阪文化財研究 第8号 (七)
- 372 研究紀要 Vol. 2 (七)
- 373 大阪府埋蔵文化財協会研究紀要3 (七)
- 374 朝大坂文化財センター考古学ボックス2—大阪考古学文獻目録 (七)
- 375 朝大坂文化財センター考古学ボックス3—静古雑録 (七)

【その他】

- 376 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第30回 (七)
- 377 大阪府下埋蔵文化財研究会資料 第31回 (七)
- 378 近畿地方埋蔵文化財研究会資料 第12回 (七)
- 379 文化財講座資料集 1994年度 (七)
- 380 図録 大阪城跡の発掘調査 4 (七)
- 381 第9回 泉州の遺跡展
—平成5年度発掘調査成果・堺市下町遺跡の調査と木製品— (協)

道 塾

【報告書類】

- 382 西大井遺跡 (新七)
- 383 志紀遺跡Ⅱ (新七)
- 【現況資料】
- 384 志紀遺跡発掘調査(現地説明会資料38) (協)
- 385 栗生岡各遺跡発掘調査(現地説明会資料39) (協)
- 386 東京丸遺跡発掘調査(現地説明会資料40) (協)
- 387 第7回 池島・福万寺遺跡 現地説明会 (七)
- 388 大阪城跡現地説明会資料 Vol. 1 (七)
- 389 大阪城跡発掘調査現地説明会資料 Vol. 3 (新七)
- 【その他】
- 390 『20年のあゆみ』 (七)
- 391 『10年のあゆみ』 (協)
- 392 古代の木の道具展 (七)
- 393 O C C H 大文研通信 №2 (新七)

遺跡索引 Index for each site

site name	Location in Osaka prefecture	relic NO. (張)
粟生岡谷遺跡 Aomadani	箕面市粟生岡谷東塚か Miao C.	(古代:An.)405
池島・福万寺遺跡 Ikeshima-Fukumanji	東大阪市池島町、八尾市福万寺町 Higashiosaka C., Yao C.	(國文:Jo.)040・041、(弥生:Ya.)076・103・131・183・209・226・255、(古墳:Ko.)365・327・338・342・355・361・383・364・394、(古代:An.)435・426・453、(中世:Mo.)475
池田寺遺跡 Ikedadera	和泉市池田下町塚か Izumi C.	(國文:Jo.)031、(古代:An.)441・454
石才南遺跡 Ishizaiminami	貝塚市石才・橋本・麻生中 Kaiduka C.	(國文:Jo.)058・067、(弥生:Ya.)159
藤田池遺跡 Uedake	泉佐野市長滝 Izumisanjo C.	(古代:An.)402、(近世以降:Mo.-)498
瓜生堂遺跡 Uruedo	東大阪市若江西町新日か Higashiosaka C.	(弥生:Ya.)075・077・080・091・102・107・123・132・136・149・150・155・156・162・182・186・188・189・192・196・197・200・204~206・218・222・232・236・238・239
大阪城跡 Osakajohto	大阪市中央区大手前 Osaka C.	(古墳:Ko.)351・362、(古代:An.)406・404・437、(近世以降:Mo.)491・492・496・499~505・508~510・513~516・518・520・521
大塚遺跡 Oba	泉佐野市西本町 Izumisanjo C.	(近世以降:Mo.-)517
大塚城跡 Oborijohto	松原市大塚町 Matsubara C.	(旧石器:Pa.)006
小田遺跡 Oda	和泉市小田町 Izumi C.	(古墳:Ko.)355
男原遺跡 Onosato	泉南市男原 Sennan C.	(古代:An.)400
大塚寺遺跡 Obadera	堺市大塚寺・小代 Sakai C.	(古墳:Ko.)269・275・276・279~281・287・300・302・307・310・337~349・351・352・353・366・367、(古代:An.)413・420・423・431・447
大塚寺遺跡(TG232号窟) Obadera(TG232-kūn)	堺市大塚寺・小代 Sakai C.	(古墳:Ko.)270~274・343・350
上フジ遺跡 Kamifuji	岸和田市三田町 Kishiwada C.	(旧石器:Pa.)002、(弥生:Ya.)136、(古代:An.)422
亀井遺跡 Kamei	八尾市南亀井町、大塚市平野区加美南、長吉出戸塚か Yao C., Osaka C.	(弥生:Ya.)074・076・087~089・092・093・098~101・104~106・108・109・111・114・117・120~122・125・128~130・133~135・137~141・143~145・147~149・152~154・157・165・167・168・170・173~176・178・180・189・204・207・210・221・224・241~253、(古墳:Ko.)319・320、(古代:An.)427
亀井北遺跡 Kameikita	八尾市北亀井町、大塚市平野区加美南 Yao C., Osaka C.	(弥生:Ya.)217、(古墳:Ko.)266・269・264・371・375、(古代:An.)428
観音寺遺跡 Kannonji	松原市西大塚・立塚 Matsubara C.	(古墳:Ko.)360、(古代:An.)451、(中世:Mo.)458・469・487・489、(近世以降:Mo.-)490

久宝寺遺跡 Kyūhōji	東大阪市大蓮東・北久宝寺、八尾市神真町・久宝寺緑地ほか Higashiosaka C. , Yao C.	(圖文:Jo.)035・045・046、(古墳:Ko.)257・258・260・263・277・290・299・301・313・330・339-341・368・369・378・380・382-384・387・390・392、(古代:An.)455
小阪遺跡 Kosaka	堺市平井ほか Sakai C.	(旧石器:Pa.)012、(圖文:Jo.)013・018・019・036~039・043・044・047・057・065・070、(古墳:Ko.)282・291-295・344・347・377・379、(古代:An.)429
小代2号墳 Kodai No.2 tumulus	堺市伏尾 Sakai C.	(古墳:Ko.)334
巨摩遺跡 Koma	東大阪市若江西新町 Higashiosaka C.	(弥生:Ya.)055-057・110・112・113・119・127・129・161・169・191・193・194・208・212・219・226・240、(古墳:Ko.)266・304
金剛寺遺跡 Kongōji	阪南市貝掛 Hannan C.	(古代:An.)414・417、(中世:Me.)460・468、(近世以降:Mo.-)494・497・511・519
佐堂遺跡 Sado	東大阪市金岡、八尾市佐堂町、ほか Higashiosaka C. , Yao C.	(古墳:Ko.)282・345、(古代:An.)404・444・452、(中世:Me.)462
サノ山古墳 Sabayama tumulus	南河内郡美原町下黒山 Mihara T.	(古墳:Ko.)324
志紀遺跡 Shiki	八尾市志紀町西ほか Yao C.	(圖文:Jo.)064、(古墳:Ko.)336、(近世以降:Mo.-)498
信太山遺跡 Shinodayama	和泉市小野町ほか Izumi C.	(旧石器:Pa.)001
芝ノ畑外遺跡 Shibanogaito	岸和田市穂巻町 Kishiwada C.	(古墳:Ko.)267
下田遺跡 Shimoda	堺市下田町 Sakai C.	(弥生:Ya.)116・118・194、(古墳:Ko.)373・374・385・386・388・389・391・393
城山遺跡 Joyama	大阪市長吉出戸・長吉長原東 Osaka C.	(旧石器:Pa.)007・008、(弥生:Ya.)060、(古墳:Ko.)278・322、(古代:An.)421・430・445・457
城山5号墳 Joyama No.5 tumulus	大阪市長吉出戸・長吉長原東 Osaka C.	(古墳:Ko.)297・298
城山6号墳 Joyama No.6 tumulus	大阪市長吉出戸・長吉長原東 Osaka C.	(古墳:Ko.)395
新家遺跡 Shinga	東大阪市常木西 Higashiosaka C.	(圖文:Jo.)042、(弥生:Ya.)077・190・201・211・213・215・229・235・237、(古墳:Ko.)308
真福寺遺跡 Shinokujū	南河内郡美原町真福寺・下黒山 Mihara T.	(古代:An.)399・432、(中世:Me.)478-481
真福寺遺跡(3号瓦葺) Shinokujū (No.3 kiln)	南河内郡美原町真福寺・下黒山 Mihara T.	(古代:An.)411
末廣遺跡 Suehiro	泉佐野市松原ほか Izumisan C.	(圖文:Jo.)059
太井遺跡 Tai	南河内郡美原町太井・下黒山 Mihara T.	(旧石器:Pa.)009・010、(古墳:Ko.)336・357・398、(古代:An.)409・434・435・438、(中世:Me.)466
太平寺遺跡 Taiheiji	堺市太平寺・平井 Sakai C.	(圖文:Jo.)017
高向遺跡 Tako	河内長野市高向・上原 Kawachinagano C.	(旧石器:Pa.)001、(圖文:Jo.)054

田山遺跡 Tayama	阪南市稲作 Hannan C.	(古代:An.)410・449、(中世:Me.)471・482・485
丹上遺跡 Tanjo	南河内郡美原町丹上 Mihara T.	(旧石器:Pa.)010、(古代:An.)419・439
友井塚遺跡 Tomohigashi	東大阪市金物町、八尾市新家町ほか Higashiosaka C., Yao C.	(弥生:Ya.)188、(古墳:Ko.)376
長原遺跡 Nagahara	大阪市長吉長塚東・長吉川辺 Osaka C.	(古代:An.)412・450、(中世:Me.)461・468・470
長原3号墳 Nagahara No.3 tumulus	大阪市長吉長塚東・長吉川辺 Osaka C.	(古墳:Ko.)318
滑瀬遺跡 Namerjo	泉南市信達六尾 Sennan C.	(旧石器:Pa.)001
西岩田遺跡 Nishiwata	東大阪市西岩田 Higashiosaka C.	(弥生:Ya.)179・185・187・195・198・199・214・219・230・233、(古墳:Ko.)356
西浦橋遺跡 Nishikurabashi	堺市菱木 Sakai C.	(縄文:Jo.)034・095、(弥生:Ya.)234、(古代:An.)433
西六井遺跡 Nishioi	藤井寺市西六井 Fujidera C.	(旧石器:Pa.)004、(縄文:Jo.)032・033・051・052・060、(古墳:Ko.)396、(古代:An.)443・456
西大路遺跡 Nishioji	岸和田市西大路町 Kishiwada C.	(弥生:Ya.)116、(古代:An.)418・440
野々井遺跡 Nonoi	堺市野々井・菱木 Sakai C.	(弥生:Ya.)184・221
野々井古墳 Nonoi tumulus	堺市野々井・菱木 Sakai C.	(古墳:Ko.)332・353
野々井西遺跡 Nonoinishi	堺市菱木 Sakai C.	(弥生:Ya.)142、(古代:An.)403
野々井西遺跡(ON231号案) Nonoinishi(ON231 kiln)	堺市菱木 Sakai C.	(古墳:Ko.)283~286・288・289
橋本遺跡 Hashimoto	貝塚市橋本ほか Kaiduka C.	(中世:Me.)469
東奈良遺跡 Higashinara	茨木市東奈良、奈良町、若草町、吳沢町、沢良宜西町ほか Ibaraki C.	(弥生:Ya.)094・146
日置荘遺跡 Hibiyo	堺市日置荘原寺町・田中町・西町 Sakai C.	(古墳:Ko.)303・381・401・415・416・436、 (中世:Me.)464・485・487・472~474・476・477
日置荘遺跡(埴輪窯) Hibiyo(haniwa kiln)	堺市日置荘原寺町・田中町・西町 Sakai C.	(古墳:Ko.)321・323・325
菱木下遺跡 Hishikishimo	堺市菱木下 Sakai C.	(中世:Me.)483・484、(近世以降:Mo.-)493
福田遺跡 Fukuda	堺市福田 Sakai C.	(古墳:Ko.)304
伏尾遺跡 Fuseo	堺市伏尾・和田 Sakai C.	(古墳:Ko.)296・309・310・335
伏尾3号墳 Fuseo No.3 tumulus	堺市伏尾・和田 Sakai C.	(古墳:Ko.)317

仏笠遺跡 Butsunami	和泉市仏笠町 Izumi C.	(縄文:Jo.)014・016・020~030・048・053・056・062・063・068
蛍池西遺跡 Hotarugaikenishi	豊中市蛍池南町・蛍池西町ほか Toyonaka C.	(旧石器:Pa.)005
蛍池東遺跡 Hotarugaikeshigashi	豊中市蛍池東町ほか Toyonaka C.	(古墳:Ko.)268
松原遺跡 Matsubara	泉佐野市松原ほか Izumino C.	(古墳:Ko.)311
万崎池遺跡 Manzakike	堺市豊木ほか Sakai C.	(旧石器:Pa.)003、(古代:An.)442
水込遺跡 Mizukoshi	岸和田市包近町ほか Kishiwada C.	(古代:An.)448
溝沖遺跡 Mizokui	茨木市学園町 Ibaraki C.	(古代:An.)446
美園遺跡 Misono	東大阪市金物町、八尾市美園町 Higashiosaka C. , Yao C.	(弥生:Ya.)082・083・115・160・164・171・172・177、 (古墳:Ko.)261・354・370・372
美園古墳 Misono tumulus	東大阪市金物町、八尾市美園町 Higashiosaka C. , Yao C.	(古墳:Ko.)314~316
三田遺跡 Mita	岸和田市三田町 Kishiwada C.	(旧石器:Pa.)011、(縄文:Jo.)061、(古墳:Ko.)367
三田古墳 Mita tumulus	岸和田市三田町 Kishiwada C.	(古墳:Ko.)305・329・331・333・334・338・346・358・365
箕土路遺跡 Midoro	岸和田市箕土路町 Kishiwada C.	(中世:Me.)463・486、(近世以降:Mo.-)495
ミノバ石切場跡 Minobalehikibato	阪南市蒲作 Hannan C.	(近世以降:Mo.-)506・507・512
山賀遺跡 Yanaga	東大阪市若江西新町、八尾市新家町 Higashiosaka C. , Yao C.	(縄文:Jo.)049・071、(弥生:Ya.)072・073・079~081・084~086・158・163・164・166・178・181・202・303・216・220・223・225・227
山鹿北遺跡 Yamadaikita	岸和田市摩福ほか Kishiwada C.	(古代:An.)406・407
山ノ内遺跡 Yamanouchi	岸和田市田治米町 Kishiwada C.	(縄文:Jo.)015・050・055・069
若江北遺跡 Wakaikita	東大阪市若江西新町 Higashiosaka C.	(弥生:Ya.)075・151・254
鯉浜遺跡 Wakihama	貝塚市鯉浜 Kaiduka C.	(古墳:Ko.)312

※ Pa.:Palaeolithic, Jo.:Jomon period, Ya.:Yayoi period, Ko.:Kofun period, An.:Ancient time (Asuka,Nara and Heian period)
Me.:Medieval time (Kamakura and Muromachi period), Mo.-:Modern time- (since Momoyama and Edo period)

INDEX (Page18-149)

- 001 backed blades:Late Palaeolithic Period;
Shinodayama:Tako, Namenjo
- 002 backed blades:Late Palaeolithic Period;Kamifuji
- 003 backed blades:Late Palaeolithic Period; Manzakiike
- 004 stone-awls:Late Palaeolithic Period;Nishio
- 005 backed blade,side blow flakes,backed blade;
Late Palaeolithic Period;Hotarugaikenishi
- 006 side blow flakes:Late Palaeolithic Period;Oborijoato
- 007 core:Late Palaeolithic Period;Joyama
- 008 cores:Late Palaeolithic Period;Joyama
- 009 core:Late Palaeolithic Period;Oi
- 010 tanged points,Late Palaeolithic-incipient Jomon Period;
Oi,Tanjo
- 011 tanged points:Late Palaeolithic-incipient Jomon Period;
Mita
- 012 tanged point:Late Palaeolithic-incipient Jomon Period;
Kosaka
- 013 Jomon pottery(deep bowl):Middle Jomon Period;Kosaka
- 014 Jomon pottery(deep bowl):Middle Jomon Period;
Butsunami
- 015 Jomon pottery(deep bowl):Middle-Late Jomon Period
;Yamanouchi
- 016 Jomon pottery(deep bowl):Initial-Early Jomon Period
;Butsunami
- 017 Jomon pottery(deep bowl):Initial-Early Jomon Period
;Taiheiji
- 018 Jomon pottery(deep bowl):Middle Jomon Period;Kosaka
- 019 Jomon pottery(deep bowl):Middle Jomon Period;Kosaka
- 020 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 021 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 022 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 023 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 024 Jomon pottery(shallow bowl):Late Jomon Period;
Butsunami
- 025 Jomon pottery(shallow bowl):Late Jomon Period;
Butsunami
- 026 Jomon pottery(shallow bowl):Late Jomon Period;
Butsunami
- 027 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 028 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 029 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Butsunami
- 030 Jomon pottery(elongate pottery):Late Jomon Period;
Butsunami
- 031 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Ikedadera
- 032 Jomon pottery(shallow bowl):Late Jomon Period;Nishio
- 033 miniature pottery:Late Jomon Period;Nishio
- 034 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;
Nishiurabashi
- 035 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Kyushouji
- 036 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Kosaka
- 037 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Kosaka
- 038 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;Kosaka
- 039 Jomon pottery(shallow bowl):Late Jomon Period;Kosaka
- 040 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;
Ikeshima-fukumanji
- 041 Jomon pottery(deep bowl):Late Jomon Period;
Ikeshima-fukumanji
- 042 Jomon pottery(flagments of deep bowls):Final Jomon
Period;Shinge
- 043 Jomon pottery(deep bowl):Final Jomon Period;Kosaka
- 044 Jomon pottery(deep bowl):Final Jomon Period;Kosaka
- 045 Yayoi pottery(narrow mouthed jar):Final Jomon Period
;Kyuhouji
- 046 Jomon pottery(deep bowl with impression of rice):
Final Jomon Period;Kyushouji
- 047 Jomon pottery(shallow bowl):Final Jomon Period;
Kosaka
- 048 clay mask:Late Jomon Period;Butsunami
- 049 clay figurine:Final Jomon Period;Yamaga
- 050 re-assembled set of flakes:Jomon Period;Yamanouchi
- 051 primary flakes:Late-Final Jomon Period;Nishio
- 052 blades:Late-Final Jomon Period;Nishio
- 053 stone arrowheads:Initial-Final Jomon Period;Butsunami
- 054 stone arrowheads:Early Jomon Period;Takou
- 055 stone arrowheads:Late Jomon Period;Yamanouchi
- 056 stone awl:Late Jomon Period;Butsunami
- 057 tanged stone scrapers:Jomon-Yayoi Period;Kosaka
- 058 tanged stone scraper;Jomon Period;Ishizaiminami
- 059 tanged stone scraper;Early Jomon Period;Suehiro
- 060 stone weight:Final Jomon Period;Nishio
- 061 stone axe-head:Jomon Period;Mita
- 062 stone axe-head:Late Jomon Period;Butsunami
- 063 stone rod:Late Jomon Period;Butsunami
- 064 stone rod:Late Jomon Period;Shiki
- 065 stone rod:Final Jomon-Early Yayoi Period;Kosaka
- 066 sword-shaped stone object:Middle Jomon Period;
Nishiurabashi
- 067 sword-shaped stone object:Final Jomon Period;
Ishizaiminami
- 068 hammer stones:Middle-Late Jomon Period;Butsunami
- 069 hammer stones:Late-Final Jomon Period;Yamanouchi
- 070 saddlequern:Late Jomon Period;Kosaka
- 071 wooden bowl:Final Jomon Period;Yamaga
- 072 Yayoi pottery (of The Fist Style):Early Yayoi Period;
Yamaga
- 073 Yayoi pottery (of The Second Style):Middle Yayoi
Period;Yamaga
- 074 Yayoi pottery(of The Early Third Style):Middle Yayoi
Period;Kamei
- 075 Yayoi pottery (of The Late Third-Forth Style):
Middle Yayoi Period;Uruido;Wakaseita
- 076 Yayoi pottery(The Early Fifth Style);

- Late Yayoi Period:Kamei
- 077 Yayoi pottery(The Late Fifth Style):Late Yayoi Period:
Shinge,Uriudo
- 078 Yayoi pottery(jar):Early Yayoi Period:Isheshima-fukumanji
- 079 Yayoi pottery(miniature of jar,jar):Early Yayoi Period:
Yamaga
- 080 Yayoi pottery(miniature of jar):Early Yayoi Period:
Joyama:Yamaga
- 081 Yayoi pottery(pot):Early Yayoi Period:Yamaga
- 082 Yayoi pottery(jar):Early Yayoi Period:Misono
- 083 Yayoi pottery(pot):Early Yayoi Period:Misono
- 084 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Yamaga
- 085 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Yamaga
- 086 Yayoi pottery(pot):Middle Yayoi Period:Yamaga
- 087 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Kamei
- 088 Yayoi pottery(jar,pedestaled bowl):Middle Yayoi Period:
Kamei
- 089 Yayoi pottery(pot):Middle Yayoi Period:Kamei
- 090 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Uriudo
- 091 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Uriudo
- 092 Yayoi pottery(pitcher):Middle Yayoi Period:Kamei
- 093 Yayoi pottery(pot):Middle Yayoi Period:Kamei
- 094 Yayoi pottery(bowl etc.):Middle Yayoi Period:
Higashinara
- 095 Yayoi pottery(jar):Middle Yayoi Period:Koma
- 096 Yayoi pottery(pitcher,jar without neck):
Middle-Late Yayoi Period:Koma
- 097 Yayoi pottery(pedestaled bowl,pot):Yayoi pottery(pot):
Middle Yayoi Period:Koma
- 098 Yayoi pottery(jar):Late Yayoi Period:Kamei
- 099 Yayoi pottery(pedestaled bowl):Yayoi pottery(pot):
Late Yayoi Period:Kamei
- 100 Yayoi pottery(pedestaled bowl,jar without neck):
Late Yayoi Period:Kamei
- 101 Yayoi pottery(pot):Late Yayoi Period:Kamei
- 102 Yayoi pottery(hand warmer shaped pottery):
Late Yayoi Period:Uriudo
- 103 pottery for wet-rice field ceremony:Late Yayoi Period:
Isheshima-fukumanji
- 104 pottery with incised evil eyes:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 105 pottery with incised deer picture:Late Yayoi Period:
Kamei
- 106 pottery with incised deer picture:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 107 pottery with incised raised-floor building:
Middle Yayoi Period:Uriudo
- 108 marked pottery:Late Yayoi Period:Kamei
- 109 marked pottery:Late Yayoi Period:Kamei
- 110 pottery relief deer :Middle Yayoi Period:Koma
- 111 Mumon style pottery ;Middle Yayoi Period:Kamei
- 112 Setouchi type pottery:Middle Yayoi Period:Koma
- 113 Setouchi type pottery:Middle Yayoi Period:Koma
- 114 Setouchi type pottery:Late Yayoi Period:Kamei
- 115 beat distorted pottery:Early Yayoi Period:Misono
- 116 salt making pots:Late Yayoi Period:Simoda,Nishioji
- 117 octopus traps:Middle-Late Yayoi Period:Kamei
- 118 octopus traps:Late Yayoi Period:Shimoda
- 119 huoquan coin:Late Yayoi Period:Koma
- 120 huoquan coins:Late Yayoi Period:Kamei
- 121 huoquan coins:Late Yayoi Period:Kamei
- 122 mirror manufactured in Japan from continental
prototype:Late Yayoi Period:Kamei
- 123 bronze halbard:Middle Yayoi Period:Uriudo
- 124 bronze bell:Late Yayoi Period:Simoda
- 125 fragments of bronze bell:Late Yayoi Period:
Middle Yayoi Period:Kamei
- 126 bronze imitation of bronze bell:Late Yayoi Period:
Kamifuji
- 127 bronze bracelet:Middle Yayoi Period:Koma
- 128 bronze arrowheads,bronze bracelet:Middle-Late Yayoi
Period:Kamei
- 129 bronze arrowheads:Late Yayoi Period:Koma:Kamei
- 130 bronze arrowheads:Late Yayoi Period:Kamei
- 131 bronze arrowhead:Late Yayoi Period:Isheshima-Fukumanji
- 132 mould for bronze implement:Middle Yayoi Period:
Uriudo
- 133 objects related casting bronze implement:
Middle Yayoi Period:Kamei
- 134 objects related casting bronze implement:
Middle Yayoi Period:Kamei
- 135 plate shaped iron axe-head:Late Yayoi Period:Kamei
- 136 clay imitation of bronze bell:Middle Yayoi Period:
Uriudo
- 137 clay imitation of bronze bell:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 138 clay imitation of bronze bells:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 139 clay imitation of bronze bells:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 140 clay imitation of bronze bell:Middle Yayoi Period:Kamei
- 141 clay imitation of bronze bell:Middle Yayoi Period:
Kamei
- 142 clay imitation of bronze bell:Late Yayoi Period:
Nonoinishi
- 143 weight-shaped clay tablet:Middle Yayoi Period:Kamei
- 144 weight-shaped clay tablet:Middle Yayoi Period:Kamei
- 145 weight-shaped clay tablet:Late Yayoi Period:Kamei
- 146 boat-shaped clay object:Middle Yayoi Period:
Higashinara
- 147 large bifacially bevelled felling axes:Middle Yayoi
Period:Kamei
- 148 flat planoconvex adze:Middle Yayoi Period:Uriudo:
Kamei

- 149 quadrangular polished stone axes with unifacially bevelled edge:Middle Yayoi Period;Uriudo;Kamei
- 150 discoidal stone mace-head:Middle Yayoi Period;Uriudo
- 151 discoidal stone mace-head:Middle Yayoi Period; Wakaekita
- 152 discoidal stone mace-head:Middle Yayoi Period;Kamei
- 153 stone reaping knives:Middle Yayoi Period;Kamei
- 154 large stone reaping knives:Middle Yayoi Period;Kamei
- 155 polished stone imitation of bronze halberd; Middle Yayoi Period;Uriudo
- 156 stone imitation of bronze dagger:Middle Yayoi Period; Uriudo
- 157 stone imitation of bronze dagger:Middle Yayoi Period; Kamei
- 158 stone imitation of bronze dagger:Middle Yayoi Period; Yamaga
- 159 stone imitation of bronze dagger:Middle Yayoi Period; Ishizaiminami
- 160 polished stone daggers:Early Yayoi Period;Misono
- 161 polished stone daggers:Middle Yayoi Period;Koma
- 162 polished stone daggers:Middle Yayoi Period;Uriudo
- 163 chipped stone daggers:Early Yayoi Period;Yamaga
- 164 chipped stone daggers;Early-Middle Yayoi Period; Yamaga,Misono
- 165 chipped stone daggers:Middle Yayoi Period;Kamei
- 166 stone arrowheads from a wooden coffin; Middle Yayoi Period;Yamaga
- 167 stone arrowheads:Middle Yayoi Period;Kamei
- 168 curved bead-shaped stone:Middle Yayoi Period;Kamei
- 169 cylindrical jasper beads,curved glass bead,small glass beads:Late Yayoi Period;Koma
- 170 glass beads,cylindrical jasper beads :Middle-Late Yayoi Period;Kamei
- 171 stone rod;Early Yayoi Period;Misono
- 172 stone rods;Early Yayoi Period;Misono
- 173 stone rod;Early-Middle Yayoi Period;Kamei
- 174 stone rod;Middle Yayoi Period;Kamei
- 175 polished stones;Early Yayoi Period;Kamei
- 176 stone pestle;Early Yayoi Period;Kamei
- 177 red-painted stone;Early Yayoi Period;Misono
- 178 hafts for axe ;Early;Middle Yayoi Period; Yamaga;Kamei
- 179 hafts for adze:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 180 wide-edged hoe:Late Yayoi Period;Kamei
- 181 hoe-head;Early Yayoi Period;Yamaga
- 182 wide-edged hoe:Middle Yayoi Period;Uriudo
- 183 hoe,wide-edged hoes:Late Yayoi Period; Ikeshima-fukumanji
- 184 unfinished hoe:Middle Yayoi Period;Nonoi
- 185 splash guard:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 186 fork-shaped hoe blade ;Middle Yayoi Period;Uryudo
- 187 hoe heads:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 188 spade ;Early and Middle Yayoi Period; Uriudo;Tomohigashi
- 189 folk-shaped spade :Middle Yayoi Period;Kamei
- 190 spade ;Late Yayoi Period;Shinge
- 191 paddy-field clogs:Middle Yayoi Period;Koma
- 192 paddy field sledges ;Middle Yayoi Period;Uriudo
- 193 wooden reaping knife:Middle-Late Yayoi Period;Koma
- 194 wooden reaping knife:Middle-Late Yayoi Period;Koma
- 195 wooden sickle:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 196 pestle;Middle Yayoi Period;Uriudo
- 197 mortar:Middle Yayoi Period;Uriudo
- 198 oar:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 199 rudder-shaped object:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 200 hailing pail:Late Yayoi Period;Uriudo
- 201 fishing float;Early-Middle Yayoi Period;Shinge
- 202 fish spears;Early Yayoi Period;Yamaga
- 203 fish trap;Early Yayoi Period;Yamaga
- 204 arrows:Middle Yayoi Period;Kamei;Uriudo
- 205 dagger sheath;Middle Yayoi Period;Uriudo
- 206 sword hilt:Late Yayoi Period;Uriudo
- 207 shield:Late Yayoi Period;Kamei
- 208 ornamental comb:Late Yayoi Period;Koma
- 209 ornamental comb:Late Yayoi Period;Koma
- 210 crown-shaped wooden object ;Middle Yayoi Period; Kamei
- 211 fan handle:Late Yayoi Period;Shinge
- 212 harp;Middle Yayoi Period;Koma
- 213 harp:Late Yayoi Period;Shinge
- 214 ritual boat-shaped object:Late Yayoi Period;Shinge, Nishiiwata
- 215 ritual boat-shaped objects:Late Yayoi Period;Shinge
- 216 ritual bird-shaped object;Early Yayoi Period;Yamaga
- 217 ritual bird-shaped object;Middle Yayoi Period; Kameikita
- 218 ritual bird-shaped object:Late Yayoi Period;Uriudo
- 219 dippers:Late Yayoi Period;Koma,Nishiiwata
- 220 unfinished laddle;Early Yayoi Period;Yamaga
- 221 unfinished spoon;Middle Yayoi Period;Kamei
- 222 dipper;Middle Yayoi Period;Uriudo
- 223 gourd vessel with spout;Early Yayoi Period;Yamaga
- 224 dipper:Late Yayoi Period;Kamei
- 225 lid and box with four legs ;Middle Yayoi Period; Yamaga
- 226 wooden plate with legs:Middle Yayoi Period;Koma
- 227 wooden pedestaled bowl;Early Yayoi Period;Yamaga
- 228 wooden pedestaled bowl;Early Yayoi Period; Ikeshima-fukumanji
- 229 tub:Late Yayoi Period;Shinge
- 230 unfinished tub:Late Yayoi Period;Nishiiwata
- 231 wooden frame ;Middle Yayoi Period;Nonoi
- 232 thread or warp beam:Middle Yayoi Period;Uriudo
- 233 wooden carry frame:Late Yayoi Period;Nishiiwata

- 234 stool:Middle Yayoi Period:Nishurabashi
- 235 stool:Late Yayoi Period:Shinge
- 236 leg of stool:Late Yayoi Period:Uriudo
- 237 ladder:Late Yayoi Period:Shinge
- 238 wooden coffin:Middle Yayoi Period:Uriudo
- 239 wooden coffin:Middle Yayoi Period:Uriudo
- 240 wooden coffin:Late Yayoi Period:Koma
- 241 hammer made of antler:Middle Yayoi Period:Kamei
- 242 spindle made of antler:Middle Yayoi Period:Kamei
- 243 pendant made of task:Middle-Late Yayoi Period:Kamei
- 244 stick hilt made of antler:Middle-Late Yayoi Period: Kamei
- 245 hook made of antler:Middle Yayoi Period:Kamei
- 246 divination bone:Middle Yayoi Period:Kamei
- 247 divination bone:Middle Yayoi Period:Kamei
- 248 divination bone:Middle Yayoi Period:Kamei
- 249 jaw bones of wild boar:Middle Yayoi Period:Kamei
- 250 skull of wild boar:Middle Yayoi Period:Kamei
- 251 skeletons of dog:Middle Yayoi Period:Kamei
- 252 skelton of rat:Middle Yayoi Period:Kamei
- 253 bone of whale:Middle-Late Yayoi Period:Kamei
- 254 carbonized rice:Early Yayoi Period:Wakaseita
- 255 carbonized rice:Early Yayoi Period:Ikeshima-Fukumanaji
- 256 Haji ware (jar):Early Kofun Period:Kameikita
- 257 Haji ware(jar):Early Kofun Period:Kyuhoji
- 258 Haji ware(jar):Early Kofun Period:Kyuhoji
- 259 Haji ware(hand warmer shaped pottery): Early Kofun Period:Kameikita
- 260 Haji ware(hand warmer shaped pottery): Early Kofun Period:Kyuhoji
- 261 Haji ware(hand warmer shaped pottery): Early Kofun Period:Misono
- 262 Tokai style pot:Early Kofun Period:Sado
- 263 San'in style jar stand:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 264 Kibi style pot:Early Kofun Period:Wakaseita
- 265 irregular jar:Early Kofun Period:Ikeshima-Fukumanaji
- 266 Haji wares(pottery for paddy field ceremony): Early Kofun Period:Koma
- 267 Haji wares(jar,pot,etc):Early Kofun Period: Shibanogaito
- 268 Haji ware(jar,pot):Early Kofun Period: Hotarugaikegishashi
- 269 Haji ware(pot):Early Kofun Period:Obadera
- 270 Sue ware(lid):Middle Kofun Period:Obadera(kiln)
- 271 Sue ware (pedestaled bowl):Middle Kofun Period: Obadera(kiln)
- 272 Sue ware (pedestaled bowl):Middle Kofun Period: Obadera(kiln)
- 273 Sue ware (jar stand):Middle Kofun Period:Obadera(kiln)
- 274 Sue ware (jar stand):Middle Kofun Period:Obadera(kiln)
- 275 Sue ware(pedestaled bowl):Middle Kofun Period:Obadera
- 276 Sue ware(jar stand):Middle Kofun Period:Obadera
- 277 Sue ware(pedestaled bowl):Middle Kofun Period:Kyuhoji
- 278 Sue ware(pedestaled bowl):Middle Kofun Period:Joyama
- 279 Sue ware(cup):Middle Kofun Period:Obadera
- 280 Sue ware (jar stand):Middle Kofun Period:Obadera
- 281 Sue ware(bowl with handle):Middle Kofun Period: Obadera
- 282 Sue ware(steamer):Middle Kofun Period:Kosaka
- 283 Sue ware(lid):Middle Kofun Period:Nonoinishi(kiln)
- 284 Sue ware(lid):Middle Kofun Period:Nonoinishi(kiln)
- 285 Sue ware(cup):Middle Kofun Period:Nonoinishi(kiln)
- 286 Sue ware(cask shaped drink server):Middle Kofun Period:Nonoinishi(kiln)
- 287 Sue ware(cask shaped drink server):Middle Kofun Period:Obadera
- 288 Sue wares(lid, bowl):Middle Kofun Period: Nonoinishi(kiln)
- 289 Sue ware(jar stand):Middle Kofun Period: Nonoinishi(kiln)
- 290 Sue ware(pedestaled bowl):Middle Kofun Period:Kyuhoji
- 291 Sue wares imitated of Haji ware:Middle Kofun Period: Kosaka
- 292 Haji wares imitated of Sue ware:Middle Kofun Period: Kosaka
- 293 Haji wares(pedestand bow, jar, etc):Middle Kofun Period: Kosaka
- 294 Haji wares(pedestand bow, jar, etc):Middle Kofun Period: Kosaka
- 295 fumed pottery(pot, jar):Middle Kofun Period:Kosaka
- 296 Korean style pottery(pot etc.):Middle Kofun Period: Fuso
- 297 Korean style pottery(pot),Haji ware(pot): Middle Kofun Period:Joyama tumulus No.5
- 298 Korean style pottery(pot):Middle Kofun Period: Joyama tumulus No.5
- 299 Korean style pottery(pot):Middle Kofun Period: Kyuhoji
- 300 Korean style pottery(pot):Middle Kofun Period: Obadera
- 301 Korean style pottery(bowl):Middle Kofun Period: Kyuhoji
- 302 Korean style pottery(bowl):Middle Kofun Period: Obadera
- 303 Haji wares:Late Kofun Period:Hikisho
- 304 Haji wares:Late Kofun Period:Koma
- 305 funerary pots from burial mound:Late Kofun Period: Mita tumulus
- 306 drink server with composited rim:Late Kofun Period: Fkuda
- 307 Sue ware (cup with double handle):Late Kofun Period: Obadera
- 308 lid of Haji ware imitated of Sue one: Late Kofun Period:Shinge

- 309 cylindrical pottery:Late Kofun Period:Fuseo
- 310 cylindrical pottery:Late Kofun Period:Fuseo
- 311 octopus traps and salt making pots:Yayoi-Early Kofun Period:Matsubara
- 312 salt making pots:Early Kofun Period:Wakihama
- 313 salt making pots:Middle Kofun Period:Kyuhoji
- 314 jar-shaped haniwa:Early Kofun Period:Misono tumulus
- 315 house-shaped haniwa:Early Kofun Period: Misono tumulus
- 316 house-shaped haniwa:Early Kofun Period: Misono tumulus
- 317 house-shaped haniwa:Middle Kofun Period:Fuseo
- 318 house-shaped haniwa:Late Kofun Period: Nagahara tumulus No.3
- 319 house-shaped haniwa:Late Kofun Period:Kamei
- 320 house-shaped haniwa:Late Kofun Period:Kamei
- 321 house-shaped haniwa,human-shaped haniwa: Late Kofun Period:Hikisho(kiln)
- 322 quiver shaped haniwas:Late Kofun Period:Joyama
- 323 human-shaped haniwa:Late Kofun Period:Hikisho(kiln)
- 324 cylindrical haniwas:Middle Kofun Period: Kodai tumulus No.2,Sabayama tumulus
- 325 cylindrical haniwas:Late Kofun Period:Hikisho(kiln)
- 326 haniwas re-used as well supports:Middle-Late Kofun Period:Oi
- 327 broken mirror :Early Kofun Period:Isheshima-fukumanji
- 328 bronze mirror:Early Kofun Period:Isheshima-fukumanji
- 329 ear ring:Late Kofun Period:Mita tumulus
- 330 bronze arrowhead:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 331 iron arrowheads:Late Kofun Period:Mita tumulus
- 332 iron arrowheads with long tangs:Late Kofun Period: Nonoi tumulus
- 333 long sword design featuring three leaves in a circle: Late Kofun Period:Mita tumulus
- 334 sword guard:Late Kofun Period:Mita tumulus
- 335 iron sword:Late Kofun Period:Fuseo
- 336 spade-head or hoe-head ironseaf:Middle Kofun Period:Shiki
- 337 spade-head sheaf:Late Kofun Period:Obadera
- 338 spade-head sheaf:Late Kofun Period:Mita tumulus
- 339 iron sickle:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 340 iron axe-head:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 341 clay bird:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 342 clay bird:Early Kofun Period:Isheshima-fukumanji
- 343 boat-shaped pottery:Middle Kofun Period:Obadera(kiln)
- 344 irregular vessel:Middle Kofun Period:Kosaka
- 345 incised clay object:Early Kofun Period:Sedo
- 346 clay beads:Late Kofun Period:Oda
- 347 potter's anvil for beater:Middle Kofun Period:Kosaka
- 348 potter's anvil for beater:Middle Kofun Period:Obadera
- 349 potter's anvil beater:Middle Kofun Period:Obadera
- 350 separator tools used inside ceramic kiln:Middle Kofun Period:Obadera(kiln)
- 351 below:Late Kofun Period:Osakajonto
- 352 spindle weight made of Sue ware:Late Kofun Period: Obadera
- 353 spindle weights made of Sue ware and stearite: Late Kofun Period:Nonoi tumulus
- 354 spindle weights made of stearite:Middle Kofun Period: Misono
- 355 spindle weight made of stearite:Middle Kofun Period: Isheshima-fukumanji
- 356 spindle weights made of stearite:Middle Kofun Period: Nishiwata
- 357 spindle weight made of stearite:Middle Kofun Period: Tai
- 358 spindle weight made of stearite:Late Kofun Period: Mita tumulus
- 359 curved bead made of stearite:Middle Kofun Period:Oda
- 360 compounded curved bead:Late Kofun Period:Kannonji
- 361 compounded curved bead:Late Kofun Period: Isheshima-fukumanji
- 362 compounded curved beads:Late Kofun Period:Osakajonto
- 363 objects made of stearite:Late Kofun Period: Isheshima-fukumanji
- 364 glass bead, faceted bead made of crystal: Late Kofun Period:Isheshima-fukumanji
- 365 crystal beads,glass beads:Late Kofun Period: Mita tumulus
- 366 curved bead made of agate:Late Kofun Period:Obadera
- 367 arrowhead-shaped stone object:Early-Middle Kofun Period:Mita
- 368 stone mortar:Middle Kofun Period:Kyuhoji
- 369 stone pestle:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 370 spade:Early Kofun Period:Misono
- 371 spade:Early Kofun Period:Kameikita
- 372 hoe:Early Kofun Period:Misono
- 373 wide-edged hoes with splash guard:Early Kofun Period: Shimoda
- 374 folled hoe blade:Early Kofun Period:Shimoda
- 375 smoothing tool for wet rice field:Early Kofun Period: Kameikita
- 376 large clogs used in paddy-field:Early Kofun Period :Tomotigashi
- 377 wooden stickle:Middle Kofun Period:Kosaka
- 378 pestle:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 379 mortar:Middle Kofun Period:Kosaka
- 380 haft for adms:Middle Kofun Period:Kyuhoji
- 381 potter's wooden anvil for beater:Middle Kofun Period: Hikisho
- 382 wooden spindle weight:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 383 wooden shallow bowl with pouring lip:Early Kofun Period:Kyuhoji
- 384 wooden shallow bowl:Early Kofun Period:Kyuhoji

- 385 box parts:Early Kofun Period:Shimoda
 386 boat-shaped wooden object:Early Kofun Period:Shimoda
 387 boat-shaped wooden object:Early Kofun Period:Kyuhofu
 388 breast plate:Early Kofun Period:Shimoda
 389 wooden pommel:Early Kofun Period:Shimoda
 390 wooden pommel:Early Kofun Period:Kyuhofu
 391 wooden object with ring:Early Kofun Period:Shimoda
 392 chair-shaped wooden object:Early Kofun Period:Kyuhofu
 393 harp:Early Kofun Period:Shimoda
 394 ornamental comb:Early Kofun Period:Ishikawa-fukumanji
 395 ornamental combs:Middle Kofun Period;
 Joyama tumulus No.6
 396 wooden plate decorated with intersecting diagonal and
 curved lines: Early Kofun Period:Nishioji
 397 unknown wooden object:Late Kofun Period:Obadera
 398 pottery:Late Asuka Period:Tai
 399 pottery:Late Asuka Period:Shinpujui
 400 pottery:Middle Heian Period:Onosato
 401 pottery:Late Heian Period:Hikisho
 402 Sue ware(jar for cremated):Late Nara Period:Uedaiki
 403 Sue ware (jar,lid for cremated):Late Nara Period
 ;Noinishi
 404 Haji ware (flanged kettle used for burial):
 Early Heian Period:Sado
 405 three color glazed ceramic(small jar):Early Nara Period:
 Aomadani
 406 green glazed ceramic(plate):Middle Heian Period;
 Yamadaikita
 407 green glazed ceramic(heather incense):Middle Heian
 Period:Yamadaikita
 408 green glazed ceramic(lid):Asuka Period:Osakaajoato
 409 ceramic cup made in Integrated Shilla(cup):Late Asuka
 Period:Tai
 410 salt making pottery(pot):Late Nara Period:Tayama
 411 round eaves tile:Early Nara Period:Shinpujui(kiln)
 412 round eaves tile:Late Nara Period:Nagahara
 413 round eaves tile:Early Heian Period:Obadera
 414 round eaves tile:Late Heian Period:kongoji
 415 round eaves tile:Late Heian Period:Hikisho
 416 round eaves tile:Late Heian Period:Hikisho
 417 flat eaves tile:Late Heian Period:Kongoji
 418 flat eaves tile:Late Heian Period:Nishioji
 419 tile:Nara Period:Tanjo
 420 Buddha image in relief on tile:Late Asuka Period:Obadera
 421 domestic coins minted in 708AD and 760AD and
 765AD:Nara Period:Joyama
 422 domestic coins minted in 766AD :Early Heian Period;
 Kamifuji
 423 bronze seal:Early Heian Period:Obadera
 424 bronze mirror:Early Heian Period:Osakaajoato
 425 bronze rattle:Middle Heian Period:Ishikawa-fukumanji
 426 harrow:Middle-Late Heian Period:Ishikawa-fukumanji
 427 iron knife with grip made of antler:Late Asuka Period:
 Kamei
 428 clay imitation of cooking kiln:Late Nara Period;
 Kameikita
 429 clay imitation of cooking kiln:Late Nara Period:Kosaka
 430 clay horse:Late Asuka Period:Joyama
 431 round inkstone:Early Nara Period:Obadera
 432 round inkstone:Nara Period:Shinpujui
 433 round inkstone:Nara-Heian Period:Nishurabashi
 434 crucibles:Early Nara Period:Tai
 435 tuyere :Early Nara Period:Tai
 436 mould for bronze plate:Late Heian Period:Hikisho
 437 round crystal bead with two holes drilled perpendicularly:
 Early Heian Period:Osakaajoato
 438 archer's round wrist guard:Early Heian Period:Tai
 439 rectangular-shaped belt plaque:Early Heian Period:Tanjo
 440 rectangular-shaped belt plaque:Early Heian Period;
 Nishioji
 441 rectangular-shaped belt plaque:Early Heian Period;
 Ikedadera
 442 ritual wooden blade:Early Nara Period:Manzakiike
 443 paddy field clogs:Heian Period:Nishioji
 444 wooden tablet:Late Asuka Period:Sado
 445 pottery with inscriptions in black ink:Late Asuka
 Period:Joyama
 446 pottery with inscriptions in black ink:Middle Nara
 Period:Minokui
 447 pottery with inscriptions in black ink:Middle Nara
 Period:Obadera
 448 pottery with inscriptions in black ink:Late Nara
 Period:Minokoshi
 449 pottery with inscriptions in black ink:Late Nara
 Period:Tayama
 450 pottery with inscriptions in black ink:Early Heian
 Period:Nagahara
 451 pottery with inscriptions in black ink:Early Heian
 Period:Kannonji
 452 pottery with inscriptions in black ink:Early Heian
 Period:Sado
 453 pottery with inscriptions in black ink:Middle Heian
 Period:Ishikawa-fukumanji
 454 roof tile with incised characters:Late Asuka Period;
 Ikedadera
 455 tile with incised characters:Middle Heian Period:Kyuhofu
 456 pottery with human face in black ink:Early Nara
 Period:Nishioji
 457 horse skull:Middle Nara Period:Joyama
 458 fumed ware:Middle Kamakura Period:Kannonji
 459 Haji wares(plate):Early Muromachi Period:Kannonji
 460 Haji wares(small plate):Middle Kamakura Period;
 Kongoji
 461 Haji ware (flanged kettle):Middle Kamakura Period;

	Nagahara		Middle Edo Period;Hishikishimo
462	fumed ware (kettle with legs);Middle Kamakura Period; Sado	494	Kratsu cup;Early Edo Period;Kongoji
463	fumed ware(bowl with pouring lip);Late Muromachi Period;Midoro	495	brown glazed tea cup;Early Edo Period;Midoro
464	fumed wares(flowers bottle for buddhist ceremony); Early Muromachi Period;Hikisho	496	blue and white porcelain made in China;Late Momoyama-Edo Period;Osakajoato
465	Tokoname pot;Middle Kamakura Period;Hikisho	497	white porcelain(vessel for bones);Early Edo Period; Kongoji
466	Seto iron glazed bottle;Early Muromachi Period;Tai	498	bowl used by Japanese army;Modern Period; Shiki,Uedaik
467	celand(cup);Early Kamakura Period;Hikisho	499	roof tile decorated with thin pieces of gold; Middle Momoyama Period;Osakajoato
468	celand(cup);Late Kamakura Period;Nagahara	500	roof tile with relief of family mark; Late Momoyama Period;Osakajoato
469	celand (cup);Late Kamakura Period;Hashimoto	501	roof tile designed paulownia crest; Middle Momoyama Period;Osakajoato
470	white porcelain(cup);Early Kamakura Period;Nagahara	502	silver coin ;Late Momoyama Period;Osakajoato
471	octopus trap;Early Muromachi Period;Tayama	503	Buddist image;Late Momoyama Period;Osakajoato
472	stupa-designed round eaves tile;Early Kamakura Period; Hikisho	504	pipe ;Middle Momoyama Period;Osakajoato
473	terminal ridge-end tile: Final Heian-Muromachi Period; Hikisho	505	iron arrowhead;Middle Momoyama Period;Osakajoato
474	decorating bronze object gilded with gold; Early Muromachi Period;Hikisho	506	round chisel;Early Edo Period;Minoba
475	folk shaped arrowheads;Late Kamakura Period; Ikshima-fukumanji	507	chisel;Early Edo Period;Minoba
476	iron kettle;Early-Late Kamakura Period;Hikisho	508	bullet;Late Momoyama Period;Osakajoato
477	fumed clay figure with image of priest;Early Muromachi Period;Hikisho	509	clay dog;Middle Momoyama Period;Osakajoato
478	tuyere ;Early Kamakura Period;Shinpuuji	510	hearth for melting metals;Middle Momoyama Period; Osakajoato
479	hearth for melting metals,mould(for pot); Early Kamakura Period;Shinpuuji	511	stone mortar;Late Edo Period;Kongoji
480	mould (for pot);Early Kamakura Period;Shinpuuji	512	unfinished stone mortar;Early Edo Period;Minoba
481	moulds(for plate,bell and kettle);Early Kamakura Period;Shinpuuji	513	ink stone;bronze water pitcher;Late Momoyama Period;Osakajoato
482	clay weights;Early Muromachi Period;Tayama	514	leather object covered with pieces of gold; Middle Momoyama Period;Osakajoato
483	kettle made of steatite;Early Kamakura Period; Hishikishimo	515	laquered cup coating;Late Momoyama Period; Osakajoato
484	turtle-shaped stone object;Late Kamakura Period; Hishikishimo	516	human figure charm;Late Momoyama Period;Osakajoato
485	tomb stone in five parts symbolizing the earth,water, fire,wind and air;Early Muromachi Period;Tayama	517	clags;Edo Period;Oha
486	round vessel formed by bending thin wooden sheet; Middle Muromachi Period;Midoro	518	Shogi pieces;Momoyama Period;Osakajoato
487	lamp stand with incised characters;Early Muromachi Period;Kannonji	519	roof tile with incised characters: Middle Edo Period; Kongoji
488	roof tile with incised characters;Late Muromachi Period; Kongoji	520	wooden tablet ;Late Momoyama Period;Osakajoato
489	tablet for magical ceremony;Early Kamakura Period; Kannonji	521	wooden tablets with sutra;Late Momoyama Period; Osakajoato
490	Haji wares (plate);Middle Edo Period;Kannonji		
491	pots for roasting salt;Late Momoyama-Edo Period; Osakajoato		
492	domestic ceramics in Momoyama Period; Middle-Late Momoyama Period;Osakajoato		
493	fumed pottery(bowl for hand-warming);		

Size codes of relics (cm)

RD:rim diameter	rd:estimated rim diameter
D:diameter	d:estimated diameter
MD:maximal diameter	md:estimated maximal diameter
BD:bottom diameter	bd:estimated bottom diameter
H:height	h:estimated height
W:width	w:estimated width
L:length	l:estimated length

あ と が き

4月1日に発足した新法人の各課・調査事務所から選出された委員が集まり、記念の出版物を刊行するための第1回会議を開催したのは本年6月5日であった。以来、出版物の内容を決め、技術系職員全員が参加することとし、また本年12月2日に開催される新法人発足記念シンポジウムに刊行日程を設定して、実務を進め会議を重ねてきた。

今ようやく刊行の目途がつくに到ったが、この間、委員会の進め方にもしも強引なところがあったとすれば、先の事情のもとでのことであり、職員諸兄姉の御寛恕をお願いする。

なお本書のできばえについては大方の御高評を待つのみであるが、かつて聞いた、ある高名な研究者の「出れば90点」という言葉を、委員会の精神のよりどころとしている。

また、英文インデックス校閲ほかの編集作業において、(財)大阪市文化財協会岡村勝行氏、同(非常勤職員)ロバート=コンデン氏、香芝市二上山博物館佐藤良二氏にご援助を得た。お礼申しあげたい。

1995年9月11日

(財)大阪府文化財調査研究センター
発足記念出版物刊行委員会

執筆	赤木克規	秋山浩三	石神幸子	市本芳三	井藤暁子	伊藤 武
	井藤 徹	井上智博	入江正則	岩崎二郎	江浦 洋	大谷治孝
	大野 薫	大野路彦	岡戸哲紀	岡本圭司	岡本茂史	小野久隆
	金光正裕	亀井 聡	川瀬貴子	久家隆芳	園乗和雄	合田幸美
	後藤信義	駒井正明	佐伯信之	佐伯博光	三宮昌弘	信田真美世
	島崎久恵	新海正博	鎌柄俊夫	田中一廣	田中龍男	田淵和代
	玉井 功	坪田 恵	寺川史郎	奈加智美	中川義朗	中西靖人
	長原 亘	中村淳哉	仁木昭夫	西村 歩	野田 繁	畑 暢子
	服部みどり	福岡澄男	福田英人	藤田憲司	本田奈都子	本間元樹
	溝川陽子	三好孝一	村上富喜子	村上年生	村田幸子	森本 徹
	森屋美佐子	山口誠治	山元 建	若林邦彦	渡辺典子	
写真	片山彰一	立花正治	平井貞子			
イラスト・編集協力	奈加	島崎 久家				
編集	福岡 金光	片山	白武さよ子	秋山	川瀬 若林	村田

摂 河 泉 発 掘 資 料 精 選

発 行 財団法人 大阪府文化財調査研究センター ©

1995.12.1 〒536 大阪市城東区瀬生2丁目11番3号

小森ビル TEL 06-785-4531

表 紙 シンボルマーク：美園古墳家形埴輪（本書II部315参照）

印刷・製本 株式会社 中島弘文堂印刷所

裏表紙 カット：仏堂遺跡土面（本書II部048参照）